

第 10 章

環境影響の総合的な評価

第10章 環境影響の総合的な評価

10.1 対象事業に係る環境影響の総合評価

対象事業に係る環境影響についての調査、予測、環境保全措置及び評価の総合評価を表10-1(1)～表10-4(2)に示す。

表 10-1(1) 工事用資材等の搬出入

選定項目	調査結果の概要・講じようとする環境保全措置											
騒音	<p>(調査結果の概要)</p> <p>(1) 騒音の状況 ヘリコプターの運航に係る最寄りの住居の周辺と近隣の徳間集落になる公民館の2地点における調査結果は、下表のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">騒音調査結果 (L_{Aeq})</p> <p style="text-align: center;">調査期間：令和3年1月21日12時～22日12時 (単位：デシベル)</p> <table border="1" data-bbox="327 504 1396 667"> <thead> <tr> <th rowspan="2">調査地点</th> <th colspan="2">時間区分</th> </tr> <tr> <th>昼間</th> <th>夜間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>近隣住居周辺</td> <td>42</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>徳間公民館</td> <td>41</td> <td>38</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：1. 時間区分は、「騒音に係る環境基準について」に基づき、昼間が6時～22時、夜間が22時～翌日6時とした。 2. 「静穏」は、0.4m/s以下を示す。</p> <p>(講じようとする環境保全措置)</p> <p>回避 ・近隣住居への影響を考慮し、極力住居から離れた飛行ルートを選択する。</p> <p>最小化 ・可能な範囲で高高度飛行する計画とする。 ・可能な範囲で速度を抑えた飛行とする。</p>	調査地点	時間区分		昼間	夜間	近隣住居周辺	42	40	徳間公民館	41	38
調査地点	時間区分											
	昼間	夜間										
近隣住居周辺	42	40										
徳間公民館	41	38										

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

ヘリコプターの運航に伴う騒音の予測結果は、予測地点としたヘリコプター飛行経路最寄りの住居では、 L_{den} の値が49デシベルである。

(評価の概要)

ヘリコプターの運航に伴う航空機騒音について、対象事業実施区域周辺に航空機騒音に係る基準値である L_{den} の値が57デシベル、62デシベルをそれぞれ超えると予測される範囲が見られるが、対象事業実施区域周辺は類型指定がなされておらず、またこの範囲内に保全対象となる住居等は存在していないことから、影響を回避できるものと予測した。また、さらなる配慮を行うため、環境保全措置として、飛行経路の配慮、高高度及び速度を抑えた飛行の導入の促進によりさらなる低減を図るとした。

環境保全についての配慮は適正に行われ、事業者の実行可能な範囲で環境への影響ができる限り緩和されていると評価する。

表 10-2(1) 造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	調査結果の概要・講じようとする環境保全措置																																																																																															
植物	<p>(調査結果の概要)</p> <p>(1) 植物相の状況 南部町における文献その他の資料調査、対象事業実施区域及びその周辺における現地調査で確認された植物相の状況は、下表のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">植物相の確認状況の概要</p> <table border="1" data-bbox="344 443 1377 958"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="344 443 879 546" rowspan="2">分類</th> <th colspan="2" data-bbox="879 443 1129 506">現地調査</th> <th colspan="2" data-bbox="1129 443 1377 506">文献その他の資料調査</th> </tr> <tr> <th data-bbox="879 506 1002 546">科数</th> <th data-bbox="1002 506 1129 546">種数</th> <th data-bbox="1129 506 1252 546">科数</th> <th data-bbox="1252 506 1377 546">種数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="2" data-bbox="344 546 879 618">シダ植物</td> <td data-bbox="879 546 1002 618">23</td> <td data-bbox="1002 546 1129 618">120</td> <td data-bbox="1129 546 1252 618">23</td> <td data-bbox="1252 546 1377 618">100</td> </tr> <tr> <td data-bbox="344 618 627 907" rowspan="4">種子植物</td> <td data-bbox="627 618 879 674">裸子植物</td> <td data-bbox="879 618 1002 674">5</td> <td data-bbox="1002 618 1129 674">14</td> <td data-bbox="1129 618 1252 674">6</td> <td data-bbox="1252 618 1377 674">23</td> </tr> <tr> <td data-bbox="627 674 879 745" rowspan="3">被子植物</td> <td data-bbox="879 674 1002 745">基部被子植物</td> <td data-bbox="1002 674 1129 745">7</td> <td data-bbox="1129 674 1252 745">26</td> <td data-bbox="1252 674 1377 745">7</td> <td data-bbox="1377 674 1455 745">26</td> </tr> <tr> <td data-bbox="879 745 1002 826">単子葉類</td> <td data-bbox="1002 745 1129 826">24</td> <td data-bbox="1129 745 1252 826">222</td> <td data-bbox="1252 745 1377 826">23</td> <td data-bbox="1377 745 1455 826">250</td> </tr> <tr> <td data-bbox="879 826 1002 907">真正双子葉類</td> <td data-bbox="1002 826 1129 907">100</td> <td data-bbox="1129 826 1252 907">717</td> <td data-bbox="1252 826 1377 907">104</td> <td data-bbox="1377 826 1455 907">753</td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="344 907 879 958">合計</td> <td colspan="2" data-bbox="879 907 1129 958">159科1,099種</td> <td colspan="2" data-bbox="1129 907 1377 958">163科1,152種</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 重要な種及び重要な群落 文献その他の資料調査及び現地調査において確認された保全すべき種及び保全すべき植物群落は、下表のとおりである。 なお、保全すべき植物群落は対象事業実施区域内では確認されなかった。</p> <p style="text-align: center;">保全すべき種(1)</p> <table border="1" data-bbox="488 1182 1232 2004"> <thead> <tr> <th data-bbox="488 1182 598 1352" rowspan="2">分類</th> <th data-bbox="598 1182 826 1352" rowspan="2">種名(科名)</th> <th colspan="2" data-bbox="826 1182 1051 1234">確認位置</th> <th colspan="2" data-bbox="1051 1182 1232 1234">選定根拠</th> </tr> <tr> <th data-bbox="826 1234 938 1352">対象事業実施区域</th> <th data-bbox="938 1234 1051 1352">対象事業実施区域外</th> <th data-bbox="1051 1234 1139 1352">全国</th> <th data-bbox="1139 1234 1232 1352">山梨県</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="488 1352 598 2004" rowspan="8">シダ植物</td> <td data-bbox="598 1352 826 1429">マツバラシダ (マツバラシダ科)</td> <td data-bbox="826 1352 938 1429">○</td> <td data-bbox="938 1352 1051 1429">-</td> <td data-bbox="1051 1352 1139 1429">③NT</td> <td data-bbox="1139 1352 1232 1429">⑤CR</td> </tr> <tr> <td data-bbox="598 1429 826 1505">タキシダ (イノモトソウ科)</td> <td data-bbox="826 1429 938 1505">○</td> <td data-bbox="938 1429 1051 1505">-</td> <td data-bbox="1051 1429 1139 1505">③EN</td> <td data-bbox="1139 1429 1232 1505">⑤CR</td> </tr> <tr> <td data-bbox="598 1505 826 1581">アマクサシダ (イノモトソウ科)</td> <td data-bbox="826 1505 938 1581">○</td> <td data-bbox="938 1505 1051 1581">○</td> <td data-bbox="1051 1505 1139 1581"></td> <td data-bbox="1139 1505 1232 1581">⑤VU</td> </tr> <tr> <td data-bbox="598 1581 826 1657">チャセンシダ (チャセンシダ科)</td> <td data-bbox="826 1581 938 1657">○</td> <td data-bbox="938 1581 1051 1657">-</td> <td data-bbox="1051 1581 1139 1657"></td> <td data-bbox="1139 1581 1232 1657">⑤EN</td> </tr> <tr> <td data-bbox="598 1657 826 1733">イヌチャセンシダ (チャセンシダ科)</td> <td data-bbox="826 1657 938 1733">○</td> <td data-bbox="938 1657 1051 1733">-</td> <td data-bbox="1051 1657 1139 1733"></td> <td data-bbox="1139 1657 1232 1733">⑤EN</td> </tr> <tr> <td data-bbox="598 1733 826 1809">ハシゴシダ (ヒメシダ科)</td> <td data-bbox="826 1733 938 1809">○</td> <td data-bbox="938 1733 1051 1809">-</td> <td data-bbox="1051 1733 1139 1809"></td> <td data-bbox="1139 1733 1232 1809">⑤VU</td> </tr> <tr> <td data-bbox="598 1809 826 1886">コモチシダ (シシガシラ科)</td> <td data-bbox="826 1809 938 1886">○</td> <td data-bbox="938 1809 1051 1886">○</td> <td data-bbox="1051 1809 1139 1886"></td> <td data-bbox="1139 1809 1232 1886">⑤VU</td> </tr> <tr> <td data-bbox="598 1886 826 2004">ヘラシダ (メシダ科)</td> <td data-bbox="826 1886 938 2004">○</td> <td data-bbox="938 1886 1051 2004">○</td> <td data-bbox="1051 1886 1139 2004"></td> <td data-bbox="1139 1886 1232 2004">⑤EN</td> </tr> </tbody> </table>	分類		現地調査		文献その他の資料調査		科数	種数	科数	種数	シダ植物		23	120	23	100	種子植物	裸子植物	5	14	6	23	被子植物	基部被子植物	7	26	7	26	単子葉類	24	222	23	250	真正双子葉類	100	717	104	753	合計		159科1,099種		163科1,152種		分類	種名(科名)	確認位置		選定根拠		対象事業実施区域	対象事業実施区域外	全国	山梨県	シダ植物	マツバラシダ (マツバラシダ科)	○	-	③NT	⑤CR	タキシダ (イノモトソウ科)	○	-	③EN	⑤CR	アマクサシダ (イノモトソウ科)	○	○		⑤VU	チャセンシダ (チャセンシダ科)	○	-		⑤EN	イヌチャセンシダ (チャセンシダ科)	○	-		⑤EN	ハシゴシダ (ヒメシダ科)	○	-		⑤VU	コモチシダ (シシガシラ科)	○	○		⑤VU	ヘラシダ (メシダ科)	○	○		⑤EN
分類				現地調査		文献その他の資料調査																																																																																										
		科数	種数	科数	種数																																																																																											
シダ植物		23	120	23	100																																																																																											
種子植物	裸子植物	5	14	6	23																																																																																											
	被子植物	基部被子植物	7	26	7	26																																																																																										
		単子葉類	24	222	23	250																																																																																										
		真正双子葉類	100	717	104	753																																																																																										
合計		159科1,099種		163科1,152種																																																																																												
分類	種名(科名)	確認位置		選定根拠																																																																																												
		対象事業実施区域	対象事業実施区域外	全国	山梨県																																																																																											
シダ植物	マツバラシダ (マツバラシダ科)	○	-	③NT	⑤CR																																																																																											
	タキシダ (イノモトソウ科)	○	-	③EN	⑤CR																																																																																											
	アマクサシダ (イノモトソウ科)	○	○		⑤VU																																																																																											
	チャセンシダ (チャセンシダ科)	○	-		⑤EN																																																																																											
	イヌチャセンシダ (チャセンシダ科)	○	-		⑤EN																																																																																											
	ハシゴシダ (ヒメシダ科)	○	-		⑤VU																																																																																											
	コモチシダ (シシガシラ科)	○	○		⑤VU																																																																																											
	ヘラシダ (メシダ科)	○	○		⑤EN																																																																																											

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

本事業は、送電線増強計画であり、送電設備は、全て対象事業実施区域内に設置する。

よって、事業の実施により植物の生育環境に影響が及ぶのは、対象事業実施区域に生育する植物、及び樹木の伐採に伴う新規林縁の出現による環境の変化の影響を受ける植物となる。

このことから予測の対象は、現地調査において対象事業実施区域及び新規林縁となる範囲で確認した保全すべき種の58種（不明種を含む）とした。

なお、保全すべき植物群落は確認されなかった。

事業の実施による植物への影響の予測結果(1)

種名	予測結果
マツバラシダ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の中央付近の道端や竹林下の5地点で計17株確認した。 生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
タキミシダ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域西側の谷部の石や石垣の2地点で計6株確認した。 生育地が改変域に近接していることから、新規林縁となる1地点5株の生育地が影響を受けると予測する。 影響範囲外で確認された1地点1株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育地への影響はほとんどないものと予測する。
アマクサシダ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の中央から東寄りの林縁や岩場などの11地点で計41株確認した。 新規林縁となる3地点計4株の生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。 影響範囲外で確認された13地点計64株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
チャセンシダ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域西側の道路脇の石垣や林内の岩場の5地点で計26株確認した。 新規林縁となる1地点1株の生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。 影響範囲外で確認された4地点計25株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
イヌチャセンシダ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域西側の林内や林縁の岩場、橋の上などの7地点で計31株確認した。 生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持することから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
ハシゴシダ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の中央やや東寄りの道端や林縁の2地点で計4株確認した。 改変域の1地点1株の生育地が影響を受けると予測する。 影響範囲外で確認された1地点3株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
コモチシダ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域中央から東側の林縁の法面などの9地点で計23株確認した。 改変域の1地点1株の生育地が影響を受けるが、影響範囲外で25株確認されており、これらの株は現状のまま維持されることから、生育個体群の影響は少ないものと予測する。 新規林縁となる3地点計3株の生育地については、本種は林縁にも生育する種であることから生育への影響は少ないものと予測する。 影響範囲外で確認された9地点計25株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
ヘラシダ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域東側の林内の2地点で計3株確認した。 生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持することから、生育への影響はほとんどないものと予測する。

表 10-2(2) 造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	調査結果の概要・講じようとする環境保全措置					
植物	(調査結果の概要)					
	保全すべき種(2)					
	分類	種名(科名)	確認位置		選定根拠	
			対象事業 実施区域	対象事業 実施区域外	全 国	山梨県
	シダ植物	オオカナワラビ (オシダ科)	○	○		⑤EN
		ハカタシダ (オシダ科)	○	○		⑤NT
		イワヘゴ (オシダ科)	○	-		⑤CR
		ヒメカナワラビ (オシダ科)	○	-		⑤EN
		サジラン (ウラボシ科)	○	-		⑤VU
		ヒメサジラン (ウラボシ科)	○	-		⑤EN
		クリハラン (ウラボシ科)	○	-		⑤CR
種子植物	シキミ (マツブサ科)	○	○		⑤VU	
	サネカズラ (マツブサ科)	○	○		⑤VU	

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

事業の実施による植物への影響の予測結果(2)

種名	予測結果
オオカナワラビ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の広い範囲の林内や林縁の法面の18地点で計29株確認した。 改変域の1地点1株の生育地が影響を受けるが、影響範囲外で29株確認されており、これらの株は現状のまま維持されることから、生育個体群の影響は少ないものと予測する。 新規林縁となる1地点1株の生育地が影響を受ける可能性がある。 影響範囲外で確認された18地点計29株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
ハカタシダ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域西側と東側の林内や林縁の15地点で計58株確認した。 改変域の1地点1株の生育地が影響を受けるが、影響範囲外で63株確認されており、これらの株は現状のまま維持されることから、生育個体群の影響は少ないものと予測する。 新規林縁となる2地点計3株の生育地が影響を受ける可能性がある。 影響範囲外で確認された19地点計63株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
イワヘゴ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域西側の沢沿いの1地点で1株確認した。 生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持することから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
ヒメカナワラビ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域西側の橋の上1地点で4株確認した。 生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持することから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
サジラン	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域西側の沢沿いの岩場や橋脚など11地点で計92株確認した。 生育地が改変域に近接していることから、新規林縁となる2地点計43株の生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。 影響範囲外で確認された9地点計49株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
ヒメサジラン	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域西側の谷の岩場1地点で3株確認した。 生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持することから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
クリハラン	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域東側の林内の水路の2地点で計27株確認した。 生育地点は改変域であるが、水路内の擁壁に生育しているため、工事による直接的な改変は回避されるものの、周辺が改変されることにより新規林縁と同様に生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。
シキミ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の主に西側と中央付近の林内、林縁、伐採跡地などの39地点で計326株確認した。 改変域の11地点計106株の生育地が影響を受けると予測する。 新規林縁となる11地点計78株の生育地については、本種は林縁や伐採跡地等にも生育していることから、影響は少ないものと予測する。 影響範囲外でも31地点計289株の生育が確認され、生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
サネカズラ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域中央や東側の林縁の4地点で計6株確認した。 改変域の2地点計4株の生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。 新規林縁となる1地点1株の生育地については、本種は林縁にも生育する種であることから、生育への影響は少ないものと予測する。 影響範囲外で確認された4地点計4株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。

表 10-2(3) 造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	調査結果の概要・講じようとする環境保全措置					
植物	(調査結果の概要)					
	保全すべき種(3)					
	分類	種名(科名)	確認位置		選定根拠	
			対象事業 実施区域	対象事業 実施区域外	全 国	山 梨 県
	種子植物	ランヨウアオイ (ウマノスズクサ科)	○	-		⑤EN
		カギガタカンアオイ (ウマノスズクサ科)	-	○	③EN	⑤VU
		カンアオイ属の一種 (ウマノスズクサ科)	○	○		
		カナクギノキ (クスノキ科)	○	○		⑤VU
		カゴノキ (クスノキ科)	○	-		⑤VU
		ウラシマソウ (サトイモ科)	○	○		⑤NT
		ホンゴウソウ (ホンゴウソウ科)	○	-	③VU	
		シラン (ラン科)	○	○	③NT	⑤CR
		エビネ (ラン科)	○	○	③NT	⑤VU
		ギンラン (ラン科)	○	-		⑤VU
キンラン (ラン科)		○	-	③VU	⑤EN	
クマガイソウ (ラン科)		○	○	③VU	⑤EN	

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

事業の実施による植物への影響の予測結果(3)

種名	予測結果
ランヨウアオイ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の池ノ山以東の草地～林内の22地点で計234株確認した。 変更域の4地点計20株の生育地が影響を受けるが、影響範囲外で110株確認されており、これらの株は現状のまま維持されることから、生育個体群の影響は少ないものと予測する。 新規林縁となる16地点計104株の生育地については、本種は林縁にも生育する種であることから、影響は少ないものと予測する。 影響範囲外で確認された2地点計110株の生育地は変更域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
カンアオイ属の一種	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の広い範囲の林縁や林内の15地点で計256株確認した。 変更域の3地点計61株の生育地が影響を受けると予測する。 新規林縁となる4地点計9株の生育地については、本種は林縁にも生育する種であることから、生育への影響は少ないものと予測する。 影響範囲外で確認された9地点計216株の生育地は変更域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
カナクギノキ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の主に中央から西側の17地点で計31株確認した。 変更域の8地点計12株の生育地が影響を受けると予測する。 新規林縁となる5地点計15株の生育地については、本種は林縁にも生育する種であることから、生育への影響は少ないものと予測する。 影響範囲外で確認された6地点計7株の生育地は変更域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
カゴノキ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の東側の林内の水路の1地点で1株確認した。 生育地は変更域であるが、水路内の擁壁に生育しているため、工事による直接的な変更は回避されるもの、新規林縁と同様に生育地が影響を受けると予測する。
ウラシマソウ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の主に東側の林内や林縁の33地点で計540株確認した。 変更域の2地点計2株の生育地が影響を受けるが、影響範囲外で671株確認されており、これらの株は現状のまま維持されることから、生育個体群の影響は少ないものと予測する。 新規林縁となる7地点計32株の生育地については、本種は野原や林縁にも生育する種であることから、影響は少ないものと予測する。 影響範囲外で確認された30地点計671株の生育地は変更域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
ホンゴウソウ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の西根熊南側や下村南側の林内の6地点で計45株確認した。 変更域の6地点計45株の生育地が影響を受ける可能性があると予測する。
シラン	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の道路法面上部や富士川河川敷内の岩場の2地点で計202株確認した。 生育地は変更域や新規林縁には含まれず現状のまま維持することから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
エビネ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の広い範囲の林内や林縁、草地の24地点で計331株確認した。 変更域の3地点計24株の生育地が影響を受け、新規林縁となる9地点計150株の生育地が影響を受ける可能性があると予測する。 影響範囲外で確認された15地点計363株の生育地は変更域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
ギンラン	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の広い範囲の林内や林縁の14地点で計56株確認した。 変更域の3地点計5株の生育地が影響を受けるが、影響範囲外で46株確認されており、これらの株は現状のまま維持されることから、生育個体群の影響は少ないものと予測する。 新規林縁となる3地点計5株の生育地が影響を受ける可能性があると予測する。 影響範囲外で確認された8地点計46株の生育地は変更域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
キンラン	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の東側や東根熊付近の林内の3地点で計3株確認した。 変更域の1地点1株の生育地が影響を受ける可能性があると予測する。 影響範囲外で確認された2地点計2株の生育地は変更域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
クマガイソウ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の池ノ山付近と西側の林内の2地点で計15株確認した。 変更域の1地点5株の生育地が影響を受ける可能性があると予測する。 影響範囲外で確認された3地点計13株の生育地は変更域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。

表 10-2(4) 造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	調査結果の概要・講じようとする環境保全措置					
植物	(調査結果の概要)					
	保全すべき種(4)					
	種子植物	種名(科名)	確認位置		選定根拠	
			対象事業 実施区域	対象事業 実施区域外	全 国	山 梨 県
		ベニシユスラン (ラン科)	○	○		⑤EN
		ヤクシマヒメアリドオ シラン (ラン科)	—	○	③NT	
		ハクウンラン属の一種 (ラン科)	○	—		
		コ克蘭 (ラン科)	○	○		⑤EN
		ヨウラクラン (ラン科)	○	○		⑤VU
		クモラン (ラン科)	○	○		⑤CR
		カヤラン (ラン科)	○	○		⑤EN
		ヒトツボクロ (ラン科)	○	—		⑤VU
		ヒオウギ (アヤメ科)	○	○		⑤EN
ハナミョウガ (ショウガ科)		○	○		⑤VU	
ムベ (アケビ科)	○	—		⑤EN		

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

事業の実施による植物への影響の予測結果(4)

種名	予測結果
ベニシュスラン	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の中央から西側の林内の22地点で計142株確認した。 改変域の3地点計16株の生育地が影響を受け、新規林縁となる8地点計91株の生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。 影響範囲外で確認された12地点計36株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
ハクウンラン属 の一種	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の下村の南側の林内の1地点で1株確認した。 確認場所が改変域の1地点1株であり、生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。
コクラン	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の西側の高標高域を除いた広い範囲の林内や林縁の47地点で計125株確認した。 改変域の15地点計46株の生育地が影響を受け、新規林縁となる15地点計52株の生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。 影響範囲外で確認された33地点計46株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
ヨウラクラン	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の主に東根熊付近や西側の林内など5地点で計6株確認した。 改変域の1地点1株の生育地が影響を受けるが、影響範囲外で41株確認されており、これらの株は現状のまま維持されることから、生育個体群の影響は少ないものと予測する。 新規林縁となる4地点計5株の生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。 影響範囲外で確認された2地点計41株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
クモラン	<ul style="list-style-type: none"> 新規林縁となる1地点計1株の生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。 影響範囲外で確認された4地点計19株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
カヤラン	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域東側の林内の5地点で計5株確認した。 改変域の1地点1株の生育地が影響を受けるが、影響範囲外で29株確認されており、これらの株は現状のまま維持されることから、生育個体群の影響は少ないものと予測する。 新規林縁となる2地点計2株の生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。 影響範囲外で確認された7地点計29株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
ヒトツボクロ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域西側の尾根上の1地点で1株確認した。 生育地が改変域に近接していることから、新規林縁となる本生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。
ヒオウギ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域西側の伐採跡地などの6地点で計272株確認した。 改変域の4地点計263株の生育地が影響を受けるが、影響範囲外で1,534株確認されており、これらの株は現状のまま維持されることから、生育個体群の影響は少ないものと予測する。 新規林縁となる1地点5株の生育地については、本種は草原に生育する種であることから、影響は少ないものと予測する。 影響範囲外で確認された4地点計1,534株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
ハナミョウガ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の富士川と福土川間の地域の林内や林縁の23地点で計213株確認した。 改変域の7地点計8株の生育地が影響を受けるが、影響範囲外で233株確認されており、これらの株は現状のまま維持されることから、生育個体群の影響は少ないものと予測する。 新規林縁となる5地点計6株の生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。 影響範囲外で確認された33地点計233株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
ムベ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の根熊付近の2地点で計3株確認した。 生育地が改変域に近接している新規林縁に2地点計3株確認されているが、本種は林縁に生育する種であることから生育への影響は少ないものと予測する。

表 10-2(5) 造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	調査結果の概要・講じようとする環境保全措置					
植物	(調査結果の概要)					
	保全すべき種(5)					
	分 類	種名(科名)	確認位置		選定根拠	
			対象事業 実施区域	対象事業 実施区域外	全 国	山 梨 県
	種子植物	ツルシロカネソウ (キンボウゲ科)	○	-		⑤NT
		ユズリハ (ユズリハ科)	○	○		⑤EN
		ハナネコノメ (ユキノシタ科)	○	-		⑤EN
		ムカゴネコノメソウ (ユキノシタ科)	○	○	③NT	
		ジンジソウ (ユキノシタ科)	○	-		⑤NT
		イワユキノシタ (ユキノシタ科)	○	-		⑤NT
		アリノトウグサ (アリノトウグサ科)	○	○		⑤EN
		イタビカズラ (クワ科)	○	-		⑤VU
		トキホコリ (イラクサ科)	○	-	③VU	
		カナウツギ (バラ科)	-	○		⑤VU
コミヤマスミレ (スマレ科)		○	-		⑤VU	
ミズマツバ (ミソハギ科)		-	○	③VU		
ゴンズイ (ミツバウツギ科)		○	○		⑤EN	

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

事業の実施による植物への影響の予測結果(5)

種名	予測結果
ツルシロカネソウ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域外西側の沢沿いの岩場など8地点で計43株確認した。 改変域の2地点計9株の生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。 影響範囲外で確認された6地点計34株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
ユズリハ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の南又付近の4地点で計8株確認した。 改変域の2地点5株の生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。 新規林縁となる1地点2株の生育地については、本種は林縁にも生育する種であることから、影響は少ないものと予測する。 影響範囲外で確認された8地点計18株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
ハナネコノメ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域西側の沢沿いの8地点で計116株確認した。 生育地が改変域に近接していることから、新規林縁となる2地点20株の生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。 影響範囲外で確認された6地点計96株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
ムカゴネコノメソウ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域西側の沢沿いや道端の湿った立地の5地点で計150株確認した。 改変域の1地点100株の生育地が影響を受け、新規林縁となる1地点20株の生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。 影響範囲外で確認された4地点計50株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
ジンジソウ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域西側の沢沿いの10地点で計57株確認した。 改変域の1地点1株の生育地が影響を受けるが、影響範囲外で56株確認されており、これらの株は現状のまま維持されることから、生育個体群の影響は少ないものと予測する。 影響範囲外で確認された9地点計56株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
イワユキノシタ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域西側の沢沿いの4地点で計335株確認した。 新規林縁となる1地点計15株の生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。 影響範囲外で確認された3地点計320株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
アリノトウグサ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の中央や東側の草地や伐採跡地、林縁の6地点で計879株確認した。 生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
イタビカズラ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の中央や西側の林床や岩場の9地点で計14株確認した。 改変域の1地点計1株の生育地が影響を受けるが、影響範囲外で11株確認されており、これらの株は現状のまま維持されることから、生育個体群の影響は少ないものと予測する。 新規林縁となる2地点計2株の生育地については、本種は林縁にも生育する種であることから、生育地への影響は少ないものと予測する。 影響範囲外で確認された6地点計11株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
トキホコリ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の東根熊南東側の谷の2地点で計130株確認した。 生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持することから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
コミヤマスマレ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の西側の林内や林縁の10地点で計301株確認した。 改変域の1地点30株の生育地が影響を受け、新規林縁となる7地点計257株の生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。 影響範囲外で確認された2地点計14株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
ゴンズイ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の主に下村から東側の草地や伐採跡地などの24地点で計36株確認した。 改変域の8地点計17株の生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。 新規林縁に生育する6地点計6株の生育地については、本種は先駆種であり、林縁や伐採跡地にも生育する種でもあることから、影響は少ないものと予測する。 影響範囲外で確認された15地点計18株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。

表 10-2(6) 造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	調査結果の概要・講じようとする環境保全措置					
植物	(調査結果の概要)					
	保全すべき種(5)					
	分類	種名(科名)	確認位置		選定根拠	
			対象事業 実施区域	対象事業 実施区域外	全 国	山梨県
	種子植物	カラスザンショウ (ミカン科)	○	○		⑤VU
		アリドオン (アカネ科)	○	○		⑤CR
		シロバナイナモリソウ (アカネ科)	○	-		⑤EN
		センブリ (リンドウ科)	○	-		⑤NT
		タチキランソウ (シソ科)	○	-	③NT	
		ミゾコウジュ (シソ科)	○	-	③NT	⑤VU
		ナンバンギセル (ハマウツボ科)	○	○		⑤DD
イワシャジン (キキョウ科)		○	-		⑤VU	
ツルカノコソウ (スイカズラ科)		○	-		⑤VU	
合計	60種	57種	30種	14種	54種	
選定根拠						
<p>①「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)等により指定されているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国指定特別天然記念物(国特天) ・国指定天然記念物(国天) ・県指定天然記念物(県天) ・町指定天然記念物(町天) <p>②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)により指定されているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内希少野生動植物種(国内) ・国際希少野生動植物種(国際) ・緊急指定種(緊急) ・生息地等保護区(生息) <p>③環境省の「レッドリスト」に記載されているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧ⅠA類(CR) ・絶滅危惧ⅠB類(EN) ・絶滅危惧Ⅱ類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群(LP) <p>④自然環境保全基礎調査(環境庁)に重要な植物群落として記載されているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定植物群落(特定) <p>⑤山梨県の「レッドデータブック」に記載されているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧ⅠA類(CR) ・絶滅危惧ⅠB類(EN) ・絶滅危惧Ⅱ類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群(LP) ・要注目種(N) <p>⑥「山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例」(山梨県、平成19年)により指定されているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定希少野生動植物種(指定) ・特定希少野生動植物種(特定) 						

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

事業の実施による植物への影響の予測結果(5)

種名	予測結果
カラスザンショウ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の広い範囲の草地や伐採跡地、林縁などの83地点で計233株確認した。 改変域の21地点計23株の生育地が影響を受けるが、影響範囲外で190株確認されており、これらの株は現状のまま維持されることから、生育個体群の影響は少ないものと予測する。 新規林縁となる29地点計60株の生育地については、本種は先駆種であり林縁や伐採跡地にも生育する種であることから影響は少ないものと予測する。 影響範囲外で確認された58地点計190株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
アリドオシ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の十島駅周辺や西根熊と下村の間の林内や林縁などの30地点で計726株確認した。 改変域の3地点61株の生育地が影響を受け、新規林縁となる7地点計270株の生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。 影響範囲外で確認された29地点計901株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
シロバナイナモリソウ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の主に池ノ山の東側の草地～林内の14地点で計382株確認した。 改変域の1地点1株の生育地が影響を受けるが、影響範囲外で275株確認されており、これらの株は現状のまま維持されることから、生育個体群の影響は少ないものと予測する。 新規林縁となる8地点計106株の生育地については、本種は林縁や草地にも生育する種であることから影響は少ないものと予測する。 影響範囲外で確認された5地点計275株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
センブリ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域東側の1地点で1株確認した。 生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持することから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
タチキランソウ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の西側の主に標高の高い地域の9地点で計38株確認した。 改変域の1地点7株の生育地が影響を受けるが、影響範囲外で20株確認されており、これらの株は現状のまま維持されることから、生育個体群への影響は少ないものと予測する。 新規林縁となる2地点計11株については、本種は林縁にも生育する種であることから影響は少ないものと予測する。 影響範囲外で確認された6地点計20株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
ミゾコウジュ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の富士川やその支流沿いの平場の2地点で計200株確認した。 生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持することから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
ナンバンギセル	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の下村付近と十島駅付近のススキやチガヤの草地など13地点で計247株確認した。 改変域の8地点計226株の生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。 新規林縁となる2地点計17株については、本種はススキの草原などに生育する種であることから、影響は少ないものと予測する。 影響範囲外で確認された27地点計69株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
イワシャジン	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域西側の沢の岩上や西側県境付近の崖の3地点で計6株確認した。 改変域の2地点計5株の生育地が影響を受ける可能性があるとして予測する。 影響範囲外で確認された1地点1株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。
ツルカノコソウ	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域の池ノ山や西側の道端の3地点で計4株確認した。 改変域に近い新規林縁となる2地点計3株に生育しているが、本種は林縁にも生育する種であることから影響は少ないものと予測する。 影響範囲外で確認された1地点1株の生育地は改変域や新規林縁には含まれず現状のまま維持されることから、生育への影響はほとんどないものと予測する。

表 10-2(7) 造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	調査結果の概要・講じようとする環境保全措置				
植物	(調査結果の概要)				
	保全すべき植物群落(1)				
	件名	生育地	選定根拠		対象事業実施区域内
			天然記念物	自然環境保全基礎調査	
	井出八幡神社の社叢	南部町井出	県天	特定	分布しない
	県南部の暖地性シダ群落	南部町		特定	分布しない
	県南部の暖地性シダ群落	南部町		特定	分布しない
	県南部の暖地性シダ群落	南部町		特定	分布しない
	県南部のキバナノショウキラン・キヨスミウツボ	南部町		特定	分布しない
	県南部の暖地性シダ群落	南部町		特定	分布しない
	県南部の暖地性シダ群落	南部町		特定	分布しない
	県南部のキバナノショウキラン・キヨスミウツボ	南部町		特定	分布しない
	県南部のキバナノショウキラン・キヨスミウツボ	南部町		特定	分布しない
	県南部の暖地性シダ群落	南部町		特定	分布しない
	県南部の暖地性シダ群落	南部町		特定	分布しない
	県南部の暖地性シダ群落	南部町		特定	分布しない
	県南部の暖地性シダ群落	南部町		特定	分布しない
	県南部の暖地性シダ群落	南部町		特定	分布しない
	福土川上流の七ツ釜のカシ林	南部町福土		特定	分布しない
	福土川上流のブナ・スズタケ群落	南部町福土		特定	分布しない
万沢のサツキ・シラン群落	南部町万沢		特定	分布しない	

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

(空白)

表 10-2(8) 造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	調査結果の概要・講じようとする環境保全措置					
植物	(調査結果の概要)					
	保全すべき植物群落(2)					
	図中番号	件名	生育地	選定根拠		対象事業実施区域内
				天然記念物	自然環境保全基礎調査	
	19	西市森の暖帯林	南部町		特定	分布しない
	20	県南部の暖地性シダ群落	南部町		特定	分布しない
	21	篠井山のブナ林	南部町福士		特定	分布しない
	22	県南部の暖地性シダ群落	南部町		特定	分布しない
	23	顕本寺のおハツキイチョウ	南部町万沢	県天		分布しない
		万沢顕本寺のおハツキイチョウ			巨樹	分布しない
	24	金山神社のイチョウ	南部町福士	県天		分布しない
		福士小久保金山神社のイチョウ			巨樹	分布しない
	25	一乗寺のおハツキイチョウ	南部町万沢	町天		分布しない
		中沢一乗寺のイチョウ			巨樹	分布しない
	26	根熊池大神のイチョウ	南部町福士	町天		分布しない
		福士根熊池大神社のイチョウ			巨樹	分布しない
	27	顕本寺のヒノキ	南部町万沢	町天	巨樹	分布しない
	28	平八幡神社のシイノキ	南部町福士	町天		分布しない
		福士平八幡神社のスダジイ			巨樹	分布しない
	29	小葉山金山神社の社叢	南部町万沢	町天		分布しない
	30	万沢小学校のヒイラギモクセイ	南部町万沢	町天		分布しない
	31	佐野長治郎氏宅のサザンカ	南部町万沢	町天		分布しない
	32	佐野信雄氏宅のナンテン	南部町福士	町天		分布しない
	33	杉山妙泉寺のヤマザクラ	南部町万沢		巨樹	分布しない
	34	福士東市組のイチョウ	南部町福士		巨樹	分布しない
	35	万沢顕本寺のカヤ	南部町万沢		巨樹	分布しない

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

(空白)

表 10-2(9) 造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	調査結果の概要・講じようとする環境保全措置
植物	<p>(講じようとする環境保全措置)</p> <p>回避</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 工事用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、植物の生育環境への影響を可能な限り回避する。 <p>最小化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規林縁（改変域から30mの範囲）に生育する株については、防風ネットの敷設や林縁植栽等による林内環境の維持に努める。 ・ 作業員の工事区域外への不要な立ち入りを制限することで、植物の生育環境の影響を最小化する。 <p>代償</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 改変域内に生育する株については、移植方法について必要に応じて専門家の助言を受け、事業の実施による影響を受けない適地に移植を実施し、活着が確認されるまで適切に維持管理する。

予測結果・評価の概要

(評価の概要)

造成等の施工及び送電線路の存在に伴う植物（保全すべき種）については、調査及び予測の結果並びに左欄に示す環境保全措置を講じることにより、実行可能な範囲内でできる限り緩和され、環境保全についての配慮が適正になされていると評価する。

表 10-3(1) 工事中資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	調査結果の概要・講じようとする環境保全措置																																																												
動物	(調査結果の概要)																																																												
	(1) 動物相の状況																																																												
	<p>南部町における文献その他の資料調査、対象事業実施区域及びその周辺における現地調査で確認された動物相の状況は、下表のとおりである。</p>																																																												
	動物相の確認状況の概要																																																												
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="3" style="width: 10%;">区 分</th> <th colspan="4" style="text-align: center;">確認種</th> </tr> <tr> <th rowspan="2" style="width: 15%;">文献その他の資料調査</th> <th colspan="3" style="text-align: center;">現地調査</th> </tr> <tr> <th style="width: 15%;">対象事業実施区域</th> <th style="width: 15%;">対象事業実施区域外</th> <th style="width: 15%;">合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>哺乳類</td> <td>7目17科35種</td> <td>7目15科22種</td> <td>7目14科22種</td> <td>7目16科23種</td> </tr> <tr> <td>鳥 類</td> <td>17目45科130種</td> <td>15目42科100種</td> <td>16目44科109種</td> <td>17目46科119種</td> </tr> <tr> <td>爬虫類</td> <td>1目4科7種</td> <td>1目4科9種</td> <td>1目5科8種</td> <td>1目5科10種</td> </tr> <tr> <td>両生類</td> <td>2目6科13種</td> <td>2目7科12種</td> <td>2目6科11種</td> <td>2目7科12種</td> </tr> <tr> <td>昆虫類</td> <td>17目159科900種</td> <td>21目263科1,772種</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td>21目263科1,772種</td> </tr> <tr> <td>クモ類</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td>1目18科76種</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td>1目18科76種</td> </tr> <tr> <td>陸産貝類</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td>2目7科22種</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td>2目7科22種</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	確認種				文献その他の資料調査	現地調査			対象事業実施区域	対象事業実施区域外	合計	哺乳類	7目17科35種	7目15科22種	7目14科22種	7目16科23種	鳥 類	17目45科130種	15目42科100種	16目44科109種	17目46科119種	爬虫類	1目4科7種	1目4科9種	1目5科8種	1目5科10種	両生類	2目6科13種	2目7科12種	2目6科11種	2目7科12種	昆虫類	17目159科900種	21目263科1,772種	-	21目263科1,772種	クモ類	-	1目18科76種	-	1目18科76種	陸産貝類	-	2目7科22種	-	2目7科22種														
区 分		確認種																																																											
		文献その他の資料調査	現地調査																																																										
	対象事業実施区域		対象事業実施区域外	合計																																																									
哺乳類	7目17科35種	7目15科22種	7目14科22種	7目16科23種																																																									
鳥 類	17目45科130種	15目42科100種	16目44科109種	17目46科119種																																																									
爬虫類	1目4科7種	1目4科9種	1目5科8種	1目5科10種																																																									
両生類	2目6科13種	2目7科12種	2目6科11種	2目7科12種																																																									
昆虫類	17目159科900種	21目263科1,772種	-	21目263科1,772種																																																									
クモ類	-	1目18科76種	-	1目18科76種																																																									
陸産貝類	-	2目7科22種	-	2目7科22種																																																									
(2) 保全すべき種及び注目すべき生息地																																																													
<p>文献その他の資料調査及び動物相の現地調査においては確認された保全すべき種及び注目すべき生息地は、下表のとおりである。</p>																																																													
保全すべき種(1)																																																													
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 10%;">分 類</th> <th rowspan="2" style="width: 15%;">種 名</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">確認位置</th> <th colspan="2" style="text-align: center;">選定根拠</th> </tr> <tr> <th style="width: 10%;">対象事業実施区域</th> <th style="width: 10%;">対象事業実施区域外</th> <th style="width: 10%;">全 国</th> <th style="width: 10%;">山梨県</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="9">哺乳類</td> <td>キクガシラ</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td></td> <td>④N</td> </tr> <tr> <td>コウモリ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ノウサギ</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td>④N</td> </tr> <tr> <td>ニホンリス</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td>④N</td> </tr> <tr> <td>ホンドモモンガ</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td></td> <td>④NT</td> </tr> <tr> <td>ムササビ</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td>④N</td> </tr> <tr> <td>カヤネズミ</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td>④N</td> </tr> <tr> <td>ツキノワグマ</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">②国際</td> <td>④N</td> </tr> <tr> <td>イタチ</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td></td> <td>④DD</td> </tr> <tr> <td>カモシカ</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">①国特天</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	分 類	種 名	確認位置		選定根拠		対象事業実施区域	対象事業実施区域外	全 国	山梨県	哺乳類	キクガシラ	○	-		④N	コウモリ					ノウサギ	○	○		④N	ニホンリス	○	○		④N	ホンドモモンガ	○	-		④NT	ムササビ	○	○		④N	カヤネズミ	○	○		④N	ツキノワグマ	○	○	②国際	④N	イタチ	○	○		④DD	カモシカ	○	○	①国特天	
分 類			種 名	確認位置		選定根拠																																																							
	対象事業実施区域	対象事業実施区域外		全 国	山梨県																																																								
哺乳類	キクガシラ	○	-		④N																																																								
	コウモリ																																																												
	ノウサギ	○	○		④N																																																								
	ニホンリス	○	○		④N																																																								
	ホンドモモンガ	○	-		④NT																																																								
	ムササビ	○	○		④N																																																								
	カヤネズミ	○	○		④N																																																								
	ツキノワグマ	○	○	②国際	④N																																																								
	イタチ	○	○		④DD																																																								
カモシカ	○	○	①国特天																																																										

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

本事業は、送電線増強計画であり、送電設備は、全て対象事業実施区域内に設置する。

よって、事業の実施により動物の生息環境に影響が及ぶのは、対象事業実施区域を利用する動物となる。

このことから、予測の対象は現地調査で対象事業実施区域において確認した保全すべき哺乳類9種、鳥類19種、爬虫類3種、両生類4種、昆虫類10種、クモ類1種及び陸産貝類5種の合計51種とした。

このうち、イタチについては生態系の典型性注目種、クマタカについては生態系の上位性注目種として選定し、「生態系」において調査結果の詳細を記載した。

事業の実施による動物への影響の予測結果(1)

区分	種名	予測結果
哺乳類	キクガシラ コウモリ	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年5月の直接観察調査時に、対象事業実施区域の1地点で1個体の成獣を目撃した。 本事業により、対象事業実施区域における本種の生息環境である樹林地及び草地の一部が改変される。 改変範囲を必要最小限とし、工所用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び幅は最小化することで、餌となる昆虫類の生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 一方で、保安伐採により、一時的に採餌場となる草地が創出される。 本種の生息環境である樹林地、草地は周辺にも広く分布する。 以上のことから、キクガシラコウモリへの影響はほとんどないものと予測する。
	ノウサギ	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年12月、平成31年1月、2月、令和2年4月～6月、8月、10月、令和3年1月、3月に合計56地点を対象事業実施区域でフィールドサイン調査、自動撮影調査、猛禽類調査及び生態系調査で糞、死骸、生体、撮影により確認した。 平成31年1月～令和3年1月に合計8地点を対象事業実施区域外でフィールドサイン調査及び猛禽類調査時に糞、足跡、及び死骸を確認した。 本事業により、対象事業実施区域における本種の生息環境である樹林地の一部が改変される。 樹木伐採の範囲を必要最小限とし、工所用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び幅は最小化する。このように本種の生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 本種の生息環境である樹林地は周辺にも広く分布する。 以上のことから、ノウサギへの影響は少ないものと予測する。
	ニホンリス	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年2月、4月、8月、10月、令和3年1月に合計5地点を対象事業実施区域外でフィールドサイン調査及び猛禽類調査時に生体及び食痕により確認した。 令和2年10月に合計1地点を対象事業実施区域でフィールドサイン調査時に食痕により確認した。 本事業により、対象事業実施区域における本種の生息環境である樹林地の一部が改変される。 樹木伐採の範囲を必要最小限とし、工所用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び幅は最小化する。このように本種の生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 本種の生息環境である樹林地は周辺にも広く分布する。 以上のことから、ニホンリスへの影響は少ないものと予測する。
	ホンドモモンガ	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年1月のフィールドサイン調査時に、対象事業実施区域の1地点で糞を確認した 本事業により、対象事業実施区域における本種の生息環境である樹林地の一部が改変される。 樹木伐採の範囲を必要最小限とし、工所用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び幅は最小化する。このように本種の生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 本種の生息環境である樹林地は周辺にも広く分布する。 以上のことから、ホンドモモンガへの影響は少ないものと予測する。

表 10-3(2) 工事中資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	調査結果の概要・講じようとする環境保全措置
動物	<p>(調査結果の概要)</p> <p>選定根拠</p> <p>①「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)等により指定されているもの 「山梨県文化財保護条例」(昭和31年山梨県条例第29号)及び「南部町文化財保護条例」(平成15年南部町条例第92号)により指定されているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国指定特別天然記念物(国特天) ・国指定天然記念物(国天) ・県指定天然記念物(県天) ・町指定天然記念物(町天) <p>②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)により指定されているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内希少野生動植物種(国内) ・国際希少野生動植物種(国際) ・緊急指定種(緊急) ・生息地等保護区(生息) <p>③環境省の「レッドリスト」に記載されているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧ⅠA類(CR) ・絶滅危惧ⅠB類(EN) ・絶滅危惧Ⅱ類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群(LP) <p>④山梨県の「レッドデータブック」に記載されているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧ⅠA類(CR) ・絶滅危惧ⅠB類(EN) ・絶滅危惧Ⅱ類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群(LP) ・要注目種(N) <p>⑤「山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例」(平成19年山梨県条例第34号)に指定されているもの(鳥類、両生類、魚類、昆虫類)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定希少野生動植物種(指定) ・特定希少野生動植物種(特定)

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

事業の実施による動物への影響の予測結果(2)

区分	種名	予測結果
哺乳類	ムササビ	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年5月、6月、10月に合計5地点を対象事業実施区域外でフィールドサイン調査及び猛禽類調査時に生体、鳴き声、足跡、食痕及び巣にて確認した。 令和2年5月、8月、令和3年1月に合計5地点を対象事業実施区域でフィールドサイン調査、生態系調査時に糞にて確認した。 本事業により、対象事業実施区域における本種の生息環境である樹林地の一部が改変される。 樹木伐採の範囲を必要最小限とし、工事用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び拡幅は最小化する。このように本種の生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 本種の生息環境である樹林地は周辺にも広く分布する。 以上のことから、ムササビへの影響は少ないものと予測する。
	カヤネズミ	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年10月、令和3年1月に合計4地点を対象事業実施区域でフィールドサイン調査時に巣を確認した。 令和2年5月、10月に合計4地点を対象事業実施区域外でフィールドサイン調査及び猛禽類調査時に巣を確認した。 本事業により、対象事業実施区域における本種の生息環境である草地の一部が改変される。 改変範囲を必要最小限とし、工事用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び拡幅は最小化することで、本種の生息環境への影響を可能な限り低減する。 保安伐採により、一時的に本種の生息環境である草地が創出される。 本種の生息環境である草地は周辺にも広く分布する。 以上のことから、カヤネズミへの影響は少ないものと予測する。
	ツキノワグマ	<ul style="list-style-type: none"> 平成31年3月、令和2年8月に合計6地点を対象事業実施区域でフィールドサイン調査及び猛禽類調査時に生体、爪痕及びクマ棚にて確認した。 平成30年12月、令和2年4月に合計2地点を対象事業実施区域外で猛禽類調査時に生体及びクマ棚にて確認した。 本事業により、対象事業実施区域における本種の生息環境である樹林地の一部が改変される。 樹木伐採の範囲を必要最小限とし、工事用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び拡幅は最小化することで、本種の生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 本種の生息環境である樹林地は周辺にも広く分布する。 以上のことから、ツキノワグマの生息環境への影響は少ないものと予測する。ただし、モノレールの新設により、ツキノワグマのような大型哺乳類は、モノレールを横断できず、移動経路が分断される可能性がある。
	カモシカ	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年12月、平成31年1月～4月、平成元年7月、10月、令和2年2月、3月、5月、10月、令和3年1月に合計15地点を対象事業実施区域でフィールドサイン、直接観察及び猛禽類調査時に生体及び撮影で確認した。 令和2年3月～10月、令和3年1月～2月に合計16地点を対象事業実施区域外でフィールドサイン、直接観察及び猛禽類調査時に生体で確認した。 本事業により、対象事業実施区域における本種の生息環境である樹林地の一部が改変される。 樹木伐採の範囲を必要最小限とし、工事用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び拡幅は最小化することで、本種の生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 本種の生息環境である樹林地は周辺にも広く分布する。 以上のことから、カモシカの生息環境への影響は少ないものと予測する。ただし、モノレールの新設により、カモシカのような大型哺乳類は、モノレールを横断できず、移動経路が分断される可能性がある。

表 10-3(3) 工事中資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	調査結果の概要・講じようとする環境保全措置					
動物	(調査結果の概要)					
	保全すべき種(2)					
	分類	種名	確認位置		選定根拠	
			対象事業実施区域	対象事業実施区域外	全国	山梨県
	鳥類	オシドリ	-	○	③DD	
		ヨタカ	○	-	③NT	④VU
		ハリオアマツバメ	-	○		④DD
		ミサゴ	○	○	③NT	④DD
		ハチクマ	○	○	③NT	④VU
		ツミ	○	○		④NT
		ハイタカ	○	○	③NT	④VU
		オオタカ	○	○	③NT	④NT
		サシバ	○	○	③VU	④NT
		イヌワシ	-	○	①国天 ②国内 ③EN	④CR
		クマタカ	○	○	②国内 ③EN	④EN
		フクロウ	○	○		④NT
		アオバズク	○	○		④NT
		アカショウビン	○	○		④EN
		ヤマセミ	-	○		④NT
		オオアカゲラ	○	-		④DD
		ハヤブサ	○	○	②国内 ③VU	④VU
		サンショウクイ	○	○	③VU	④NT
		サンコウチョウ	○	○		④NT
	コシアカツバメ	○	○		④NT	
	キバシリ	○	-		④DD	
	トラツグミ	○	○		④NT	
	クロジ	○	-		④DD	

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

事業の実施による動物への影響の予測結果(3)

区分	種名	予測結果
鳥類	ヨタカ	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年5月に1地点対象事業実施区域で夜間調査にて生体を確認した。 ◎繁殖地への影響 確認回数は少ないが、確認地点周辺の林縁部で繁殖している可能性がある。 工事中は造成等の施工により一時的に影響を受ける可能性があるが、本種を確認した樹林では樹木伐採の予定はない。 可能な限り低騒音・低振動型建設機械を使用し、原則夜間工事は行わない。 ヨタカの繁殖地への影響は少ないものと予測する。 ◎採餌場への影響 本事業により、対象事業実施区域における本種の採餌場となる可能性のある樹林地や草地の一部が改変される。 改変範囲を必要最小限とし、工所用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び幅幅は最小化することで、本種の餌となる昆虫類の生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 一方で、保安伐採により、一時的に本種の採餌場である草地が創出される。 本種の採餌場である樹林地、草地は周辺にも広く分布する。 ヨタカの採餌場への影響はほとんどないものと予測する。
	ミサゴ	<ul style="list-style-type: none"> 平成31年2月、令和元年5月、6月、8月～10月、令和2年9月～10月の猛禽類調査時に、対象事業実施区域で7回、対象事業実施区域外で3回飛翔等を確認した。 ◎繁殖地への影響 確認回数は少なく、繁殖指標行動も確認されなかった。 調査地域外で繁殖している個体が飛来している可能性が考えられる。 ヘリコプター飛行ルート周辺においても本種の繁殖地は存在しないと考えられる。 ミサゴの繁殖地への影響はないものと予測する。 ◎採餌場への影響 本種は主に水域で採餌を行う。対象事業実施区域には本種の採餌場となり得る採餌場として主に富士川が存在するが、造成等の施工や保安伐採は富士川では行わない。 ミサゴの採餌場への影響はないものと予測する。
	ハチクマ	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年5月～9月、令和2年6月～9月の猛禽類調査時に、対象事業実施区域で33回、対象事業実施区域外で52回飛翔等を確認した。 ◎繁殖地への影響 夏季から秋季にかけて当該地域を通過する個体（渡り個体）が多く確認された。 本種の繁殖期にあたる6～8月にかけても一定の確認があり、ディスプレイ飛翔が確認されたほか、令和2年7月には餌運搬が確認された。しかしながら、その後繁殖指標行動は確認されなかった。 調査地域外で繁殖している個体が飛来している可能性が考えられる。 ヘリコプター飛行ルート周辺においても本種の繁殖地は存在しないと考えられる。 ハチクマの繁殖地への影響はほとんどないものと予測する。 ◎採餌場への影響 本事業により、対象事業実施区域における本種の採餌場となる可能性のある樹林地の一部が改変される。 樹木伐採の範囲を必要最小限とし、工所用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び幅幅は最小化することで、本種の餌となる昆虫類等の生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 本種の採餌場である樹林地は周辺にも広く分布する。 ハチクマの採餌場への影響はほとんどないものと予測する。

表 10-3(4) 工事中資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	調査結果の概要・講じようとする環境保全措置
動物	<p>(調査結果の概要)</p> <p>選定根拠</p> <p>①「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)等により指定されているもの 「山梨県文化財保護条例」(昭和31年山梨県条例第29号)及び「南部町文化財保護条例」(平成15年南部町条例第92号)により指定されているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国指定特別天然記念物(国特天) ・国指定天然記念物(国天) ・県指定天然記念物(県天) ・町指定天然記念物(町天) <p>②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)により指定されているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内希少野生動植物種(国内) ・国際希少野生動植物種(国際) ・緊急指定種(緊急) ・生息地等保護区(生息) <p>③環境省の「レッドリスト」に記載されているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧ⅠA類(CR) ・絶滅危惧ⅠB類(EN) ・絶滅危惧Ⅱ類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群(LP) <p>④山梨県の「レッドデータブック」に記載されているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧ⅠA類(CR) ・絶滅危惧ⅠB類(EN) ・絶滅危惧Ⅱ類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群(LP) ・要注目種(N) <p>⑤「山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例」(平成19年山梨県条例第34号)に指定されているもの(鳥類、両生類、魚類、昆虫類)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定希少野生動植物種(指定) ・特定希少野生動植物種(特定)

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

事業の実施による動物への影響の予測結果(4)

区分	種名	予測結果
鳥類	ツミ	<ul style="list-style-type: none"> ・平成31年4月、令和元年5月、7月～10月、令和2年3月～5月、7月、9月～10月の猛禽類調査時に、対象事業実施区域で13回、対象事業実施区域外で19回飛翔等を確認した ◎繁殖地への影響 <ul style="list-style-type: none"> ・発声を確認されたほか、令和元年7月には餌運搬が確認された。しかしながら、その後繁殖指標行動は確認されなかった。 ・調査地域外で繁殖している個体が飛来している可能性が考えられる。 ・ヘリコプター飛行ルート周辺においても本種の繁殖地は存在しないと考えられる。 ・ツミの繁殖地への影響はほとんどないものと予測する。 ◎採餌場への影響 <ul style="list-style-type: none"> ・本事業により、対象事業実施区域における本種の採餌場となる可能性のある樹林地の一部が改変される。 ・樹木伐採の範囲を必要最小限とし、工事用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び幅幅は最小化することで、本種の餌となる小鳥類等の生息環境への影響を可能な限り低減する。 ・既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 ・本種の採餌場である樹林地は周辺にも広く分布する。 ・ツミの採餌場への影響はほとんどないものと予測する。
	ハイタカ	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年11月～12月、平成31年1月～4月、令和元年11月～12月、令和2年1月～4月、7月の猛禽類調査時に、対象事業実施区域で47回、対象事業実施区域外で72回飛翔等を確認した。 ◎繁殖地への影響 <ul style="list-style-type: none"> ・多数確認されたが、ほとんどが11～4月にかけての確認であったことから、渡り個体及び越冬個体と考えられる。 ・対象事業実施区域に本種の繁殖地が存在する可能性はほとんどないものと考えられる。 ・ヘリコプター飛行ルート周辺においても本種の繁殖地は存在しないと考えられる。 ・ハイタカの繁殖地への影響はほとんどないものと予測する。 ◎採餌場への影響 <ul style="list-style-type: none"> ・本事業により、対象事業実施区域における本種の採餌場となる可能性のある樹林地の一部が改変される。 ・樹木伐採の範囲を必要最小限とし、工事用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び幅幅は最小化することで、本種の餌となる小鳥類等の生息環境への影響を可能な限り低減する。 ・既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 ・本種の採餌場である樹林地は周辺にも広く分布する。 ・ハイタカの採餌場への影響はほとんどないものと予測する。
	オオタカ	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年3月及び令和2年10月の一般採集調査時に対象事業実施区域の2地点で確認した。 ・平成30年11月～12月、平成31年1月～4月、令和元年6月～9月、11月～12月、令和2年1月～10月の猛禽類調査時に、対象事業実施区域で27回、対象事業実施区域外で40回飛翔等を確認した。 ◎繁殖地への影響 <ul style="list-style-type: none"> ・発声やディスプレイ飛翔が確認されたが、その後繁殖指標行動は確認されなかった。 ・調査地域外で繁殖している個体が飛来している可能性が考えられる。 ・ヘリコプター飛行ルート周辺においても本種の繁殖地は存在しないと考えられる。 ・オオタカの繁殖地への影響はほとんどないものと予測する。 ◎採餌場への影響 <ul style="list-style-type: none"> ・本事業により、対象事業実施区域における本種の採餌場となる可能性のある樹林地の一部が改変される。 ・樹木伐採の範囲を必要最小限とし、工事用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び幅幅は最小化することで、本種の餌となる鳥類等の生息環境への影響を可能な限り低減する。 ・既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 ・本種の採餌場である樹林地は周辺にも広く分布する。 ・オオタカの採餌場への影響はほとんどないものと予測する

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

事業の実施による動物への影響の予測結果(5)

区分	種名	予測結果
鳥類	サシバ	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年5月～9月、令和2年4月～5月の猛禽類調査時に、対象事業実施区域で15回、対象事業実施区域外で23回飛翔等を確認した。 ◎繁殖地への影響 ほとんどが春季及び秋季に高空を通過する渡り個体であったことから、調査地域に本種の繁殖地はないと考えられる。 ヘリコプター飛行ルート周辺においても本種の繁殖地は存在しないと考えられる。 サシバの繁殖地への影響はないものと予測する。 ◎採餌場への影響 本事業により、対象事業実施区域における本種の渡り途中の採餌場となる可能性のある樹林地の一部が改変される。 樹木伐採等の改変範囲を必要最小限とし、工所用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び拡幅は最小化することで、本種の餌となる両生類・爬虫類等の生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 本種の採餌場である樹林地は周辺にも広く分布する。 サシバの採餌場への影響はほとんどないものと予測する。
	フクロウ	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年5月の任意観察調査で、対象事業実施区域の1地点で1個体を確認した。 令和3年1月の夜間調査で、対象事業実施区域の1地点で1個体を確認した。 令和2年10月のコウモリのバットディテクター調査時に、対象事業実施区域外の1地点で1個体を確認した。 ◎繁殖地への影響 確認回数は少ないが、確認地点周辺の樹林地部で繁殖している可能性がある。 工事中は造成等の施工により一時的に影響を受ける可能性があるが、本種を確認した樹林地部では樹木の伐採は予定されていない。 可能な限り低騒音・低振動型建設機械を使用し、原則夜間工事は行わない。 フクロウの繁殖地への影響は少ないものと予測する。 ◎採餌場への影響 本事業により、対象事業実施区域における本種の採餌場となる可能性のある樹林地や草地の一部が改変される。 改変範囲を必要最小限とし、工所用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び拡幅は最小化することで、本種の餌となる小型哺乳類等の生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 一方で、保安伐採により、一時的に本種の採餌場である草地が創出される。 本種の採餌場である樹林地、草地は周辺にも広く分布する。 フクロウの採餌場への影響はほとんどないものと予測する。
	アオバズク	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年5月の任意観察調査で、対象事業実施区域の1地点で2個体及び対象事業実施区域外の2地点で2個体を確認した。 ◎繁殖地への影響 確認回数は少ないが、確認地点周辺の樹林地部で繁殖している可能性がある。 工事中は造成等の施工により一時的に影響を受ける可能性があるが、本種を確認した樹林地部では樹木の伐採は予定されていない。 可能な限り低騒音・低振動型建設機械を使用し、原則夜間工事は行わない。 アオバズクの繁殖地への影響はほとんどないものと予測する。 ◎採餌場への影響 本事業により、対象事業実施区域における本種の採餌場となる可能性のある樹林地や草地の一部が改変される。 改変範囲を必要最小限とし、工所用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び拡幅は最小化することで、本種の餌となる小型哺乳類等の生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 一方で、保安伐採により、一時的に本種の採餌場である草地が創出される。 本種の採餌場である樹林地、草地は周辺にも広く分布する。 アオバズクの採餌場への影響はほとんどないものと予測する。

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

事業の実施による動物への影響の予測結果(6)

区分	種名	予測結果
鳥類	アカショウビン	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年5月～8月の猛禽類調査時に対象事業実施区域で9地点で、令和2年5月～6月のラインセンサ調査、任意調査及び猛禽類調査時に12地点で確認した。 令和2年5月～7月のラインセンサ調査、任意観察調査及び猛禽類調査時に対象事業実施区域外で15地点確認した。 ◎繁殖地への影響 <ul style="list-style-type: none"> 確認地点周辺の樹林地部で繁殖している可能性がある。 工事中は造成等の施工により一時的に影響を受ける可能性がある。 樹木伐採等の改変範囲を必要最小限とし、可能な限り低騒音・低振動型建設機械を使用する。 アカショウビンの繁殖地への影響は少ないものと予測する。 ◎採餌場への影響 <ul style="list-style-type: none"> 本種の主要な餌動物である両生類や魚類、サワガニ等は溪流部に生息するが、造成等の施工や保安伐採は溪流部では行わない。 周囲で造成等が行われた場合でも小規模であり、溪流に水質汚濁物質は排出しない計画である。 アカショウビンの採餌場への影響はほとんどないものと予測する。
	オオアカゲラ	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年12月、平成2年5月の猛禽類調査時に、対象事業実施区域の2地点で確認した。 ◎繁殖地への影響 <ul style="list-style-type: none"> 繁殖期の確認はないが、留鳥であるため確認地点周辺の樹林地部で繁殖している可能性がある。 工事中は造成等の施工により一時的に影響を受ける可能性がある。 樹木伐採等の改変範囲を必要最小限とし、可能な限り低騒音・低振動型建設機械を使用する。 オオアカゲラの繁殖地への影響はほとんどないものと予測する。 ◎採餌場への影響 <ul style="list-style-type: none"> 本事業により、対象事業実施区域における本種の採餌場となる可能性のある樹林地の一部が改変される。 樹木伐採の範囲を必要最小限とし、工所用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び拡幅は最小化することで、本種の餌となる昆虫類等の生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 本種の採餌場である樹林地は周辺にも広く分布する。 オオアカゲラの採餌場への影響はほとんどないものと予測する。
	ハヤブサ	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年12月、平成31年2月～4月、令和元年5月～12月、令和2年1月～10月の猛禽類調査時に、対象事業実施区域で43回、対象事業実施区域外で171回飛翔等を確認した。◎繁殖地への影響 平成31年/令和元年、令和2年ともに対象事業実施区域周辺の岩棚への雌雄での出入りの他、交尾も確認し、この岩棚で営巣していることが明らかとなった。 両年とも5月頃から出現が減り、また幼鳥の確認もいかなかったことから、繁殖に失敗したと推察される。 同様の岩棚は調査地域にはないものと考えられることから、今後も同じ岩棚で営巣する可能性がある。 「猛禽類保護の進め方（改訂版）」（環境省）によると繁殖期に妨害すべきでない範囲の推奨距離（半径）として、「ハヤブサは400～600m。開けた場所にある巣に対してはより安全距離を取るべき。」と記載されている。 対象事業実施区域とこの妨害すべきでない範囲は重ならない。 ハヤブサの繁殖地への影響は少ないものと予測する。 ただし、本種の繁殖期に妨害すべきでない範囲内をヘリコプターが運航すると、繁殖に影響を及ぼす可能性がある。 ◎採餌場への影響 <ul style="list-style-type: none"> 本事業により、営巣地周辺における本種の餌動物である鳥類の生息環境である樹林地の一部が改変される。 樹木伐採の範囲を必要最小限とし、工所用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び拡幅は最小化することで、本種の餌となる鳥類の生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 本種の採餌場である樹林地は周辺にも広く分布する。 ハヤブサの採餌場への影響はほとんどないものと予測する

表 10-3(7) 工事用資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	調査結果の概要・講じようとする環境保全措置
動物	<p data-bbox="293 248 480 277">(調査結果の概要)</p> <p data-bbox="826 719 895 748">(空白)</p>

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

事業の実施による動物への影響の予測結果(6)

区分	種名	予測結果
鳥類	サンショウクイ	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年6月、令和2年4月～6月及び8月の猛禽類調査及び任意観察調査時に対象事業実施区域の12地点で確認した。 ・平成31年4月、令和2年4月～7月の猛禽類調査及び任意観察調査時に対象事業実施区域外の8地点で確認した。 ◎繁殖地への影響 <ul style="list-style-type: none"> ・確認地点周辺の樹林地部で繁殖している可能性がある。 ・工事中は造成等の施工により一時的に影響を受ける可能性がある。 ・樹木伐採等の範囲を必要最小限とし、可能な限り低騒音・低振動型建設機械を使用する。 ・サンショウクイの繁殖地への影響はほとんどないものと予測する。 ◎採餌場への影響 <ul style="list-style-type: none"> ・本事業により、対象事業実施区域における本種の採餌場となる可能性のある樹林地の一部が改変される。 ・樹木伐採の範囲を必要最小限とし、工事用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び幅は最小化することで、本種の餌となる昆虫類等の生息環境への影響を可能な限り低減する。 ・既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 ・本種の採餌場である樹林地は周辺にも広く分布する。 ・サンショウクイの採餌場への影響はほとんどないものと予測する。
	サンコウチョウ	<ul style="list-style-type: none"> ・平成元年6月、令和2年5月の猛禽類調査及び任意観察調査時に対象事業実施区域の8地点で確認した。 ・平成元年7月、令和2年6月の猛禽類調査時に対象事業実施区域外の3地点で確認した。 ◎繁殖地への影響 <ul style="list-style-type: none"> ・確認地点周辺の樹林地部で繁殖している可能性がある。 ・工事中は造成等の施工により一時的に影響を受ける可能性がある。 ・樹木伐採等の改変範囲を必要最小限とし、可能な限り低騒音・低振動型建設機械を使用する。 ・サンコウチョウの繁殖地への影響はほとんどないものと予測する。 ◎採餌場への影響 <ul style="list-style-type: none"> ・本事業により、対象事業実施区域における本種の採餌場となる可能性のある樹林地の一部が改変される。 ・樹木伐採の範囲を必要最小限とし、工事用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び幅は最小化することで、本種の餌となる昆虫類等の生息環境への影響を可能な限り低減する。 ・既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 ・本種の採餌場である樹林地は周辺にも広く分布する。 ・サンコウチョウの採餌場への影響はほとんどないものと予測する。
	コシアカツバメ	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年8月、令和2年6月～8月の猛禽類調査時に対象事業実施区域の5地点で確認した。 ・平成31年4月、令和元年5月～7月、9月、令和2年4月～8月の猛禽類調査時に対象事業実施区域外の29地点で確認した。 ◎繁殖地への影響 <ul style="list-style-type: none"> ・本種は人工建造物の軒下などの人為的な環境で繁殖する。 ・調査地域で繁殖している可能性があるが、集落を除き対象事業実施区域に本種が繁殖し得る人為的な環境は存在しないと考えられる。 ・コシアカツバメの繁殖地への影響はないものと予測する。 ◎採餌場への影響 <ul style="list-style-type: none"> ・本種は主に空中を飛行する昆虫類を採食する。 ・コシアカツバメの採餌場への影響はないものと予測する。

表 10-3(8) 工所用資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	調査結果の概要・講じようとする環境保全措置
動物	<p>(調査結果の概要)</p> <p>(空白)</p>

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

事業の実施による動物への影響の予測結果(6)

区分	種名	予測結果
	キバシリ	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年6月及び10月に猛禽類調査、任意調査時に時に、対象事業実施区域の2地点で確認した。 ◎繁殖地への影響 <ul style="list-style-type: none"> ・確認回数は少ないが、繁殖期に確認しており、周辺の樹林地部で繁殖している可能性がある。 ・工事中は造成等の施工により一時的に影響を受ける可能性があるが、樹木伐採等の改変範囲を必要最小限とする。 ・可能な限り低騒音・低振動型建設機械を使用し、原則夜間工事は行わない。 ・キバシリの繁殖地への影響はほとんどないものと予測する。 ◎採餌場への影響 <ul style="list-style-type: none"> ・本事業により、対象事業実施区域における本種の採餌場となる可能性のある樹林地の一部が改変される。 ・樹木伐採の範囲を必要最小限とし、工所用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び拡幅は最小化することで、本種の餌となる昆虫類等の生息環境への影響を可能な限り低減する。 ・既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 ・本種の採餌場である樹林地は周辺にも広く分布する。 ・キバシリの採餌場への影響はほとんどないものと予測する。
	トラツグミ	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年4月～6月の猛禽類調査時に対象事業実施区域の3地点で確認した。 ・令和2年5月の猛禽類調査時に対象事業実施区域の3地点で確認した。 ◎繁殖地への影響 <ul style="list-style-type: none"> ・確認回数は少ないが、繁殖期に確認しており、周辺の樹林地部で繁殖している可能性がある。 ・工事中は造成等の施工により一時的に影響を受ける可能性があるが、樹木伐採等の改変範囲を必要最小限とする。 ・可能な限り低騒音・低振動型建設機械を使用し、原則夜間工事は行わない。 ・トラツグミの繁殖地への影響はほとんどないものと予測する。 ◎採餌場への影響 <ul style="list-style-type: none"> ・本事業により、対象事業実施区域における本種の採餌場となる可能性のある樹林地の一部が改変される。 ・樹木伐採等の改変範囲を必要最小限とし、工所用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び拡幅は最小化することで、本種の餌となる昆虫類等の生息環境への影響を可能な限り低減する。 ・既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 ・採餌場である樹林地は周辺にも広く分布する。 ・トラツグミの採餌場への影響はほとんどないものと予測する。
	クロジ	<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年11月の猛禽類調査時に、対象事業実施区域の1地点で確認した。 ◎繁殖地への影響 <ul style="list-style-type: none"> ・本種は当該地域では冬鳥と考えられる。 ・現地調査において11月に確認された。 ・対象事業実施区域に本種の繁殖地が存在する可能性はないものと考えられる。 ・クロジの繁殖地への影響はないものと予測する。 ◎採餌場への影響 <ul style="list-style-type: none"> ・本事業により、対象事業実施区域における本種の採餌場となる可能性のある樹林地の一部が改変される。 ・樹木伐採の範囲を必要最小限とし、工所用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び拡幅は最小化することで、本種の餌となる植物種子の生産量への影響を可能な限り低減する。 ・既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 ・本種の採餌場である樹林地は周辺にも広く分布する。 ・クロジの採餌場への影響はほとんどないものと予測する。

表 10-3(9) 工事中資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	調査結果の概要・講じようとする環境保全措置					
動物	(調査結果の概要)					
	保全すべき種(3)					
	分類	種名	確認位置		選定根拠	
			対象事業実施区域	対象事業実施区域外	全国	山梨県
	爬虫類	タカチホヘビ	-	○		④DD
		シマヘビ	○	○		④VU
		シロマダラ	○	-		④DD
	両生類	ヒガシヒダ サンショウウオ	○	-	③NT	④NT
		アカハライモリ	○	○	③NT	④VU
		ネバタゴガエル	○	○		④DD
トノサマガエル		○	○	③NT	④NT	
選定根拠						
①「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)等により指定されているもの						
「山梨県文化財保護条例」(昭和31年山梨県条例第29号)及び「南部町文化財保護条例」(平成15年南部町条例第92号)により指定されているもの						
<ul style="list-style-type: none"> ・国指定特別天然記念物(国特天) ・国指定天然記念物(国天) ・県指定天然記念物(県天) ・町指定天然記念物(町天) 						
②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)により指定されているもの						
<ul style="list-style-type: none"> ・国内希少野生動植物種(国内) ・国際希少野生動植物種(国際) ・緊急指定種(緊急) ・生息地等保護区(生息) 						
③環境省の「レッドリスト」に記載されているもの						
<ul style="list-style-type: none"> ・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧ⅠA類(CR) ・絶滅危惧ⅠB類(EN) ・絶滅危惧Ⅱ類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群(LP) 						
④山梨県の「レッドデータブック」に記載されているもの						
<ul style="list-style-type: none"> ・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧ⅠA類(CR) ・絶滅危惧ⅠB類(EN) ・絶滅危惧Ⅱ類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群(LP) ・要注目種(N) 						
⑤「山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例」(平成19年山梨県条例第34号)に指定されているもの(鳥類、両生類、魚類、昆虫類)						
<ul style="list-style-type: none"> ・指定希少野生動植物種(指定) ・特定希少野生動植物種(特定) 						
(空白)						

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

事業の実施による動物への影響の予測結果(7)

区分	種名	予測結果
爬虫類	タカチホヘビ	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年8月の猛禽類調査時に、対象事業実施区域の1地点で確認した。 令和元年8月の猛禽類調査時に、対象事業実施区域の1地点で確認した。 本事業により、対象事業実施区域における本種の生息環境である樹林地の一部が改変される。 改変範囲を必要最小限とし、工所用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び幅幅は最小化することで、本種の生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 本種の生息環境である樹林地は周辺にも広く分布する。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 タカチホヘビへの影響は少ないものと予測する。
	シマヘビ	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年9月、令和2年4月、5月及び8月に直接観察調査、猛禽類調査及び植物調査時に対象事業実施区域の14地点で確認した。 令和元年9月及び令和2年9月に直接観察調査、猛禽類調査時に対象事業実施区域外の4地点で確認した。 本事業により、対象事業実施区域における本種の生息環境である樹林地及び草地の一部が改変される。 改変範囲を必要最小限とし、工所用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び幅幅は最小化することで、本種の生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 一方で、保安伐採により、一時的に本種の生息環境である草地が創出される。 本種の生息環境である樹林地及び草地は周辺にも広く分布する。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 シマヘビへの影響は少ないものと予測する。
	シロマダラ	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年7月、令和2年10月の直接観察調査及び猛禽類調査時に、対象事業実施区域の2地点で確認した。 本事業により、対象事業実施区域における本種の生息環境である樹林地及び草地の一部が改変される。 改変範囲を必要最小限とし、工所用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び幅幅は最小化することで、本種の生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 一方で、保安伐採により、一時的に本種の生息環境である草地が創出される。 本種の生息環境である樹林地及び草地は周辺にも広く分布する。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 シロマダラへの影響は少ないものと予測する。
両生類	ヒガシヒダサンショウウオ	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年5月の環境DNA調査時に、対象事業実施区域の3地点で3例を確認した。 本事業において、対象事業実施区域における本種の生息環境である溪流部では、造成等の施工や保安伐採は行わない。 周囲で造成等が行われた場合でも小規模であり、溪流に水質汚濁物質は排出しない計画である。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 ヒガシヒダサンショウウオへの影響はほとんどないものと予測する。
	アカハライモリ	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年5月、10月、令和2年8月、10月の直接観察調査及び猛禽類調査時に対象事業実施区域の14地点で確認した。 令和元年6月、令和2年5月、6月の直接観察調査及び猛禽類調査時に対象事業実施区域外の3地点で確認した。 本事業により、対象事業実施区域における本種の生息環境である湿地の一部が改変される。 確認個体の大部分は改変域外である。 改変範囲を必要最小限とし、生息環境への影響を可能な限り低減する。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 アカハライモリへの影響は少ないものと予測する。

表 10-3(10) 工事用資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	調査結果の概要・講じようとする環境保全措置					
動物	(調査結果の概要)					
	保全すべき種(4)					
	分類	種名	確認位置		選定根拠	
			対象事業実施区域	対象事業実施区域外	全国	山梨県
	昆虫類	クツワムシ	○	○		④NT
		オオムラサキ	○	○	③NT	④N
		ギフチョウ	○	○	③VU	④CR
		ギンボシシャチホコ	○	-		④NT
		キハダカノコ	○	-		④NT
		ハマダラハルカ	○	○	③DD	
		ゴホンダイコクコガネ	○	○		④NT
	アカアシオオアカミキリ	○	-		④N	
	ヤマトアシナガバチ	○	-	③DD		
	チャイロスズメバチ	-	○		③DD	
	ナミルリモンハナバチ	○	-	③DD		
<p>選定根拠</p> <p>①「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)等により指定されているもの 「山梨県文化財保護条例」(昭和31年山梨県条例第29号)及び「南部町文化財保護条例」(平成15年南部町条例第92号)により指定されているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国指定特別天然記念物(国特天) ・国指定天然記念物(国天) ・県指定天然記念物(県天) ・町指定天然記念物(町天) <p>②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)により指定されているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内希少野生動植物種(国内) ・国際希少野生動植物種(国際) ・緊急指定種(緊急) ・生息地等保護区(生息) <p>③環境省の「レッドリスト」に記載されているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧ⅠA類(CR) ・絶滅危惧ⅠB類(EN) ・絶滅危惧Ⅱ類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群(LP) <p>④山梨県の「レッドデータブック」に記載されているもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧ⅠA類(CR) ・絶滅危惧ⅠB類(EN) ・絶滅危惧Ⅱ類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群(LP) ・要注目種(N) <p>⑤「山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例」(平成19年山梨県条例第34号)に指定されているもの(鳥類、両生類、魚類、昆虫類)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指定希少野生動植物種(指定) ・特定希少野生動植物種(特定) 						

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

事業の実施による動物への影響の予測結果(8)

区分	種名	予測結果
両生類	ネバタゴガエル	<ul style="list-style-type: none"> 平成31年4月、令和元年5月、7月～10月、令和2年4月、5月、8月、10月の直接観察調査及び猛禽類調査時に対象事業実施区域の90地点で確認した。 令和2年2月、4月、5月、7月、8月、10月の直接観察調査及び猛禽類調査時に対象事業実施区域外の23地点で確認した。 本事業により、対象事業実施区域における本種の生息環境である樹林地の一部が改変される。 樹木伐採の範囲を必要最小限とし、工所用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び幅幅は最小化することで、本種の生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 本種の生息環境である樹林地は周辺にも広く分布している。 繁殖が行われる源流部では、造成等の施工や保安伐採は行わない。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 ネバタゴガエルへの影響は少ないものと予測する。
	トノサマガエル	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年8月の直接観察調査時に対象事業実施区域の4地点で確認した。 令和2年8月、10月の直接観察調査時に対象事業実施区域外の4地点で確認した。 本事業により、対象事業実施区域における本種の生息環境である湿地の一部が改変される。 改変域では確認されていない。 湿地の改変範囲を必要最小限とすることとし、生息環境への影響を可能な限り低減する。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 トノサマガエルへの影響はほとんどないものと予測する。
昆虫類	クツムシ	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年8月の一般採集調査時に対象事業実施区域の3地点及び対象事業実施区域外の10地点で確認した。 本事業により、対象事業実施区域における本種の生息環境である草地の一部が影響を受ける。 改変範囲は必要最小限とし、生息環境への影響を可能な限り低減する。 保安伐採により、一時的に本種の生息環境である草地が創出される。 本種の生息環境である樹林地は周辺にも広く分布している。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 クツムシへの影響は少ないものと予測する。
	オオムラサキ	<ul style="list-style-type: none"> 令和元年7月、令和2年7月、8月の一般採集調査及び猛禽類調査時に対象事業実施区域の3地点で確認した。 令和2年7月、8月の一般採集調査及び猛禽類調査時に対象事業実施区域の3地点で確認した。 本事業において、本種の幼虫期の餌樹木となるエノキ、成虫期に吸密するクヌギやコナラなどの樹木で構成される落葉広葉樹林の一部は樹木伐採の範囲に含まれる。 改変域では確認されていない。 樹木伐採の範囲を必要最小限とし、生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 本種の生息環境である落葉広葉樹林は周辺にも分布し、その中にエノキやクヌギ、コナラ等が多数生育している。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 オオムラサキへの影響は少ないものと予測する。
	ギフチョウ	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年4月の一般採集調査で、対象事業実施区域の1地点及び対象事業実施区域外の1地点で確認した。 本事業により、本種の幼虫期の餌草となるカンアオイ類が生育し、かつ成虫の主な生息環境となる落葉広葉樹林の一部が改変される。 改変範囲は必要最小限とし、本種の生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 ギフチョウ確認地点近傍の食草となるカンアオイ群落(ランヨウアオイ)は改変域に含まれず事業の影響を受けない。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 ギフチョウへの影響はほとんどないものと予測する。

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

事業の実施による動物への影響の予測結果(8)

区分	種名	予測結果
昆虫類	ギンボシシヤチホコ	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年5月のライトトラップ法調査で、対象事業実施区域の1地点で確認した。 本事業により、本種の生息環境と考えられる樹林地や食草となるヌスビトハギが生育する草地や樹林などの緑地環境の一部が影響を受ける。 改変域では確認されていない。 改変範囲は必要最小限とし、本種の生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 一方で、保安伐採により、一時的に本種の生息環境である草地が創出される。 本種の生息環境である草地や樹林地は周辺にも広く分布している。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 ギンボシシヤチホコへの影響は少ないものと予測する。
	キハダカノコ	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年8月の一般採集調査で、対象事業実施区域の1地点で確認した。 本事業において、本種の幼虫期の食草となるオニグルミ、ハコネウツギ、シロタエギク、成虫期に吸蜜する各種吸蜜植物などが生育する樹林や草地の一部が改変される。 改変域では確認されていない。 改変範囲を必要最小限とし、生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 一方で、保安伐採により、一時的に本種の生息環境である草地が創出される。 本種の生息環境である樹林地や草地は周辺に分布し、その中に食草や吸蜜植物は多数生育している。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 キハダカノコへの影響はほとんどないものと予測する。
	ハマダラハルカ	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年3月、5月の一般採集調査で、対象事業実施区域の2地点で確認した。 令和2年5月の一般採集調査で対象事業実施区域外の1地点で1個体を確認した。 本事業により、対象事業実施区域における本種の生息環境と考えられる樹林地の一部が影響を受ける。 改変域では確認されていない。 樹木伐採の範囲は必要最小限とし、本種の生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 本種の生息環境である樹林地は周辺にも広く分布している。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 ハマダラハルカへの影響はほとんどないものと予測する。
	ゴホンダイコクコガネ	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年5月、8月、10月の一般採集調査、バイトトラップ調査及びライトトラップ調査時に対象事業実施区域の31地点で確認した。 令和2年5月、10月の一般採集調査、バイトトラップ調査及びライトトラップ調査時に対象事業実施区域外の3地点で確認した。 当該地域において、本種はニホンジカ等の動物の糞を餌としており、生息環境として樹林や草地等の植生に依存していないと考えられる。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 対象事業実施区域及びその周辺でも生息が確認されている。 ゴホンダイコクコガネへの影響はほとんどないものと予測する。
	アカアシオオアオカミキリ	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年8月のライトトラップ法調査時に対象事業実施区域の1地点で確認した。 本事業において、本種の餌樹木となるクヌギ、生息環境となるコナラ、クヌギが生育する落葉広葉樹林の一部は樹木伐採の範囲に含まれる。 改変域では確認されていない。 樹木伐採の範囲を必要最小限とし、生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 本種の生息環境である落葉広葉樹林は周辺にも分布しており、その中にクヌギ、コナラ等が多数生育している。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 アカアシオオアオカミキリへの影響はほとんどないものと予測する。

表 10-3(12) 工事用資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	調査結果の概要・講じようとする環境保全措置
動物	<p>(調査結果の概要)</p> <p>(空白)</p>

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

事業の実施による動物への影響の予測結果(8)

区分	種名	予測結果
昆虫類	ヤマトアシナガバチ	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年8月の一般採集調査時に対象事業実施区域の4地点確認した。 本事業において、本種が営巣する可能性がある草本や樹木が含まれる緑地の一部に伐採範囲が含まれる。 変更域では確認されていない。 変更範囲は必要最小限とし、生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 一方で、保安伐採により、一時的に採餌場となる草創地が創出される。 本種の生息環境である草本や樹木が含まれる緑地環境は周辺にも分布する。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 ヤマトアシナガバチへの影響はほとんどないものと予測する。
	ナミルリモンハナバチ	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年8月の一般採集調査時に対象事業実施区域の1地点で確認した。 本事業により、生息環境と考えられる落葉広葉樹林や吸蜜植物となる草本類が生育する草地の一部が影響を受ける。 変更区域では確認されていない。 変更範囲は必要最小限とし、生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 一方で、保安伐採により、一時的に採餌場となる草創地が創出される。 本種の生息環境である落葉広葉樹林や草地は周辺にも分布している。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 ナミルリモンハナバチへの影響はほとんどないものと予測する。
クモ類	キノボリトタテグモ	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年8月の一般採集調査時に対象事業実施区域の1地点で5個体を確認した。 本事業により、本種の生息環境と考えられる樹林地の一部が影響を受ける。 変更域では確認されていない。 樹木伐採の範囲は必要最小限とし、生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 本種の生息環境である樹林地は周辺にも広く分布している。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 キノボリトタテグモへの影響はほとんどないものと予測する。
陸産貝類	ハコネヒメベッコウ	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年5月、10月の一般採集調査時に対象事業実施区域の2地点で確認した。 令和2年10月の一般採集調査時に対象事業実施区域外の1地点で1個体を確認した。 本事業により、対象事業実施区域における本種の生息環境と考えられる樹林地の一部が影響を受ける。 変更域では確認されていない。 樹木伐採の範囲は必要最小限とし、生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 本種の生息環境である樹林地は周辺にも広く分布している。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 ハコネヒメベッコウへの影響はほとんどないものと予測する。
	キヌツヤベッコウ	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年10月の一般採集調査時に対象事業実施区域の1地点で確認した。 本事業により、対象事業実施区域における本種の生息環境と考えられる樹林地の一部が影響を受ける。 変更区域では確認されていない。 樹木伐採の範囲は必要最小限とし、生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 本種の生息環境である樹林地は周辺にも広く分布している。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 キヌツヤベッコウへの影響はほとんどないものと予測する。
	タカキビ	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年5月の一般採集調査時に対象事業実施区域の1地点で確認した 本事業により、本種の生息環境と考えられる樹林地の一部が影響を受ける。 変更域では確認されていない。 樹木伐採の範囲は必要最小限とし、生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 本種の生息環境である樹林地は周辺にも広く分布している。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 タカキビへの影響はほとんどないものと予測する

表 10-3(13) 工事用資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	調査結果の概要・講じようとする環境保全措置						
動物	(調査結果の概要)						
	保全すべき種(5)						
	分類		種名	確認位置		選定根拠	
				対象事業実施区域	対象事業実施区域外	全国	山梨県
	その他無脊椎動物	クモ類	キノボリトタゲモ	○	-	③NT	
		陸産貝類	ハコネヒメベッコウ	○	○	③DD	
			キヌツヤベッコウ	○	-	③DD	
			タカキビ	○	-	③NT	
			カドコオオベソマイマイ	○	○	③NT	
			ミヤマヒダリマキマイマイ	○	-	③VU	
選定根拠							
①「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)等により指定されているもの							
「山梨県文化財保護条例」(昭和31年山梨県条例第29号)及び「南部町文化財保護条例」(平成15年南部町条例第92号)により指定されているもの							
・国指定特別天然記念物(国特天)							
・国指定天然記念物(国天) ・県指定天然記念物(県天)							
・町指定天然記念物(町天)							
②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)により指定されているもの							
・国内希少野生動植物種(国内) ・国際希少野生動植物種(国際)							
・緊急指定種(緊急) ・生息地等保護区(生息)							
③環境省の「レッドリスト」に記載されているもの							
・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW)							
・絶滅危惧ⅠA類(CR) ・絶滅危惧ⅠB類(EN)							
・絶滅危惧Ⅱ類(VU) ・準絶滅危惧(NT)							
・情報不足(DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群(LP)							
④山梨県の「レッドデータブック」に記載されているもの							
・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW)							
・絶滅危惧ⅠA類(CR) ・絶滅危惧ⅠB類(EN)							
・絶滅危惧Ⅱ類(VU) ・準絶滅危惧(NT)							
・情報不足(DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群(LP)							
・要注目種(N)							
⑤「山梨県希少野生動植物種の保護に関する条例」(平成19年山梨県条例第34号)に指定されているもの(鳥類、両生類、魚類、昆虫類)							
・指定希少野生動植物種(指定) ・特定希少野生動植物種(特定)							

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

事業の実施による動物への影響の予測結果(8)

区分	種名	予測結果
陸産貝類	カドコオオベソマイマイ	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年5月、10月の一般採集調査時に対象事業実施区域の3地点で確認した。 本事業により、本種の生息環境と考えられる樹林地の一部が影響を受ける。 改変域では確認されていない。 樹木伐採の範囲は必要最小限とし、生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 本種の生息環境である樹林地は周辺にも広く分布している。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 カドコオオベソマイマイへの影響はほとんどないものと予測する。
	ミヤマヒダリマキマイマイ	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年10月の一般採集調査時に対象事業実施区域の1地点で1個体を確認した。 本事業により、対象事業実施区域における本種の生息環境と考えられる樹林地の一部が影響を受ける。 改変域では確認されていない。 樹木伐採の範囲は必要最小限とし、生息環境への影響を可能な限り低減する。 既存鉄塔より建替え鉄塔を高くし保安伐採の面積を現状より大幅に減らす計画である。伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられる。 本種の生息環境である樹林地は周辺にも広く分布している。 工事区域外への工事関係者の不要な立ち入りを禁止する。 ミヤマヒダリマキマイマイへの影響はほとんどないものと予測する。

表 10-3(14) 工所用資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	調査結果の概要・講じようとする環境保全措置								
動物	(講じようとする環境保全措置)								
	保全すべき動物に係る環境保全措置								
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">対象種</th> <th>環境保全措置</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="461 468 632 667">ツキノワグマ</td> <td data-bbox="632 468 1259 667"> 工所用資材等の搬入出におけるモノレールの新設にあたり、以下の措置を講じる。 ・樹木伐採の範囲を必要最小限とする。 ・ツキノワグマの移動経路の分断を避けるため、「モノレールを乗り越える」または「モノレール下を通過する」ことが可能な構造とする。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="461 667 632 866">カモシカ</td> <td data-bbox="632 667 1259 866"> 工所用資材等の搬入出におけるモノレールの新設にあたり、以下の措置を講じる。 ・樹木伐採の範囲を必要最小限とする。 ・カモシカの移動経路の分断を避けるため、「モノレールを乗り越える」または「モノレール下を通過する」ことが可能な構造とする。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="461 866 632 1025">ハヤブサ</td> <td data-bbox="632 866 1259 1025"> 工所用資材等の搬入出におけるヘリコプターによる運搬にあたり、ハヤブサの繁殖期（2～6月）は以下の措置を講じる。 ・2～5月は運航しない。 ・6月は妨害すべきでない範囲の運航を避ける。 </td> </tr> </tbody> </table>	対象種	環境保全措置	ツキノワグマ	工所用資材等の搬入出におけるモノレールの新設にあたり、以下の措置を講じる。 ・樹木伐採の範囲を必要最小限とする。 ・ツキノワグマの移動経路の分断を避けるため、「モノレールを乗り越える」または「モノレール下を通過する」ことが可能な構造とする。	カモシカ	工所用資材等の搬入出におけるモノレールの新設にあたり、以下の措置を講じる。 ・樹木伐採の範囲を必要最小限とする。 ・カモシカの移動経路の分断を避けるため、「モノレールを乗り越える」または「モノレール下を通過する」ことが可能な構造とする。	ハヤブサ	工所用資材等の搬入出におけるヘリコプターによる運搬にあたり、ハヤブサの繁殖期（2～6月）は以下の措置を講じる。 ・2～5月は運航しない。 ・6月は妨害すべきでない範囲の運航を避ける。
	対象種	環境保全措置							
	ツキノワグマ	工所用資材等の搬入出におけるモノレールの新設にあたり、以下の措置を講じる。 ・樹木伐採の範囲を必要最小限とする。 ・ツキノワグマの移動経路の分断を避けるため、「モノレールを乗り越える」または「モノレール下を通過する」ことが可能な構造とする。							
カモシカ	工所用資材等の搬入出におけるモノレールの新設にあたり、以下の措置を講じる。 ・樹木伐採の範囲を必要最小限とする。 ・カモシカの移動経路の分断を避けるため、「モノレールを乗り越える」または「モノレール下を通過する」ことが可能な構造とする。								
ハヤブサ	工所用資材等の搬入出におけるヘリコプターによる運搬にあたり、ハヤブサの繁殖期（2～6月）は以下の措置を講じる。 ・2～5月は運航しない。 ・6月は妨害すべきでない範囲の運航を避ける。								

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

(評価の概要)

造成等の施工、送電線路の存在に伴う動物（保全すべき種）については、調査及び予測の結果、実行可能な範囲内でできる限り緩和され、環境保全についての配慮が適正になされていると評価する。

ただし、一部の保全すべき種については、影響を与える可能性があると予測したが、左欄の環境保全措置を実施することにより、環境保全についての配慮が適正になされていると評価した。

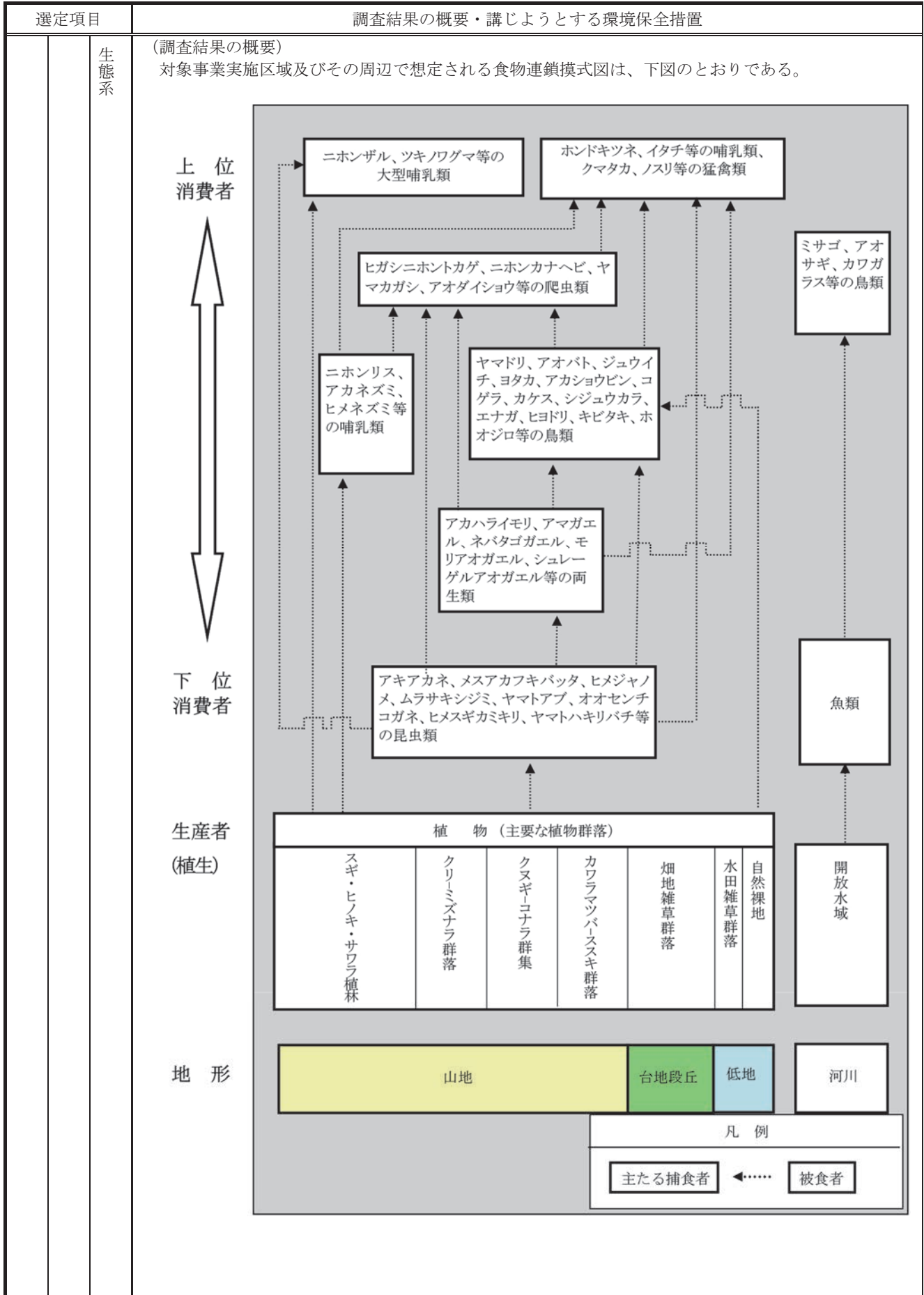
表 10-3(15) 造成等の施工、送電線路の存在

選定項目		調査結果の概要・講じようとする環境保全措置		
生態系	生 態 系	(調査結果の概要) (1) 動植物その他の自然環境に係る概況 対象事業実施区域及びその周辺における現地調査で確認された動植物の概要は、下表のとおりである。		
		動植物の概要（現地調査）		
			項 目	確認種
		植 物	植物相	ホソバトウゲシバ、ヤマドリゼンマイ、クサソテツ、キタゴヨウ、スギ、ホオノキ、オオバクロモジ、エンレイソウ、カタクリ、マイヅルソウ、ミヤマカンスゲ、ススキ、チシマザサ、トリアシショウマ、ムカゴイラクサ、ミズナラ、ブナ、オオタチツボスミレ、ヤマウルシ、イヌタデ、ノリウツギ、オオイワウチワ、リョウブ、ウラジロヨウラク 等 159科1,099種
			現存植生	アカシデーイヌシデ群落、シキミーモミ群落、イロハモミジケヤキ群集、ウラジログアシ二次林、シラカシ二次林、クレーコナラ群集、クズ群落、ススキ群団、シバ群団、伐採跡地群落、ヨシクラス、オギ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、モミ植林、竹林 等 28群落
		動 物	哺乳類	ジネズミ、ヒミズ、キクガシラコウモリ、ヒナコウモリ科の一種、ニホンザル、ノウサギ、ニホンリス、ホンドモモンガ、ムササビ、アカネズミ、ヒメネズミ、カヤネズミ、ツキノワグマ、アライグマ、タヌキ、キツネ、テン、イタチ、ニホンアナグマ、ハクビシン、イノシシ、ニホンジカ、カモシカ 7目16科23種
			鳥 類	ヤマドリ、アオバト、アオサギ、ジュウイチ、ミサゴ、ヨタカ、アマツバメ、ハチクマ、トビ、ノスリ、クマタカ、アカショウビン、コゲラ、アカゲラ、モズ、カケス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、エナガ、ヒヨドリ、センダイムシクイ、カワガラス、キビタキ、カラヒワ、ホオジロ 等 17目46科119種
			爬虫類	ヒガシニホントカゲ、ニホンカナヘビ、タカチホヘビ、シマヘビ、アオダイショウ、ジムグリ、シロマダラ、ヒバカリ、ヤマカガシ、ニホンマムシ 1目5科10種
			両生類	ヒガシヒダサンショウウオ、アカハライモリ、アズマヒキガエル、ニホンアマガエル、タゴガエル、ネバタゴガエル、ヤマアカガエル、トノサマガエル、ヌマガエル、シュレーゲルアオガエル、モリアオガエル、カジカガエル 2目7科12種
			昆虫類	ヒメクロサナエ、アキアカネ、ミヤマアカネ、クロオナシカワゲラ、コバネヒメギス、ハタケノウマオイ、メスアカフキバッタ、アオバハゴロモ、ピロウドサシガメ、ナガムギカスミカメ、クサギカメムシ、キバネシリアゲ、スジモンキマルハキバガ、ナカノホソトリバ、ムラサキシジミ、ヒメジャノメ、ミヤマカラスアゲハ、オオキバラノメイガ、コヨツメアオンヤク、ベニシタヒトリ、ヤマトアブ、ミナミカマバエ、チビモリヒラタゴミムシ、カラカネゴモクムシ、ミヤマハンミョウ、オオセンチコガネ、ミヤマクワガタ、カドマルエンマコガネ、ナミガタチビタムシ、アカヒゲヒラタコメツキ、クロアオケシジョウカイモドキ、ヨツボシテントウダマシ、キノコヒラタケシキスイ、コマルキマワリ、コブスジサビカミキリ、ヒメスギカミキリ、ウリハムシ、キイロクビナガハムシ、セマルヒゲナガゾウムシ、セグロカブラハバチ、オオハリアリ、オオスズメバチ、ヤマトハキリバチ 等 21目263科1,772種

(予測結果の概要)

(空白)

表 10-3(16) 工事中資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在



予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

(空白)

表 10-3(17) 工事中資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	講じようとする環境保全措置																																																		
生態系	<p>(調査結果の概要)</p> <p>(2) 複数の注目種及び群集の生態、他の動植物との関係又は生息環境若しくは生育環境の状況</p> <p>① 注目種の選定</p> <p>上位性注目種としては、以下の条件を設定しクマタカ、イタチ、ノスリを選定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該地域の生態系の上位に位置すること ・行動圏が大きく、対象事業実施区域及びその周辺を含む比較的広い環境を代表すること ・生態系の攪乱や環境変化等の影響を受けやすいこと ・現地調査で十分なデータが得られており、対象事業実施区域が主要な生息環境であると判断されること、また生態系の分析評価が可能であること ・対象事業実施区域及びその周辺を繁殖地、採餌場等の主要な生息地として利用していること ・生態に関する知見が多く、生息・生育状況が把握しやすいこと <p>典型性注目種としては、以下の条件を設定しシジウカラ、ニホンジカ、ホオジロ、エンマコオロギを選定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該地域の生態系において生物間の相互作用や生態系の機能に重要な役割を担うこと ・個体数あるいは現存量が多いこと ・生態系の攪乱や環境変化等の影響を受けやすいこと ・現地調査で十分なデータが得られており、対象事業実施区域が主要な生息環境であると判断されること、また生態系の分析評価が可能であること ・対象事業実施区域及びその周辺を繁殖地、採餌場等の主要な生息地として利用していること ・生態に関する知見が多く、生息・生育状況が把握しやすいこと ・対象事業実施区域では、該当する注目種が存在しないことから、特殊性注目種は選定しなかった。 <p>② 上位性注目種 (クマタカ)</p> <table border="1" data-bbox="331 987 1442 1890"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="336 987 475 1025">調査項目</th> <th colspan="5" data-bbox="475 987 1437 1025">調査結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="336 1025 475 1890">行動圏</td> <td data-bbox="475 1025 1437 1890"> <p>調査期間におけるクマタカの確認回数は合計1,094回であり、ディスプレイ飛翔や交尾、餌運搬、とまり、採餌行動等のほか、幼鳥についても確認した。</p> <p>確認された主な行動範囲は、対象事業実施区域西部、中央部、北西部、北東部の地域であった。</p> <p>対象事業実施区域及びその周辺には、個体特徴やディスプレイ飛翔等の状況から4ペア(南又川ペア、石合川ペア、上徳間ペア、佐野川ペア)が生息しているものと判断した。このうち、対象事業実施区域に近接して営巣またはその兆候のある南又川ペア及び石合川ペアについて、高利用域及び営巣中心域を抽出した。</p> <p style="text-align: center;">クマタカの高利用域及び営巣中心域の面積</p> <table border="1" data-bbox="509 1346 1409 1794"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="3">ペア名及び利用域</th> <th colspan="4">対象事業実施区域</th> <th rowspan="3">合計 面積(ha)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">内</th> <th colspan="2">外</th> </tr> <tr> <th>面積(ha)</th> <th>割合(%)</th> <th>面積(ha)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">南又川ペア</td> <td>高利用域</td> <td>137.3</td> <td>17.3</td> <td>657.8</td> <td>82.7</td> <td>795.1</td> </tr> <tr> <td>営巣中心域</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>350.2</td> <td>100.0</td> <td>350.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">石合川ペア</td> <td>高利用域</td> <td>97.2</td> <td>17.7</td> <td>452.7</td> <td>82.3</td> <td>549.9</td> </tr> <tr> <td>営巣中心域</td> <td>0.7</td> <td>0.4</td> <td>198.9</td> <td>99.6</td> <td>199.6</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </tbody> </table>	調査項目		調査結果					行動圏	<p>調査期間におけるクマタカの確認回数は合計1,094回であり、ディスプレイ飛翔や交尾、餌運搬、とまり、採餌行動等のほか、幼鳥についても確認した。</p> <p>確認された主な行動範囲は、対象事業実施区域西部、中央部、北西部、北東部の地域であった。</p> <p>対象事業実施区域及びその周辺には、個体特徴やディスプレイ飛翔等の状況から4ペア(南又川ペア、石合川ペア、上徳間ペア、佐野川ペア)が生息しているものと判断した。このうち、対象事業実施区域に近接して営巣またはその兆候のある南又川ペア及び石合川ペアについて、高利用域及び営巣中心域を抽出した。</p> <p style="text-align: center;">クマタカの高利用域及び営巣中心域の面積</p> <table border="1" data-bbox="509 1346 1409 1794"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="3">ペア名及び利用域</th> <th colspan="4">対象事業実施区域</th> <th rowspan="3">合計 面積(ha)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">内</th> <th colspan="2">外</th> </tr> <tr> <th>面積(ha)</th> <th>割合(%)</th> <th>面積(ha)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">南又川ペア</td> <td>高利用域</td> <td>137.3</td> <td>17.3</td> <td>657.8</td> <td>82.7</td> <td>795.1</td> </tr> <tr> <td>営巣中心域</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>350.2</td> <td>100.0</td> <td>350.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">石合川ペア</td> <td>高利用域</td> <td>97.2</td> <td>17.7</td> <td>452.7</td> <td>82.3</td> <td>549.9</td> </tr> <tr> <td>営巣中心域</td> <td>0.7</td> <td>0.4</td> <td>198.9</td> <td>99.6</td> <td>199.6</td> </tr> </tbody> </table>	ペア名及び利用域		対象事業実施区域				合計 面積(ha)	内		外		面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	割合(%)	南又川ペア	高利用域	137.3	17.3	657.8	82.7	795.1	営巣中心域	0.0	0.0	350.2	100.0	350.2	石合川ペア	高利用域	97.2	17.7	452.7	82.3	549.9	営巣中心域	0.7	0.4	198.9	99.6	199.6
調査項目		調査結果																																																	
行動圏	<p>調査期間におけるクマタカの確認回数は合計1,094回であり、ディスプレイ飛翔や交尾、餌運搬、とまり、採餌行動等のほか、幼鳥についても確認した。</p> <p>確認された主な行動範囲は、対象事業実施区域西部、中央部、北西部、北東部の地域であった。</p> <p>対象事業実施区域及びその周辺には、個体特徴やディスプレイ飛翔等の状況から4ペア(南又川ペア、石合川ペア、上徳間ペア、佐野川ペア)が生息しているものと判断した。このうち、対象事業実施区域に近接して営巣またはその兆候のある南又川ペア及び石合川ペアについて、高利用域及び営巣中心域を抽出した。</p> <p style="text-align: center;">クマタカの高利用域及び営巣中心域の面積</p> <table border="1" data-bbox="509 1346 1409 1794"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="3">ペア名及び利用域</th> <th colspan="4">対象事業実施区域</th> <th rowspan="3">合計 面積(ha)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">内</th> <th colspan="2">外</th> </tr> <tr> <th>面積(ha)</th> <th>割合(%)</th> <th>面積(ha)</th> <th>割合(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">南又川ペア</td> <td>高利用域</td> <td>137.3</td> <td>17.3</td> <td>657.8</td> <td>82.7</td> <td>795.1</td> </tr> <tr> <td>営巣中心域</td> <td>0.0</td> <td>0.0</td> <td>350.2</td> <td>100.0</td> <td>350.2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">石合川ペア</td> <td>高利用域</td> <td>97.2</td> <td>17.7</td> <td>452.7</td> <td>82.3</td> <td>549.9</td> </tr> <tr> <td>営巣中心域</td> <td>0.7</td> <td>0.4</td> <td>198.9</td> <td>99.6</td> <td>199.6</td> </tr> </tbody> </table>	ペア名及び利用域		対象事業実施区域				合計 面積(ha)	内				外		面積(ha)	割合(%)		面積(ha)	割合(%)	南又川ペア	高利用域	137.3	17.3	657.8	82.7	795.1	営巣中心域	0.0	0.0	350.2	100.0	350.2	石合川ペア	高利用域	97.2	17.7	452.7	82.3	549.9	営巣中心域	0.7	0.4	198.9	99.6	199.6						
ペア名及び利用域				対象事業実施区域					合計 面積(ha)																																										
				内		外																																													
		面積(ha)	割合(%)	面積(ha)	割合(%)																																														
南又川ペア	高利用域	137.3	17.3	657.8	82.7	795.1																																													
	営巣中心域	0.0	0.0	350.2	100.0	350.2																																													
石合川ペア	高利用域	97.2	17.7	452.7	82.3	549.9																																													
	営巣中心域	0.7	0.4	198.9	99.6	199.6																																													

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

(1) 上位性注目種 (クマタカ)

①クマタカへの影響予測手順

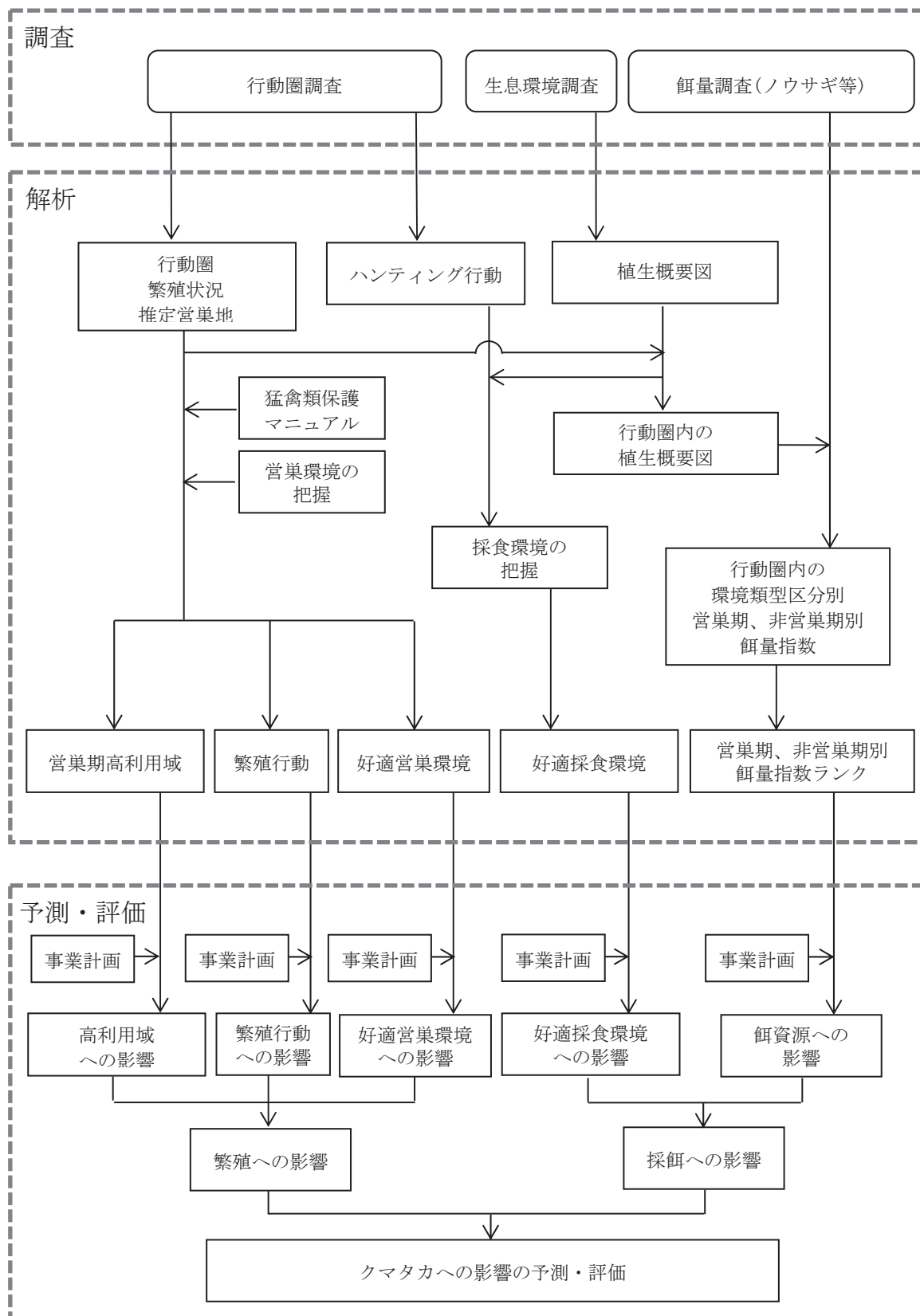


表 10-3(18) 工事中資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	講じようとする環境保全措置								
生態系	(調査結果の概要)								
	調査項目	調査結果							
	繁殖状況	<p>対象事業実施区域及びその周辺において、南又川ペア、石合川ペア、上徳間ペア、佐野川ペアの計4ペアが確認された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南又川ペア 平成31年/令和元年及び令和2年ともに、営巣期の途中まで繁殖に関わる行動が確認されたが、幼鳥の確認もなく、繁殖しなかったものと考えられる。なお、令和2年は複数回にわたって出入りしていた支流の谷で途中まで営巣していた可能性が考えられる。 ・石合川ペア 平成31年/令和元年は、繁殖に関わる行動が確認され抱卵しているものと考えられたが、その後出現が減り、幼鳥の確認もなかったことから、繁殖に失敗したものと考えられる。なお、10月の営巣場所調査で巣を確認した。 令和2年は、北側の森山を利用する動きも見られたが、繁殖はしなかったものと考えられる。 ・上徳間ペア 調査地域外であるが、南又川ペア及び石合川ペアの隣接ペアであることから、生息状況を確認するため、令和2年より調査地点を設定した。その年、繁殖が確認され、幼鳥も確認された。 ・佐野川ペア 令和2年に当年生まれと推察される幼鳥を確認した。平成31年/令和元年及び令和2年ともに、成鳥が出現し繁殖に関わる行動（ディスプレイ）も確認されたが、それら出現は散発的であり、巣材運搬や餌運搬等の営巣に関する行動も確認されなかったことから、さらに北側の調査地域外で営巣していたと考えられる。 <p>平成31年/令和元年は、南又川ペアと思われる個体の交尾、餌運搬、石合川ペアと思われる個体の餌運搬、巣を確認した。その他、V字ディスプレイ及び波状ディスプレイを計75回確認した。 令和2年は、南又川ペアと思われる個体の巣材運搬、餌運搬、上徳間ペアの繁殖、その後の巣立ち、佐野川ペアから巣立ったと思われる幼鳥を確認した。その他、V字ディスプレイ及び波状ディスプレイを計106回確認した。 なお、対象事業実施区域内で確認された繁殖行動は、巣材運搬が令和2年3月に1回、餌運搬が平成31年3月に1回、4月に1回、令和元年11月に1回、令和2年3月に1回確認された。V字ディスプレイ及び波状ディスプレイ等が平成30年、31年及び令和元年に9回、令和2年に11回確認された。</p>							
ハンティング行動	<p>クマタカのハンティング行動は、実際に獲物を追った行動のほか、急降下、探餌飛行、パーチハンティング、林内潜入を対象とした。なお、確認した急降下のうち、明らかに誇示や威嚇と考えられるものは対象外とした。</p> <p>ハンティング行動の確認回数は営巣期13回、非営巣期11回の計24回であり、うち6回が対象事業実施区域内での確認で、18回が対象事業実施区域外での確認であった。</p> <p>ハンティング行動は、行動圏内の広範囲で確認されているが、営巣期、非営巣期に係わらず、高利用域で多く確認されている。</p> <p>好適採食環境は、竹林等を除いたほとんどの地域が該当し、面積約1,334.3ha（高利用域に占める割合：99.0%）で、ハンティング行動の観察位置を含んでいた。</p> <p style="text-align: center;">クマタカのハンティング行動の確認回数</p> <table border="1" data-bbox="683 1704 1233 1928" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>確認回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全 期 間</td> <td>24</td> </tr> <tr> <td>営 巣 期</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>非営巣期</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	確認回数	全 期 間	24	営 巣 期	13	非営巣期	11
区 分	確認回数								
全 期 間	24								
営 巣 期	13								
非営巣期	11								

(予測結果の概要)

②予測結果の概要

イ. 繁殖への影響

(イ) 営巣期高利用域への影響

クマタカの営巣期高利用域は主に対象事業実施区域の中央から西側を含んでいる。高利用域内のうち対象事業実施区域と重なるのは南又川ペアで17.3%、石合川ペアで17.7%であり、工事の実施による影響を受ける可能性がある。しかし、既設鉄塔より建替え鉄塔を高くし線下伐採の面積を減らすことで、改変範囲を縮小すること、工所用資材等の運搬に当たっては、既存の道路の活用や改変範囲が少ないモノレール運搬を活用し、新たな道路の設置及び幅は最小化すること等により、樹木伐採の改変範囲を必要最小限とすることから、工事の実施によるクマタカの営巣期高利用域への影響は少ないものと予測する。ただし、この予測結果には不確実性が残る。

(ロ) 繁殖行動への影響

クマタカの繁殖行動として、営巣期に餌運びやV字ディスプレイが確認されており、また、対象事業実施区域周辺には営巣地が存在していることから、工事の実施による影響を受ける可能性がある。しかし、樹林伐採等の改変範囲を必要最小限とすることから、工事の実施によるクマタカの繁殖行動への影響は少ないものと予測する。ただし、この予測結果には不確実性が残る。

(ハ) 好適営巣環境への影響

クマタカ高利用域内の好適営巣環境のうち一部が対象事業実施区域と重なるが、営巣中心域についてはほとんど重ならない。また、樹林伐採等の改変範囲を必要最小限とする。このことから、工事の実施及び工作物の存在によるクマタカの好適営巣環境への影響は少ないものと予測する。

なお、調査地域内では2つがい（南又川ペア、石合川ペア）の存在が確認されているが、両ペアの巣（南又川ペアは推定）から対象事業実施区域までの距離は何れも1km以上離れている。

上記(イ)～(ハ)の営巣期高利用域、繁殖行動及び好適営巣環境が重なる地域は、対象事業実施区域及びその周辺に生息するクマタカの繁殖にとって重要な地域と考えられるが、営巣中心域は対象事業実施区域の南側～南西側に広く分布している。改変範囲を必要最小限とすること等から、工事の実施及び工作物の存在によるクマタカの繁殖への影響は少ないものと予測する。

ロ. 採餌への影響

(イ) 好適採食環境への影響

クマタカ高利用域内の好適採食環境の面積は1,334.3haで、事業の実施及び工作物の存在に伴う樹木伐採等により、好適採食環境は8.6ha減少する。しかし、事業実施前後での好適採食環境の変化割合が極めて小さいこと、建替え送電線建設後、可能な限り速やかに既設送電線撤去工事を行うことで植生の早期回復を図ることから、工事の実施及び工作物の存在によるクマタカの採餌場への影響はほとんどないものと予測する。

(ロ) 餌資源への影響

餌資源への影響については、事業実施前後での餌量指数ランクの変化を用いて予測した。

事業実施前後での餌量指数ランクの変化は、クマタカの高利用域内における餌量指数ランクのメッシュ数について、営巣期及び非営巣期に分類して算出した。餌量指数ランクの変化は事業実施前後で営巣期、非営巣期ともにAランクがわずかに減少した。

事業実施前後での餌量指数ランクの変化割合は少ないこと、建替え送電線建設後、可能な限り速やかに既設送電線撤去工事を行うことで植生の早期回復を図ることから、工事の実施及び工作物の存在によるクマタカの餌資源への影響はほとんどないものと予測する。

表 10-3(19) 工事中資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目		講じようとする環境保全措置									
生態系	(調査結果の概要)										
	調査項目	調査結果									
	餌量	現地調査により環境類型区分毎のノウサギ及びヤマドリ、ヘビ類の時期別生息密度又は単位距離当たりの個体数を把握したのち、時期別の単位面積・距離当たりの餌量を指数化した。環境類型区分毎の時期別の餌量指数は下表のとおりである。									
	営巣期の餌量指数										
	環境類型区分		ノウサギ糞粒法 (1~7月)		ヤマドリ (1月・5月)			ヘビ類 (5月)		ノウサギ・ヤマドリ・ヘビ類 指数平均	営巣期 餌量指数
		生息密度 (個体/ha)	指数	生息密度 (個体/km)	指数	指数平均	生息密度 (個体/km)	指数			
	常緑広葉樹林	0.000	0.000	12.500 0.000	1.000 0.000	0.500	0.000	0.000	0.167	0.273	
	落葉広葉樹林	0.000	0.000	4.975 0.000	0.398 0.000	0.199	2.488	1.000	0.400	0.655	
	常緑針葉樹林	0.011	1.000	0.117 0.117	0.009 1.000	0.505	0.819	0.329	0.611	1.000	
	竹林	0.000	0.000	0.000 0.000	0.000 0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	
草地	0.003	0.273	0.000 0.000	0.000 0.000	0.000	1.029	0.413	0.229	0.374		
その他	0.000	0.000	0.000 0.000	0.000 0.000	0.000	0.679	0.273	0.091	0.149		
注：ヤマドリの生息密度及び指数は上段が1月、下段が5月を示す。											
非営巣期の餌量指数											
環境類型区分		ノウサギ糞粒法 (8~12月)		ヤマドリ (8月・10月)			ヘビ類 (8月・10月)		ノウサギ・ヤマドリ・ヘビ類 指数平均	非営巣期 餌量指数	
	生息密度 (個体/ha)	指数	生息密度 (個体/km)	指数	指数平均	生息密度 (個体/km)	指数	指数平均			
常緑広葉樹林	0.000	0.000	0.000 0.000	0.000 0.000	0.000	0.000 0.000	0.000 0.000	0.000	0.000	0.000	
落葉広葉樹林	0.000	0.000	0.000 0.000	0.000 0.000	0.000	1.244 0.000	0.279 0.000	0.140	0.047	0.069	
常緑針葉樹林	0.002	1.000	0.234 0.117	0.688 1.000	0.844	1.053 0.234	0.236 0.152	0.194	0.679	1.000	
竹林	0.000	0.000	0.000 0.000	0.000 0.000	0.000	4.464 0.000	1.000 0.000	0.500	0.167	0.246	
草地	0.001	0.500	0.257 0.000	0.756 0.000	0.378	0.257 1.543	0.058 1.000	0.529	0.469	0.691	
その他	0.000	0.000	0.340 0.000	1.000 0.000	0.500	0.679 1.019	0.152 0.660	0.406	0.302	0.445	
注：ヤマドリ、ヘビ類の生息密度及び指数は上段が8月、下段が10月を示す。											

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

(空白)

表 10-3(20) 工事中資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	講じようとする環境保全措置																			
生態系	(調査結果の概要)																			
	調査項目	調査結果																		
	餌量	<p>餌量指数の算出結果に基づき、ランクを5区分としたクマタカの餌量区分図を作成した。最も餌量が多いと考えられる区分 (0.800<餌量指数≤1.000) を「A」、最も適さないと考えられる区分 (餌量指数≤0.200) を「E」とした。</p> <p>クマタカの高地用域内の餌量区分のメッシュ数は下表のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">クマタカの高利用域内の餌量指数ランク別メッシュ数</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>餌量指数ランク</th> <th>営巣期</th> <th>非営巣期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>210</td> <td>106</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>49</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>2</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>1</td> <td>22</td> </tr> <tr> <td>E</td> <td>0</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table>	餌量指数ランク	営巣期	非営巣期	A	210	106	B	49	81	C	2	43	D	1	22	E	0	10
餌量指数ランク	営巣期	非営巣期																		
A	210	106																		
B	49	81																		
C	2	43																		
D	1	22																		
E	0	10																		
	(講じようとする環境保全措置)																			
	生態系注目種クマタカに係る環境保全措置																			
	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象種</th> <th colspan="2">環境保全措置</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">クマタカ</td> <td>最小化</td> <td> <p>【営巣期高利用域への影響】</p> <p>改変範囲をより小さくするため、以下の措置を講じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建替え鉄塔を当初計画より2基[*]減らす (図 8.1.4-56)。 </td> </tr> <tr> <td>回避</td> <td> <p>【繁殖行動 (営巣) への影響】</p> <p>南又川ペア及び石合川ペアへの樹木伐採及びヘリコプター運航に関する影響を回避するため、以下の措置を講じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 樹木伐採については、営巣期 (1~7月) のうち 1~5月 は営巣中心域及び高利用域の何れにおいても行わず、6~7月 も営巣中心域では極力行わない。 ・ ヘリコプターによる工事中資材等の運搬については、営巣期 (1~7月) のうち 1~5月 は営巣中心域及び高利用域の何れにおいても行わず、6~7月 も営巣中心域を避けるルートを選定する (図 8.1.4-57)。 </td> </tr> <tr> <td>最小化</td> <td> <p>【繁殖行動 (営巣) への影響】</p> <p>工事の実施による影響をより最小化するため、以下の措置を講じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施工方法や工程を検討し、工事に対してクマタカを馴れさせるため、工事の稼働率を段階的に上げるコンディショニングを行う。また、建設機械の集中稼働を避ける。 </td> </tr> </tbody> </table>		対象種	環境保全措置		種類	内容	クマタカ	最小化	<p>【営巣期高利用域への影響】</p> <p>改変範囲をより小さくするため、以下の措置を講じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建替え鉄塔を当初計画より2基[*]減らす (図 8.1.4-56)。 	回避	<p>【繁殖行動 (営巣) への影響】</p> <p>南又川ペア及び石合川ペアへの樹木伐採及びヘリコプター運航に関する影響を回避するため、以下の措置を講じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 樹木伐採については、営巣期 (1~7月) のうち 1~5月 は営巣中心域及び高利用域の何れにおいても行わず、6~7月 も営巣中心域では極力行わない。 ・ ヘリコプターによる工事中資材等の運搬については、営巣期 (1~7月) のうち 1~5月 は営巣中心域及び高利用域の何れにおいても行わず、6~7月 も営巣中心域を避けるルートを選定する (図 8.1.4-57)。 	最小化	<p>【繁殖行動 (営巣) への影響】</p> <p>工事の実施による影響をより最小化するため、以下の措置を講じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施工方法や工程を検討し、工事に対してクマタカを馴れさせるため、工事の稼働率を段階的に上げるコンディショニングを行う。また、建設機械の集中稼働を避ける。 						
対象種	環境保全措置																			
	種類	内容																		
クマタカ	最小化	<p>【営巣期高利用域への影響】</p> <p>改変範囲をより小さくするため、以下の措置を講じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建替え鉄塔を当初計画より2基[*]減らす (図 8.1.4-56)。 																		
	回避	<p>【繁殖行動 (営巣) への影響】</p> <p>南又川ペア及び石合川ペアへの樹木伐採及びヘリコプター運航に関する影響を回避するため、以下の措置を講じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 樹木伐採については、営巣期 (1~7月) のうち 1~5月 は営巣中心域及び高利用域の何れにおいても行わず、6~7月 も営巣中心域では極力行わない。 ・ ヘリコプターによる工事中資材等の運搬については、営巣期 (1~7月) のうち 1~5月 は営巣中心域及び高利用域の何れにおいても行わず、6~7月 も営巣中心域を避けるルートを選定する (図 8.1.4-57)。 																		
	最小化	<p>【繁殖行動 (営巣) への影響】</p> <p>工事の実施による影響をより最小化するため、以下の措置を講じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施工方法や工程を検討し、工事に対してクマタカを馴れさせるため、工事の稼働率を段階的に上げるコンディショニングを行う。また、建設機械の集中稼働を避ける。 																		

(評価の概要)

工事用資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在に伴うクマタカの営巣期高利用域及び繁殖行動（営巣）への影響は調査及び予測の結果は、実行可能な範囲内でできる限り緩和され、環境保全についての配慮が適正になされていると評価する。

ただし、一部の予測結果に不確実性が残ることから、左欄の環境保全措置を実施することにより、環境保全についての配慮が適正になされていると評価した。

表 10-3(21) 工事中資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	講じようとする環境保全措置																																																																																																																					
生態系	(調査結果の概要) ③ 上位性注目種 (イタチ)																																																																																																																					
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="331 324 475 349">調査項目</th> <th data-bbox="475 324 1437 349">調査結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="331 349 475 1447">生息状況</td> <td data-bbox="475 349 1437 1447"> <p>調査範囲にイタチは合計6回確認された。イタチは調査範囲において東西に点々と生息が確認されており調査範囲内で広く生息していることが考えられる。類型区分別にみると、草地で4地点、常緑針葉樹林で1地点、竹林で1地点確認されていることから対象事業実施区域では草地を主要な生息環境として、その林縁までが生息環境となっていると考えられる。</p> <p>また、確認例が秋に集中しており、イタチの幼獣が巣立って間もない秋は動きが活発になると考えられる。</p> <p style="text-align: center;">イタチ調査ルート別確認例数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ルート</th> <th rowspan="2">地形</th> <th rowspan="2">主な植生</th> <th colspan="4">調査期</th> </tr> <tr> <th>春季</th> <th>夏季</th> <th>秋季</th> <th>冬季</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>アカシデーイヌシデ群落 (V)、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>アカシデーイヌシデ群落 (V)、イロハモミジケヤキ群集、ウラジロガシ二次林、スギ・ヒノキ・サワラ植林</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>イロハモミジケヤキ群集、クヌギコナラ群集、アカシデーイヌシデ群落 (VII)、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、路傍・空地雑草群落</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>ススキ群団 (VII)、シバ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、伐採跡地群落</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>オニシバリーコナラ群集、ツルヨシ群集、水田雑草群落、緑の多い住宅地</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>ウラジロガシ二次林、クヌギコナラ群集、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>ツルヨシ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、緑の多い住宅地</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R8</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>オニシバリーコナラ群集、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、モミ植林、竹林、緑の多い住宅地</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R9</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>オニシバリーコナラ群集、チガヤーススキ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、伐採跡地群落、竹林</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R10</td> <td>台地</td> <td>路傍・空地雑草群落、畑雑草群落、緑の多い住宅地</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R11</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>イロハモミジケヤキ群集、ススキ群団、スギ・ヒノキ・サワラ植林、緑の多い住宅地</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="331 1447 475 1962">生息環境</td> <td data-bbox="475 1447 1437 1962"> <p>調査地域内の各環境類型区分の面積は下表のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">調査範囲、対象事業実施区域の環境類型区分の面積</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">環境類型区分</th> <th colspan="2">占有面積 (ha)</th> </tr> <tr> <th>調査地域</th> <th>対象事業実施区域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常緑広葉樹林</td> <td>3.72</td> <td>3.72</td> </tr> <tr> <td>落葉広葉樹林</td> <td>144.07</td> <td>74.20</td> </tr> <tr> <td>常緑針葉樹林</td> <td>758.06</td> <td>387.87</td> </tr> <tr> <td>竹林</td> <td>20.46</td> <td>10.78</td> </tr> <tr> <td>草地</td> <td>103.37</td> <td>67.55</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>61.77</td> <td>23.59</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </tbody> </table>	調査項目	調査結果	生息状況	<p>調査範囲にイタチは合計6回確認された。イタチは調査範囲において東西に点々と生息が確認されており調査範囲内で広く生息していることが考えられる。類型区分別にみると、草地で4地点、常緑針葉樹林で1地点、竹林で1地点確認されていることから対象事業実施区域では草地を主要な生息環境として、その林縁までが生息環境となっていると考えられる。</p> <p>また、確認例が秋に集中しており、イタチの幼獣が巣立って間もない秋は動きが活発になると考えられる。</p> <p style="text-align: center;">イタチ調査ルート別確認例数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ルート</th> <th rowspan="2">地形</th> <th rowspan="2">主な植生</th> <th colspan="4">調査期</th> </tr> <tr> <th>春季</th> <th>夏季</th> <th>秋季</th> <th>冬季</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>アカシデーイヌシデ群落 (V)、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>アカシデーイヌシデ群落 (V)、イロハモミジケヤキ群集、ウラジロガシ二次林、スギ・ヒノキ・サワラ植林</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>イロハモミジケヤキ群集、クヌギコナラ群集、アカシデーイヌシデ群落 (VII)、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、路傍・空地雑草群落</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>ススキ群団 (VII)、シバ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、伐採跡地群落</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>オニシバリーコナラ群集、ツルヨシ群集、水田雑草群落、緑の多い住宅地</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>ウラジロガシ二次林、クヌギコナラ群集、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>ツルヨシ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、緑の多い住宅地</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R8</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>オニシバリーコナラ群集、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、モミ植林、竹林、緑の多い住宅地</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R9</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>オニシバリーコナラ群集、チガヤーススキ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、伐採跡地群落、竹林</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R10</td> <td>台地</td> <td>路傍・空地雑草群落、畑雑草群落、緑の多い住宅地</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R11</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>イロハモミジケヤキ群集、ススキ群団、スギ・ヒノキ・サワラ植林、緑の多い住宅地</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	ルート	地形	主な植生	調査期				春季	夏季	秋季	冬季	R1	山地・丘陵地	アカシデーイヌシデ群落 (V)、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林					R2	山地・丘陵地	アカシデーイヌシデ群落 (V)、イロハモミジケヤキ群集、ウラジロガシ二次林、スギ・ヒノキ・サワラ植林					R3	山地・丘陵地	イロハモミジケヤキ群集、クヌギコナラ群集、アカシデーイヌシデ群落 (VII)、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、路傍・空地雑草群落			1		R4	山地・丘陵地	ススキ群団 (VII)、シバ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、伐採跡地群落					R5	山地・丘陵地	オニシバリーコナラ群集、ツルヨシ群集、水田雑草群落、緑の多い住宅地			1		R6	山地・丘陵地	ウラジロガシ二次林、クヌギコナラ群集、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林					R7	山地・丘陵地	ツルヨシ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、緑の多い住宅地					R8	山地・丘陵地	オニシバリーコナラ群集、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、モミ植林、竹林、緑の多い住宅地			1		R9	山地・丘陵地	オニシバリーコナラ群集、チガヤーススキ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、伐採跡地群落、竹林					R10	台地	路傍・空地雑草群落、畑雑草群落、緑の多い住宅地			2		R11	山地・丘陵地	イロハモミジケヤキ群集、ススキ群団、スギ・ヒノキ・サワラ植林、緑の多い住宅地			1		生息環境	<p>調査地域内の各環境類型区分の面積は下表のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">調査範囲、対象事業実施区域の環境類型区分の面積</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">環境類型区分</th> <th colspan="2">占有面積 (ha)</th> </tr> <tr> <th>調査地域</th> <th>対象事業実施区域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常緑広葉樹林</td> <td>3.72</td> <td>3.72</td> </tr> <tr> <td>落葉広葉樹林</td> <td>144.07</td> <td>74.20</td> </tr> <tr> <td>常緑針葉樹林</td> <td>758.06</td> <td>387.87</td> </tr> <tr> <td>竹林</td> <td>20.46</td> <td>10.78</td> </tr> <tr> <td>草地</td> <td>103.37</td> <td>67.55</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>61.77</td> <td>23.59</td> </tr> </tbody> </table>	環境類型区分	占有面積 (ha)		調査地域	対象事業実施区域	常緑広葉樹林	3.72	3.72	落葉広葉樹林	144.07	74.20	常緑針葉樹林	758.06	387.87	竹林	20.46	10.78	草地	103.37	67.55	その他	61.77	23.59
	調査項目	調査結果																																																																																																																				
	生息状況	<p>調査範囲にイタチは合計6回確認された。イタチは調査範囲において東西に点々と生息が確認されており調査範囲内で広く生息していることが考えられる。類型区分別にみると、草地で4地点、常緑針葉樹林で1地点、竹林で1地点確認されていることから対象事業実施区域では草地を主要な生息環境として、その林縁までが生息環境となっていると考えられる。</p> <p>また、確認例が秋に集中しており、イタチの幼獣が巣立って間もない秋は動きが活発になると考えられる。</p> <p style="text-align: center;">イタチ調査ルート別確認例数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ルート</th> <th rowspan="2">地形</th> <th rowspan="2">主な植生</th> <th colspan="4">調査期</th> </tr> <tr> <th>春季</th> <th>夏季</th> <th>秋季</th> <th>冬季</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>アカシデーイヌシデ群落 (V)、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>アカシデーイヌシデ群落 (V)、イロハモミジケヤキ群集、ウラジロガシ二次林、スギ・ヒノキ・サワラ植林</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>イロハモミジケヤキ群集、クヌギコナラ群集、アカシデーイヌシデ群落 (VII)、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、路傍・空地雑草群落</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>ススキ群団 (VII)、シバ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、伐採跡地群落</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>オニシバリーコナラ群集、ツルヨシ群集、水田雑草群落、緑の多い住宅地</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>ウラジロガシ二次林、クヌギコナラ群集、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>ツルヨシ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、緑の多い住宅地</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R8</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>オニシバリーコナラ群集、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、モミ植林、竹林、緑の多い住宅地</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R9</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>オニシバリーコナラ群集、チガヤーススキ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、伐採跡地群落、竹林</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R10</td> <td>台地</td> <td>路傍・空地雑草群落、畑雑草群落、緑の多い住宅地</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R11</td> <td>山地・丘陵地</td> <td>イロハモミジケヤキ群集、ススキ群団、スギ・ヒノキ・サワラ植林、緑の多い住宅地</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	ルート	地形	主な植生	調査期				春季	夏季	秋季	冬季	R1	山地・丘陵地	アカシデーイヌシデ群落 (V)、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林					R2	山地・丘陵地	アカシデーイヌシデ群落 (V)、イロハモミジケヤキ群集、ウラジロガシ二次林、スギ・ヒノキ・サワラ植林					R3	山地・丘陵地	イロハモミジケヤキ群集、クヌギコナラ群集、アカシデーイヌシデ群落 (VII)、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、路傍・空地雑草群落			1		R4	山地・丘陵地	ススキ群団 (VII)、シバ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、伐採跡地群落					R5	山地・丘陵地	オニシバリーコナラ群集、ツルヨシ群集、水田雑草群落、緑の多い住宅地			1		R6	山地・丘陵地	ウラジロガシ二次林、クヌギコナラ群集、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林					R7	山地・丘陵地	ツルヨシ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、緑の多い住宅地					R8	山地・丘陵地	オニシバリーコナラ群集、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、モミ植林、竹林、緑の多い住宅地			1		R9	山地・丘陵地	オニシバリーコナラ群集、チガヤーススキ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、伐採跡地群落、竹林					R10	台地	路傍・空地雑草群落、畑雑草群落、緑の多い住宅地			2		R11	山地・丘陵地	イロハモミジケヤキ群集、ススキ群団、スギ・ヒノキ・サワラ植林、緑の多い住宅地			1																													
ルート	地形	主な植生				調査期																																																																																																																
			春季	夏季	秋季	冬季																																																																																																																
R1	山地・丘陵地	アカシデーイヌシデ群落 (V)、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林																																																																																																																				
R2	山地・丘陵地	アカシデーイヌシデ群落 (V)、イロハモミジケヤキ群集、ウラジロガシ二次林、スギ・ヒノキ・サワラ植林																																																																																																																				
R3	山地・丘陵地	イロハモミジケヤキ群集、クヌギコナラ群集、アカシデーイヌシデ群落 (VII)、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、路傍・空地雑草群落			1																																																																																																																	
R4	山地・丘陵地	ススキ群団 (VII)、シバ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、伐採跡地群落																																																																																																																				
R5	山地・丘陵地	オニシバリーコナラ群集、ツルヨシ群集、水田雑草群落、緑の多い住宅地			1																																																																																																																	
R6	山地・丘陵地	ウラジロガシ二次林、クヌギコナラ群集、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林																																																																																																																				
R7	山地・丘陵地	ツルヨシ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、緑の多い住宅地																																																																																																																				
R8	山地・丘陵地	オニシバリーコナラ群集、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、モミ植林、竹林、緑の多い住宅地			1																																																																																																																	
R9	山地・丘陵地	オニシバリーコナラ群集、チガヤーススキ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、伐採跡地群落、竹林																																																																																																																				
R10	台地	路傍・空地雑草群落、畑雑草群落、緑の多い住宅地			2																																																																																																																	
R11	山地・丘陵地	イロハモミジケヤキ群集、ススキ群団、スギ・ヒノキ・サワラ植林、緑の多い住宅地			1																																																																																																																	
生息環境	<p>調査地域内の各環境類型区分の面積は下表のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">調査範囲、対象事業実施区域の環境類型区分の面積</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">環境類型区分</th> <th colspan="2">占有面積 (ha)</th> </tr> <tr> <th>調査地域</th> <th>対象事業実施区域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常緑広葉樹林</td> <td>3.72</td> <td>3.72</td> </tr> <tr> <td>落葉広葉樹林</td> <td>144.07</td> <td>74.20</td> </tr> <tr> <td>常緑針葉樹林</td> <td>758.06</td> <td>387.87</td> </tr> <tr> <td>竹林</td> <td>20.46</td> <td>10.78</td> </tr> <tr> <td>草地</td> <td>103.37</td> <td>67.55</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>61.77</td> <td>23.59</td> </tr> </tbody> </table>	環境類型区分	占有面積 (ha)		調査地域	対象事業実施区域	常緑広葉樹林	3.72	3.72	落葉広葉樹林	144.07	74.20	常緑針葉樹林	758.06	387.87	竹林	20.46	10.78	草地	103.37	67.55	その他	61.77	23.59																																																																																														
環境類型区分	占有面積 (ha)																																																																																																																					
	調査地域	対象事業実施区域																																																																																																																				
常緑広葉樹林	3.72	3.72																																																																																																																				
落葉広葉樹林	144.07	74.20																																																																																																																				
常緑針葉樹林	758.06	387.87																																																																																																																				
竹林	20.46	10.78																																																																																																																				
草地	103.37	67.55																																																																																																																				
その他	61.77	23.59																																																																																																																				

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

(2) 上位性注目種 (イタチ)

①イタチへの影響予測手順

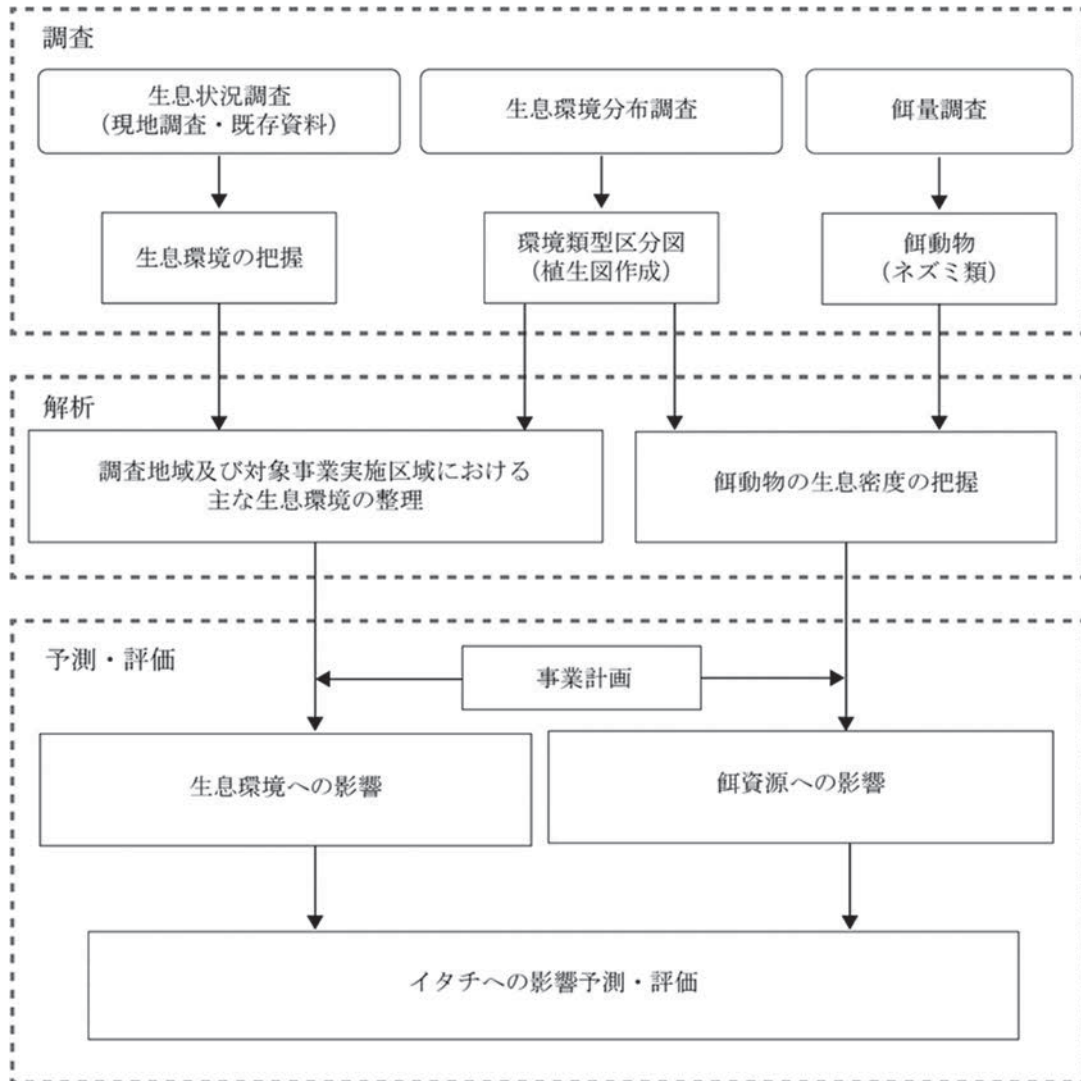


表 10-3(22) 工事用資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目		講じようとする環境保全措置								
生態系	(調査結果の概要)									
	調査項目	調査結果								
	餌量	<p>捕獲調査では、ジネズミ、ヒミズ、アカネズミ、ヒメネズミの4種が捕獲された。 これらをイタチの餌資源として、トラップ一個あたりの調査面積5m×5m=25m²と設定し、捕獲数の合計をトラップ設置数及び調査面積で除し、各調査地点におけるネズミ類の生息密度を算出した。 また、環境類型区分ごとに算出した結果を下表に示す。ネズミの生息密度は竹林、常緑広葉樹、落葉広葉樹林、草地、常緑針葉樹林の順に高かった。</p>								
	調査地点別季節別の捕獲個体数(1)									
	調査地点	主な植生	春季				夏季			
			ジネズミ	ヒミズ	アカネズミ	ヒメネズミ	ジネズミ	ヒミズ	アカネズミ	ヒメネズミ
	P1	スギ・ヒノキ植林				1				
	P2	タブノキ、ヒメシャラ等の広葉樹林			3	5				
	P3	イロハモミジ等の広葉樹林				6			2	1
	P4	スギ植林								1
P5	雑草群落			3			1	2		
P6	雑草群落			1				3		
P7	雑草群落			1						
P8	ススキ群集			2				2	1	
P9	竹林				11			2	3	
P10	スギ・ヒノキ植林			1				2		
P11	ススキ群集			2				2		
P12	クヌギ、コナラ、アラカシ等の広葉樹林				5					
P13	スギ植林									
調査地点別季節別の捕獲個体数(2)										
調査地点	主な植生	秋季				冬季				
		ジネズミ	ヒミズ	アカネズミ	ヒメネズミ	ジネズミ	ヒミズ	アカネズミ	ヒメネズミ	
P1	スギ・ヒノキ植林									
P2	タブノキ、ヒメシャラ等の広葉樹林		2		4					
P3	イロハモミジ等の広葉樹林			1	2					
P4	スギ植林									
P5	雑草群落			1						
P6	雑草群落	1		4						
P7	雑草群落				1			1	2	
P8	ススキ群集			4	1					
P9	竹林			4	2					
P10	スギ・ヒノキ植林			1	4			4	3	
P11	ススキ群集	1			4			1		
P12	クヌギ、コナラ、アラカシ等の広葉樹林									
P13	スギ植林			4						

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

②予測結果の概要

イ. 生息環境への影響

イタチの事業実施前後での主要な生息環境（常緑針葉樹林、竹林、草地）の面積変化は、下表に示すとおりである。

事業実施により10.08haの常緑針葉樹林、0.28haの竹林及び6.91haの草地が消失し、これは調査地域における常緑針葉樹林の1.3%、竹林の1.4%、草地の6.7%に該当する。対象事業実施区域では常緑針葉樹林の2.6%、竹林の2.6%、草地の10.2%に該当する。

事業実施により消失する割合は草地が10%程度、常緑針葉樹林及び竹林がそれぞれ3%未満であり、同様の環境は周辺にも広く分布すること、保安伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられること、一方で、保安伐採により、一時的に草地環境が創出されることから、イタチの生息環境への影響は少ないものと予測する。

事業実施前後での主要な生息環境の面積変化

(単位：ha)

		事業実施前	事業実施後	変化量
常緑針葉樹林	調査地域	758.06	747.98	-10.08
	対象事業実施区域	387.87	377.79	
竹 林	調査地域	20.46	20.18	-0.28
	対象事業実施区域	10.78	10.50	
草 地	調査地域	103.37	96.46	-6.91
	対象事業実施区域	67.55	60.64	

ロ. 餌資源への影響

イタチの対象事業実施前後での主要な生息環境の餌資源変化(個体数)は、下表に示すとおりである。

調査地域の餌資源の現存量は、事業実施前は8,795.9個体であるが、事業実施後には8,603.0個体となり、192.9個体減少する。事業実施により常緑針葉樹林において88.2個体、竹林において10.3個体、草地において94.4個体が消失し、これは調査地域における常緑針葉樹林の1.3%、竹林の1.4%、草地の6.7%に該当する。対象事業実施区域では常緑針葉樹林の2.6%、竹林の2.6%、草地の10.2%に該当する。

事業実施により草地が10%程度、常緑針葉樹林及び竹林が3%未満消失することとなるが、同様の環境は周辺部にも広く分布する。また、常緑針葉樹林については事業実施により裸地化した場所が草地環境に変化した場合、小型哺乳類の生息数は改変後に増加するものと考えられる。さらに、保安伐採により草地環境は一時的に創出されることとなる

以上のことから、イタチの餌資源への影響は少ないものと予測する。

対象事業実施前後での主要な生息環境の餌資源変化(個体数)

		事業実施前	事業実施後	変化量
常緑針葉樹林	調査地域	6,633.0	6,544.8	-88.2
	対象事業実施区域	3,393.9	3,305.7	
竹 林	調査地域	750.2	739.9	-10.3
	対象事業実施区域	395.3	385.1	
草 地	調査地域	1,412.7	1,318.3	-94.4
	対象事業実施区域	923.1	828.7	
合 計	調査地域	8,795.9	8,603.0	-192.9
	対象事業実施区域	4,712.3	4,519.4	

表 10-3(23) 工事中資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	講じようとする環境保全措置																																																																																																																
生態系	(調査結果の概要)																																																																																																																
	調査項目	調査結果																																																																																																															
	餌量	調査地点毎の小型哺乳類の生息密度																																																																																																															
	<table border="1" data-bbox="592 360 1326 1088"> <thead> <tr> <th>調査地点</th> <th>環境類型区分</th> <th>捕獲合計数</th> <th>トラップ設置数(延べ数)</th> <th>トラップ設置面積(延べha)</th> <th>生息密度(個体/ha)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>P1</td><td>常緑針葉樹林</td><td>1</td><td>240</td><td>0.6</td><td>1.7</td></tr> <tr><td>P2</td><td>落葉広葉樹林</td><td>14</td><td>240</td><td>0.6</td><td>23.3</td></tr> <tr><td>P3</td><td>常緑広葉樹林</td><td>12</td><td>240</td><td>0.6</td><td>20.0</td></tr> <tr><td>P4</td><td>常緑針葉樹林</td><td>1</td><td>240</td><td>0.6</td><td>1.7</td></tr> <tr><td>P5</td><td>草地</td><td>7</td><td>240</td><td>0.6</td><td>11.7</td></tr> <tr><td>P6</td><td>草地</td><td>9</td><td>240</td><td>0.6</td><td>15.0</td></tr> <tr><td>P7</td><td>草地</td><td>5</td><td>240</td><td>0.6</td><td>8.3</td></tr> <tr><td>P8</td><td>草地</td><td>10</td><td>240</td><td>0.6</td><td>16.7</td></tr> <tr><td>P9</td><td>竹林</td><td>22</td><td>240</td><td>0.6</td><td>36.7</td></tr> <tr><td>P10</td><td>常緑針葉樹林</td><td>15</td><td>240</td><td>0.6</td><td>25.0</td></tr> <tr><td>P11</td><td>草地</td><td>10</td><td>240</td><td>0.6</td><td>16.7</td></tr> <tr><td>P12</td><td>落葉広葉樹林</td><td>5</td><td>240</td><td>0.6</td><td>8.3</td></tr> <tr><td>P13</td><td>常緑針葉樹林</td><td>4</td><td>240</td><td>0.6</td><td>6.7</td></tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="624 1171 1294 1525"> <thead> <tr> <th>環境類型区分</th> <th>捕獲合計数</th> <th>トラップ設置面積(延べha)</th> <th>生息密度(個体/ha)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>常緑広葉樹林</td><td>12</td><td>0.6</td><td>20.0</td></tr> <tr><td>落葉広葉樹林</td><td>19</td><td>1.2</td><td>15.8</td></tr> <tr><td>常緑針葉樹林</td><td>21</td><td>2.4</td><td>8.8</td></tr> <tr><td>竹林</td><td>22</td><td>0.6</td><td>36.7</td></tr> <tr><td>草地</td><td>41</td><td>3.0</td><td>13.7</td></tr> </tbody> </table>						調査地点	環境類型区分	捕獲合計数	トラップ設置数(延べ数)	トラップ設置面積(延べha)	生息密度(個体/ha)	P1	常緑針葉樹林	1	240	0.6	1.7	P2	落葉広葉樹林	14	240	0.6	23.3	P3	常緑広葉樹林	12	240	0.6	20.0	P4	常緑針葉樹林	1	240	0.6	1.7	P5	草地	7	240	0.6	11.7	P6	草地	9	240	0.6	15.0	P7	草地	5	240	0.6	8.3	P8	草地	10	240	0.6	16.7	P9	竹林	22	240	0.6	36.7	P10	常緑針葉樹林	15	240	0.6	25.0	P11	草地	10	240	0.6	16.7	P12	落葉広葉樹林	5	240	0.6	8.3	P13	常緑針葉樹林	4	240	0.6	6.7	環境類型区分	捕獲合計数	トラップ設置面積(延べha)	生息密度(個体/ha)	常緑広葉樹林	12	0.6	20.0	落葉広葉樹林	19	1.2	15.8	常緑針葉樹林	21	2.4	8.8	竹林	22	0.6	36.7	草地	41	3.0
調査地点	環境類型区分	捕獲合計数	トラップ設置数(延べ数)	トラップ設置面積(延べha)	生息密度(個体/ha)																																																																																																												
P1	常緑針葉樹林	1	240	0.6	1.7																																																																																																												
P2	落葉広葉樹林	14	240	0.6	23.3																																																																																																												
P3	常緑広葉樹林	12	240	0.6	20.0																																																																																																												
P4	常緑針葉樹林	1	240	0.6	1.7																																																																																																												
P5	草地	7	240	0.6	11.7																																																																																																												
P6	草地	9	240	0.6	15.0																																																																																																												
P7	草地	5	240	0.6	8.3																																																																																																												
P8	草地	10	240	0.6	16.7																																																																																																												
P9	竹林	22	240	0.6	36.7																																																																																																												
P10	常緑針葉樹林	15	240	0.6	25.0																																																																																																												
P11	草地	10	240	0.6	16.7																																																																																																												
P12	落葉広葉樹林	5	240	0.6	8.3																																																																																																												
P13	常緑針葉樹林	4	240	0.6	6.7																																																																																																												
環境類型区分	捕獲合計数	トラップ設置面積(延べha)	生息密度(個体/ha)																																																																																																														
常緑広葉樹林	12	0.6	20.0																																																																																																														
落葉広葉樹林	19	1.2	15.8																																																																																																														
常緑針葉樹林	21	2.4	8.8																																																																																																														
竹林	22	0.6	36.7																																																																																																														
草地	41	3.0	13.7																																																																																																														

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

(空白)

予測結果・評価の概要

(評価の概要)

イタチを上位性の指標とする地域を特徴づける生態系への工事用資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在に伴う影響については、調査及び予測の結果、生態系注目種イタチへの影響が事業者の実行可能な範囲でできる限り緩和され、環境保全についての配慮が適正になされていると評価する。

表 10-3(25) 工事中資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	講じようとする環境保全措置																																																																																																																																																																																																																																															
生態系	(調査結果の概要) ④ 上位性注目種 (ノスリ)																																																																																																																																																																																																																																															
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="322 324 475 353">調査項目</th> <th colspan="13" data-bbox="475 324 1447 353">調査結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="322 353 475 1106">生息状況</td> <td colspan="13" data-bbox="475 353 1447 1106"> <p>調査期間におけるノスリの確認回数は合計204回であり、餌運搬、ディスプレイ飛翔、攻撃行動、とまり、探餌行動等のほか、幼鳥についても確認した。</p> <p>確認された主な行動範囲は、対象事業実施区域の東を中心とした富士川周辺の地域であった。</p> <p style="text-align: center;">ノスリの確認状況</p> <table border="1" data-bbox="507 524 1441 797"> <thead> <tr> <th rowspan="2">出現 個体</th> <th colspan="6">平成30年度</th> <th colspan="6">平成31年度/令和元年度</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th><th>4月</th> <th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成鳥</td><td></td><td>11</td><td>10</td><td>3</td><td>5</td><td></td><td></td><td>2</td><td>5</td><td></td><td></td><td>2</td><td>13</td><td>51</td> </tr> <tr> <td>若鳥</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0</td> </tr> <tr> <td>幼鳥</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td> </tr> <tr> <td>不明</td><td>12</td><td>14</td><td>3</td><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td>2</td><td>11</td><td>1</td><td>2</td><td>24</td><td>71</td> </tr> <tr> <td>合計</td><td>12</td><td>25</td><td>13</td><td>3</td><td>7</td><td>0</td><td>0</td><td>4</td><td>17</td><td>1</td><td>4</td><td>37</td><td>123</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="507 801 1441 1088"> <thead> <tr> <th rowspan="2">出現 個体</th> <th colspan="6">平成31年度/令和元年度</th> <th colspan="6">令和2年度</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th><th>4月</th> <th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成鳥</td><td>1</td><td>8</td><td>4</td><td></td><td>4</td><td>9</td><td>1</td><td>5</td><td>1</td><td></td><td>1</td><td>1</td><td>35</td> </tr> <tr> <td>若鳥</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0</td> </tr> <tr> <td>幼鳥</td><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td> </tr> <tr> <td>不明</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>9</td><td>1</td><td>1</td><td>13</td><td>44</td> </tr> <tr> <td>合計</td><td>3</td><td>13</td><td>6</td><td>2</td><td>8</td><td>12</td><td>3</td><td>7</td><td>10</td><td>1</td><td>2</td><td>14</td><td>81</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="322 1115 475 1402">繁殖状況</td> <td data-bbox="475 1115 1447 1402"> <p>対象事業実施区域及びその周辺において巣は確認されなかった。</p> <p>平成31年及び令和元年は、餌運搬など明確に繁殖を示唆する行動は確認されなかった。その他、つかかりディスプレイ及び波状ディスプレイを計2回、攻撃行動を1回確認した。</p> <p>令和2年は、3月に餌運搬を確認した。その他、波状ディスプレイを計5回、攻撃行動を計2回確認した。</p> <p>なお、対象事業実施区域で確認された繁殖行動は、波状ディスプレイが令和2年6月に2回、攻撃行動が令和2年4月に2回であった。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="322 1402 475 1984">ハンティング行動</td> <td data-bbox="475 1402 1447 1984"> <p>ノスリのハンティング行動は、実際に獲物を追った行動のほか、急降下、探餌飛行、パーチハンティング、林内潜入を対象とした。なお、確認した急降下のうち、明らかに誇示や威嚇と考えられるものは対象外とした。</p> <p>ハンティング行動の確認回数は営巣期7回、非営巣期6回の計13回であり、うち7回が対象事業実施区域内での確認で、6回が対象事業実施区域外での確認であった。</p> <p>ハンティング行動は、主に富士川右岸側、対象事業実施区域南東部で確認された。</p> <p>ハンティング行動及び餌運びにより確認された餌種は、ネズミ類が1回、カマキリが1回であった。</p> <p style="text-align: center;">ノスリのハンティング行動の確認回数</p> <table border="1" data-bbox="616 1693 1302 1930"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>確認回数</th> <th>メッシュ数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全 期 間</td> <td>13</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>営 巣 期</td> <td>7</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>非営巣期</td> <td>6</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </tbody> </table>	調査項目	調査結果													生息状況	<p>調査期間におけるノスリの確認回数は合計204回であり、餌運搬、ディスプレイ飛翔、攻撃行動、とまり、探餌行動等のほか、幼鳥についても確認した。</p> <p>確認された主な行動範囲は、対象事業実施区域の東を中心とした富士川周辺の地域であった。</p> <p style="text-align: center;">ノスリの確認状況</p> <table border="1" data-bbox="507 524 1441 797"> <thead> <tr> <th rowspan="2">出現 個体</th> <th colspan="6">平成30年度</th> <th colspan="6">平成31年度/令和元年度</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th><th>4月</th> <th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成鳥</td><td></td><td>11</td><td>10</td><td>3</td><td>5</td><td></td><td></td><td>2</td><td>5</td><td></td><td></td><td>2</td><td>13</td><td>51</td> </tr> <tr> <td>若鳥</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0</td> </tr> <tr> <td>幼鳥</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td> </tr> <tr> <td>不明</td><td>12</td><td>14</td><td>3</td><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td>2</td><td>11</td><td>1</td><td>2</td><td>24</td><td>71</td> </tr> <tr> <td>合計</td><td>12</td><td>25</td><td>13</td><td>3</td><td>7</td><td>0</td><td>0</td><td>4</td><td>17</td><td>1</td><td>4</td><td>37</td><td>123</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="507 801 1441 1088"> <thead> <tr> <th rowspan="2">出現 個体</th> <th colspan="6">平成31年度/令和元年度</th> <th colspan="6">令和2年度</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th><th>4月</th> <th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成鳥</td><td>1</td><td>8</td><td>4</td><td></td><td>4</td><td>9</td><td>1</td><td>5</td><td>1</td><td></td><td>1</td><td>1</td><td>35</td> </tr> <tr> <td>若鳥</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0</td> </tr> <tr> <td>幼鳥</td><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td> </tr> <tr> <td>不明</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>9</td><td>1</td><td>1</td><td>13</td><td>44</td> </tr> <tr> <td>合計</td><td>3</td><td>13</td><td>6</td><td>2</td><td>8</td><td>12</td><td>3</td><td>7</td><td>10</td><td>1</td><td>2</td><td>14</td><td>81</td> </tr> </tbody> </table>													出現 個体	平成30年度						平成31年度/令和元年度						合計	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	成鳥		11	10	3	5			2	5			2	13	51	若鳥														0	幼鳥									1					1	不明	12	14	3		2			2	11	1	2	24	71	合計	12	25	13	3	7	0	0	4	17	1	4	37	123	出現 個体	平成31年度/令和元年度						令和2年度						合計	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	成鳥	1	8	4		4	9	1	5	1		1	1	35	若鳥													0	幼鳥		2											2	不明	2	3	2	2	4	3	2	2	9	1	1	13	44	合計	3	13	6	2	8	12	3	7	10	1	2	14	81	繁殖状況	<p>対象事業実施区域及びその周辺において巣は確認されなかった。</p> <p>平成31年及び令和元年は、餌運搬など明確に繁殖を示唆する行動は確認されなかった。その他、つかかりディスプレイ及び波状ディスプレイを計2回、攻撃行動を1回確認した。</p> <p>令和2年は、3月に餌運搬を確認した。その他、波状ディスプレイを計5回、攻撃行動を計2回確認した。</p> <p>なお、対象事業実施区域で確認された繁殖行動は、波状ディスプレイが令和2年6月に2回、攻撃行動が令和2年4月に2回であった。</p>	ハンティング行動	<p>ノスリのハンティング行動は、実際に獲物を追った行動のほか、急降下、探餌飛行、パーチハンティング、林内潜入を対象とした。なお、確認した急降下のうち、明らかに誇示や威嚇と考えられるものは対象外とした。</p> <p>ハンティング行動の確認回数は営巣期7回、非営巣期6回の計13回であり、うち7回が対象事業実施区域内での確認で、6回が対象事業実施区域外での確認であった。</p> <p>ハンティング行動は、主に富士川右岸側、対象事業実施区域南東部で確認された。</p> <p>ハンティング行動及び餌運びにより確認された餌種は、ネズミ類が1回、カマキリが1回であった。</p> <p style="text-align: center;">ノスリのハンティング行動の確認回数</p> <table border="1" data-bbox="616 1693 1302 1930"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>確認回数</th> <th>メッシュ数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全 期 間</td> <td>13</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>営 巣 期</td> <td>7</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>非営巣期</td> <td>6</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	確認回数	メッシュ数	全 期 間	13	20	営 巣 期	7	12	非営巣期	6	8
	調査項目	調査結果																																																																																																																																																																																																																																														
生息状況	<p>調査期間におけるノスリの確認回数は合計204回であり、餌運搬、ディスプレイ飛翔、攻撃行動、とまり、探餌行動等のほか、幼鳥についても確認した。</p> <p>確認された主な行動範囲は、対象事業実施区域の東を中心とした富士川周辺の地域であった。</p> <p style="text-align: center;">ノスリの確認状況</p> <table border="1" data-bbox="507 524 1441 797"> <thead> <tr> <th rowspan="2">出現 個体</th> <th colspan="6">平成30年度</th> <th colspan="6">平成31年度/令和元年度</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th><th>4月</th> <th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成鳥</td><td></td><td>11</td><td>10</td><td>3</td><td>5</td><td></td><td></td><td>2</td><td>5</td><td></td><td></td><td>2</td><td>13</td><td>51</td> </tr> <tr> <td>若鳥</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0</td> </tr> <tr> <td>幼鳥</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td> </tr> <tr> <td>不明</td><td>12</td><td>14</td><td>3</td><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td>2</td><td>11</td><td>1</td><td>2</td><td>24</td><td>71</td> </tr> <tr> <td>合計</td><td>12</td><td>25</td><td>13</td><td>3</td><td>7</td><td>0</td><td>0</td><td>4</td><td>17</td><td>1</td><td>4</td><td>37</td><td>123</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="507 801 1441 1088"> <thead> <tr> <th rowspan="2">出現 個体</th> <th colspan="6">平成31年度/令和元年度</th> <th colspan="6">令和2年度</th> <th rowspan="2">合計</th> </tr> <tr> <th>11月</th><th>12月</th><th>1月</th><th>2月</th><th>3月</th><th>4月</th> <th>5月</th><th>6月</th><th>7月</th><th>8月</th><th>9月</th><th>10月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>成鳥</td><td>1</td><td>8</td><td>4</td><td></td><td>4</td><td>9</td><td>1</td><td>5</td><td>1</td><td></td><td>1</td><td>1</td><td>35</td> </tr> <tr> <td>若鳥</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0</td> </tr> <tr> <td>幼鳥</td><td></td><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>2</td> </tr> <tr> <td>不明</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>3</td><td>2</td><td>2</td><td>9</td><td>1</td><td>1</td><td>13</td><td>44</td> </tr> <tr> <td>合計</td><td>3</td><td>13</td><td>6</td><td>2</td><td>8</td><td>12</td><td>3</td><td>7</td><td>10</td><td>1</td><td>2</td><td>14</td><td>81</td> </tr> </tbody> </table>													出現 個体	平成30年度						平成31年度/令和元年度						合計	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	成鳥		11	10	3	5			2	5			2	13	51	若鳥														0	幼鳥									1					1	不明	12	14	3		2			2	11	1	2	24	71	合計	12	25	13	3	7	0	0	4	17	1	4	37	123	出現 個体	平成31年度/令和元年度						令和2年度						合計	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	成鳥	1	8	4		4	9	1	5	1		1	1	35	若鳥													0	幼鳥		2											2	不明	2	3	2	2	4	3	2	2	9	1	1	13	44	合計	3	13	6	2	8	12	3	7	10	1	2	14	81																																
出現 個体	平成30年度						平成31年度/令和元年度						合計																																																																																																																																																																																																																																			
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月																																																																																																																																																																																																																																				
成鳥		11	10	3	5			2	5			2	13	51																																																																																																																																																																																																																																		
若鳥														0																																																																																																																																																																																																																																		
幼鳥									1					1																																																																																																																																																																																																																																		
不明	12	14	3		2			2	11	1	2	24	71																																																																																																																																																																																																																																			
合計	12	25	13	3	7	0	0	4	17	1	4	37	123																																																																																																																																																																																																																																			
出現 個体	平成31年度/令和元年度						令和2年度						合計																																																																																																																																																																																																																																			
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月																																																																																																																																																																																																																																				
成鳥	1	8	4		4	9	1	5	1		1	1	35																																																																																																																																																																																																																																			
若鳥													0																																																																																																																																																																																																																																			
幼鳥		2											2																																																																																																																																																																																																																																			
不明	2	3	2	2	4	3	2	2	9	1	1	13	44																																																																																																																																																																																																																																			
合計	3	13	6	2	8	12	3	7	10	1	2	14	81																																																																																																																																																																																																																																			
繁殖状況	<p>対象事業実施区域及びその周辺において巣は確認されなかった。</p> <p>平成31年及び令和元年は、餌運搬など明確に繁殖を示唆する行動は確認されなかった。その他、つかかりディスプレイ及び波状ディスプレイを計2回、攻撃行動を1回確認した。</p> <p>令和2年は、3月に餌運搬を確認した。その他、波状ディスプレイを計5回、攻撃行動を計2回確認した。</p> <p>なお、対象事業実施区域で確認された繁殖行動は、波状ディスプレイが令和2年6月に2回、攻撃行動が令和2年4月に2回であった。</p>																																																																																																																																																																																																																																															
ハンティング行動	<p>ノスリのハンティング行動は、実際に獲物を追った行動のほか、急降下、探餌飛行、パーチハンティング、林内潜入を対象とした。なお、確認した急降下のうち、明らかに誇示や威嚇と考えられるものは対象外とした。</p> <p>ハンティング行動の確認回数は営巣期7回、非営巣期6回の計13回であり、うち7回が対象事業実施区域内での確認で、6回が対象事業実施区域外での確認であった。</p> <p>ハンティング行動は、主に富士川右岸側、対象事業実施区域南東部で確認された。</p> <p>ハンティング行動及び餌運びにより確認された餌種は、ネズミ類が1回、カマキリが1回であった。</p> <p style="text-align: center;">ノスリのハンティング行動の確認回数</p> <table border="1" data-bbox="616 1693 1302 1930"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>確認回数</th> <th>メッシュ数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全 期 間</td> <td>13</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>営 巣 期</td> <td>7</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>非営巣期</td> <td>6</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	確認回数	メッシュ数	全 期 間	13	20	営 巣 期	7	12	非営巣期	6	8																																																																																																																																																																																																																																			
区 分	確認回数	メッシュ数																																																																																																																																																																																																																																														
全 期 間	13	20																																																																																																																																																																																																																																														
営 巣 期	7	12																																																																																																																																																																																																																																														
非営巣期	6	8																																																																																																																																																																																																																																														

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

(3) 上位性注目種（ノスリ）

①ノスリへの影響予測手順

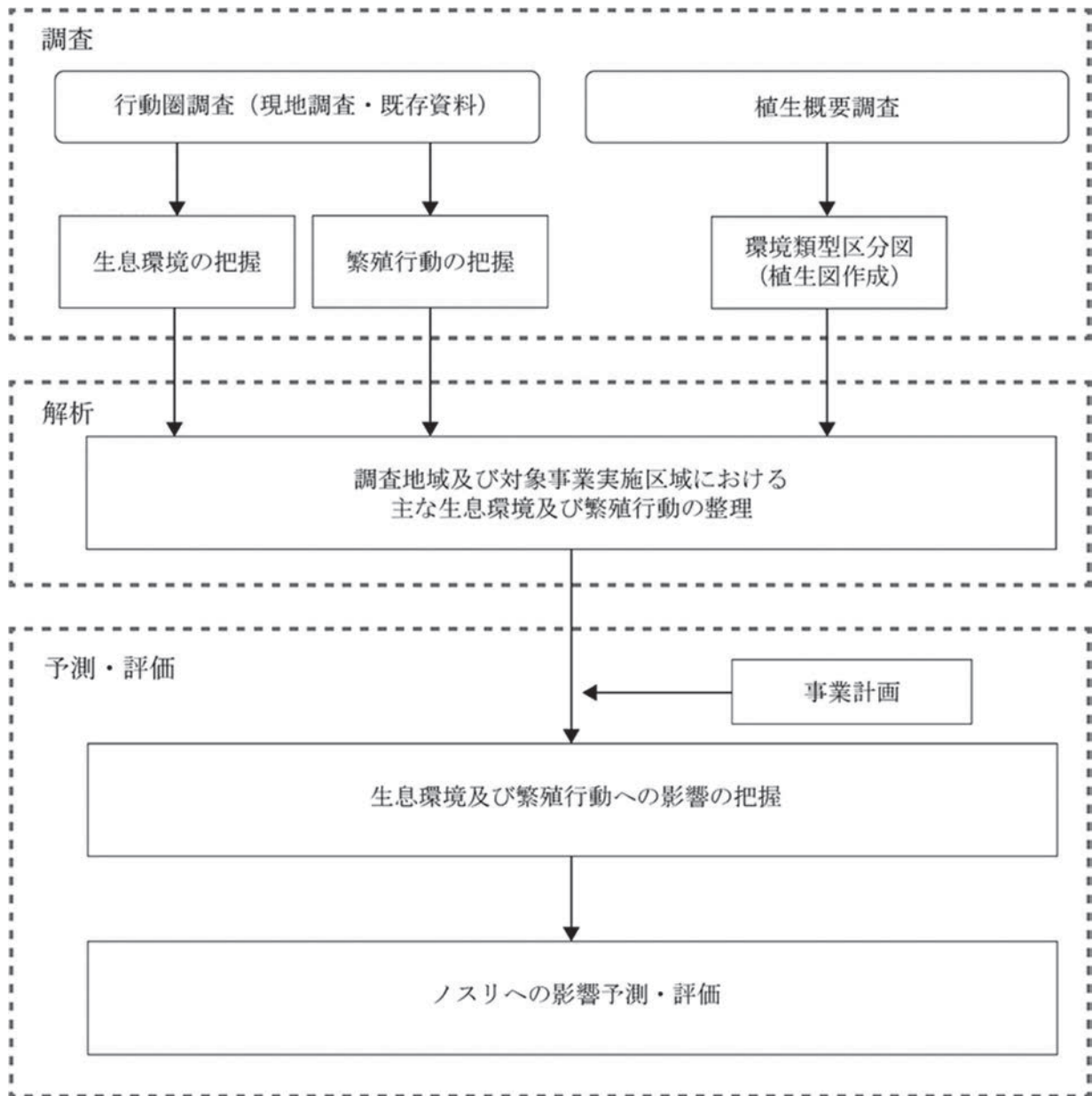


表 10-(26) 工事用資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	講じようとする環境保全措置
生態系	<p>(調査結果の概要)</p> <p>(空白)</p>

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

②予測結果の概要

イ. 生息環境への影響

事業実施により、10.08haの常緑針葉樹林環境及び6.91haの草地環境が消失し、これは常緑針葉樹林環境の0.3%、草地環境面積の2.0%に該当する。対象事業実施区域では常緑針葉樹林環境の2.6%、草地環境面積の10.2%に該当する。

事業実施により消失する割合は常緑針葉樹林が3%未満、草地が10%程度であり、同様の環境は周辺部にも広く分布すること、保安伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられること、一方で、保安伐採により、一時的に草地環境が創出されることから、ノスリへの影響は少ないものと予測する。

ロ. 繁殖行動への影響

対象事業実施区域で波状ディスプレイが2回、攻撃行動が2回確認され、対象事業実施区域外では餌運搬が1回確認されている。

しかしながら、その後繁殖指標行動は確認されなかったこと、確認も散発的であったことから、調査地域に営巣地はなく、調査地域外で繁殖している個体が飛来している可能性が考えられる。

以上のことから、ノスリの繁殖行動への影響は少ないものと予測する。

(評価の概要)

ノスリを上位性の指標とする地域を特徴づける生態系への工事用資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在に伴う影響については、調査及び予測の結果、生態系注目種ノスリへの影響が事業者の実行可能な範囲でできる限り緩和され、環境保全についての配慮が適正になされていると評価する。

表 10-3(27) 工事中資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	講じようとする環境保全措置																																																																																																																													
生態系	(調査結果の概要) ⑤ 典型性注目種 (シジュウカラ)																																																																																																																													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="322 324 475 353">調査項目</th> <th colspan="5" data-bbox="475 324 1447 353">調査結果</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="322 353 475 607">生息状況</td> <td colspan="5" data-bbox="475 353 1447 607"> <p>シジュウカラの確認数から成鳥の生息密度（個体/ha）を季別に算出し、調査範囲及び対象事業実施区域におけるシジュウカラの推定生息個体数を求めた。</p> <p>繁殖期にあたる春季は対象事業実施区域で65.10個体（調査地域では128.71個体）、夏季は対象事業実施区域で92.44個体（調査地域では183.14個体）であった。また、非繁殖期にあたる秋季は対象事業実施区域で174.24個体（調査地域では317.78個体）、冬季は対象事業実施区域で55.62個体（調査地域では106.85個体）であった。</p> <p style="text-align: center;">環境類型区分別シジュウカラの季節別推定生息個体数</p> <table border="1" data-bbox="481 613 1433 1326"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="481 613 880 741" rowspan="3">環境類型区分</th> <th colspan="4" data-bbox="880 613 1433 651">確認時期</th> </tr> <tr> <th colspan="2" data-bbox="880 651 1158 696">繁殖期</th> <th colspan="2" data-bbox="1158 651 1433 696">非繁殖期</th> </tr> <tr> <th data-bbox="880 696 1018 741">春季</th> <th data-bbox="1018 696 1158 741">夏季</th> <th data-bbox="1158 696 1295 741">秋季</th> <th data-bbox="1295 696 1433 741">冬季</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="481 741 695 994" rowspan="6">調査地域</td> <td data-bbox="695 741 880 779">常緑広葉樹林</td> <td data-bbox="880 741 1018 779">0.00</td> <td data-bbox="1018 741 1158 779">0.00</td> <td data-bbox="1158 741 1295 779">2.16</td> <td data-bbox="1295 741 1433 779">2.16</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 779 880 817">落葉広葉樹林</td> <td data-bbox="880 779 1018 817">21.61</td> <td data-bbox="1018 779 1158 817">21.61</td> <td data-bbox="1158 779 1295 817">0.00</td> <td data-bbox="1295 779 1433 817">0.00</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 817 880 855">常緑針葉樹林</td> <td data-bbox="880 817 1018 855">83.39</td> <td data-bbox="1018 817 1158 855">121.29</td> <td data-bbox="1158 817 1295 855">235.00</td> <td data-bbox="1295 817 1433 855">75.81</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 855 880 893">竹林</td> <td data-bbox="880 855 1018 893">0.00</td> <td data-bbox="1018 855 1158 893">0.00</td> <td data-bbox="1158 855 1295 893">0.00</td> <td data-bbox="1295 855 1433 893">0.00</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 893 880 931">草地</td> <td data-bbox="880 893 1018 931">8.27</td> <td data-bbox="1018 893 1158 931">21.71</td> <td data-bbox="1158 893 1295 931">77.53</td> <td data-bbox="1295 893 1433 931">13.44</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 931 880 994">その他</td> <td data-bbox="880 931 1018 994">15.44</td> <td data-bbox="1018 931 1158 994">18.53</td> <td data-bbox="1158 931 1295 994">3.09</td> <td data-bbox="1295 931 1433 994">15.44</td> </tr> <tr> <td data-bbox="481 994 880 1032" style="text-align: center;">合計</td> <td data-bbox="880 994 1018 1032"></td> <td data-bbox="1018 994 1158 1032">128.71</td> <td data-bbox="1158 994 1295 1032">183.14</td> <td data-bbox="1295 994 1433 1032">317.78</td> <td data-bbox="1433 994 1447 1032">106.85</td> </tr> <tr> <td data-bbox="481 1032 695 1285" rowspan="6">対象事業実施区域</td> <td data-bbox="695 1032 880 1070">常緑広葉樹林</td> <td data-bbox="880 1032 1018 1070">0.00</td> <td data-bbox="1018 1032 1158 1070">0.00</td> <td data-bbox="1158 1032 1295 1070">2.16</td> <td data-bbox="1295 1032 1433 1070">2.16</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 1070 880 1108">落葉広葉樹林</td> <td data-bbox="880 1070 1018 1108">11.13</td> <td data-bbox="1018 1070 1158 1108">11.13</td> <td data-bbox="1158 1070 1295 1108">0.00</td> <td data-bbox="1295 1070 1433 1108">0.00</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 1108 880 1146">常緑針葉樹林</td> <td data-bbox="880 1108 1018 1146">42.67</td> <td data-bbox="1018 1108 1158 1146">60.06</td> <td data-bbox="1158 1108 1295 1146">120.24</td> <td data-bbox="1295 1108 1433 1146">38.78</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 1146 880 1184">竹林</td> <td data-bbox="880 1146 1018 1184">0.00</td> <td data-bbox="1018 1146 1158 1184">0.00</td> <td data-bbox="1158 1146 1295 1184">0.00</td> <td data-bbox="1295 1146 1433 1184">0.00</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 1184 880 1223">草地</td> <td data-bbox="880 1184 1018 1223">5.40</td> <td data-bbox="1018 1184 1158 1223">14.18</td> <td data-bbox="1158 1184 1295 1223">50.66</td> <td data-bbox="1295 1184 1433 1223">8.78</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 1223 880 1285">その他</td> <td data-bbox="880 1223 1018 1285">5.90</td> <td data-bbox="1018 1223 1158 1285">7.07</td> <td data-bbox="1158 1223 1295 1285">1.18</td> <td data-bbox="1295 1223 1433 1285">5.90</td> </tr> <tr> <td data-bbox="481 1285 880 1323" style="text-align: center;">合計</td> <td data-bbox="880 1285 1018 1323"></td> <td data-bbox="1018 1285 1158 1323">65.10</td> <td data-bbox="1158 1285 1295 1323">92.44</td> <td data-bbox="1295 1285 1433 1323">174.24</td> <td data-bbox="1433 1285 1447 1323">55.62</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="322 1357 475 1395">生息環境</td> <td data-bbox="475 1357 1453 2051"> <p>調査地域内の各環境類型区分の面積は下表のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">調査地域、対象事業実施区域の環境類型区分の面積</p> <table border="1" data-bbox="614 1458 1302 1854"> <thead> <tr> <th data-bbox="614 1458 831 1536" rowspan="2">環境類型区分</th> <th colspan="2" data-bbox="831 1458 1302 1496">占有面積 (ha)</th> </tr> <tr> <th data-bbox="831 1496 1066 1536">調査地域</th> <th data-bbox="1066 1496 1302 1536">対象事業実施区域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="614 1536 831 1585">常緑広葉樹林</td> <td data-bbox="831 1536 1066 1585">3.72</td> <td data-bbox="1066 1536 1302 1585">3.72</td> </tr> <tr> <td data-bbox="614 1585 831 1635">落葉広葉樹林</td> <td data-bbox="831 1585 1066 1635">144.07</td> <td data-bbox="1066 1585 1302 1635">74.20</td> </tr> <tr> <td data-bbox="614 1635 831 1684">常緑針葉樹林</td> <td data-bbox="831 1635 1066 1684">758.06</td> <td data-bbox="1066 1635 1302 1684">387.87</td> </tr> <tr> <td data-bbox="614 1684 831 1733">竹林</td> <td data-bbox="831 1684 1066 1733">20.46</td> <td data-bbox="1066 1684 1302 1733">10.78</td> </tr> <tr> <td data-bbox="614 1733 831 1783">草地</td> <td data-bbox="831 1733 1066 1783">103.37</td> <td data-bbox="1066 1733 1302 1783">67.55</td> </tr> <tr> <td data-bbox="614 1783 831 1854">その他</td> <td data-bbox="831 1783 1066 1854">61.77</td> <td data-bbox="1066 1783 1302 1854">23.59</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> </tbody> </table>	調査項目	調査結果					生息状況	<p>シジュウカラの確認数から成鳥の生息密度（個体/ha）を季別に算出し、調査範囲及び対象事業実施区域におけるシジュウカラの推定生息個体数を求めた。</p> <p>繁殖期にあたる春季は対象事業実施区域で65.10個体（調査地域では128.71個体）、夏季は対象事業実施区域で92.44個体（調査地域では183.14個体）であった。また、非繁殖期にあたる秋季は対象事業実施区域で174.24個体（調査地域では317.78個体）、冬季は対象事業実施区域で55.62個体（調査地域では106.85個体）であった。</p> <p style="text-align: center;">環境類型区分別シジュウカラの季節別推定生息個体数</p> <table border="1" data-bbox="481 613 1433 1326"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="481 613 880 741" rowspan="3">環境類型区分</th> <th colspan="4" data-bbox="880 613 1433 651">確認時期</th> </tr> <tr> <th colspan="2" data-bbox="880 651 1158 696">繁殖期</th> <th colspan="2" data-bbox="1158 651 1433 696">非繁殖期</th> </tr> <tr> <th data-bbox="880 696 1018 741">春季</th> <th data-bbox="1018 696 1158 741">夏季</th> <th data-bbox="1158 696 1295 741">秋季</th> <th data-bbox="1295 696 1433 741">冬季</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="481 741 695 994" rowspan="6">調査地域</td> <td data-bbox="695 741 880 779">常緑広葉樹林</td> <td data-bbox="880 741 1018 779">0.00</td> <td data-bbox="1018 741 1158 779">0.00</td> <td data-bbox="1158 741 1295 779">2.16</td> <td data-bbox="1295 741 1433 779">2.16</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 779 880 817">落葉広葉樹林</td> <td data-bbox="880 779 1018 817">21.61</td> <td data-bbox="1018 779 1158 817">21.61</td> <td data-bbox="1158 779 1295 817">0.00</td> <td data-bbox="1295 779 1433 817">0.00</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 817 880 855">常緑針葉樹林</td> <td data-bbox="880 817 1018 855">83.39</td> <td data-bbox="1018 817 1158 855">121.29</td> <td data-bbox="1158 817 1295 855">235.00</td> <td data-bbox="1295 817 1433 855">75.81</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 855 880 893">竹林</td> <td data-bbox="880 855 1018 893">0.00</td> <td data-bbox="1018 855 1158 893">0.00</td> <td data-bbox="1158 855 1295 893">0.00</td> <td data-bbox="1295 855 1433 893">0.00</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 893 880 931">草地</td> <td data-bbox="880 893 1018 931">8.27</td> <td data-bbox="1018 893 1158 931">21.71</td> <td data-bbox="1158 893 1295 931">77.53</td> <td data-bbox="1295 893 1433 931">13.44</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 931 880 994">その他</td> <td data-bbox="880 931 1018 994">15.44</td> <td data-bbox="1018 931 1158 994">18.53</td> <td data-bbox="1158 931 1295 994">3.09</td> <td data-bbox="1295 931 1433 994">15.44</td> </tr> <tr> <td data-bbox="481 994 880 1032" style="text-align: center;">合計</td> <td data-bbox="880 994 1018 1032"></td> <td data-bbox="1018 994 1158 1032">128.71</td> <td data-bbox="1158 994 1295 1032">183.14</td> <td data-bbox="1295 994 1433 1032">317.78</td> <td data-bbox="1433 994 1447 1032">106.85</td> </tr> <tr> <td data-bbox="481 1032 695 1285" rowspan="6">対象事業実施区域</td> <td data-bbox="695 1032 880 1070">常緑広葉樹林</td> <td data-bbox="880 1032 1018 1070">0.00</td> <td data-bbox="1018 1032 1158 1070">0.00</td> <td data-bbox="1158 1032 1295 1070">2.16</td> <td data-bbox="1295 1032 1433 1070">2.16</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 1070 880 1108">落葉広葉樹林</td> <td data-bbox="880 1070 1018 1108">11.13</td> <td data-bbox="1018 1070 1158 1108">11.13</td> <td data-bbox="1158 1070 1295 1108">0.00</td> <td data-bbox="1295 1070 1433 1108">0.00</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 1108 880 1146">常緑針葉樹林</td> <td data-bbox="880 1108 1018 1146">42.67</td> <td data-bbox="1018 1108 1158 1146">60.06</td> <td data-bbox="1158 1108 1295 1146">120.24</td> <td data-bbox="1295 1108 1433 1146">38.78</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 1146 880 1184">竹林</td> <td data-bbox="880 1146 1018 1184">0.00</td> <td data-bbox="1018 1146 1158 1184">0.00</td> <td data-bbox="1158 1146 1295 1184">0.00</td> <td data-bbox="1295 1146 1433 1184">0.00</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 1184 880 1223">草地</td> <td data-bbox="880 1184 1018 1223">5.40</td> <td data-bbox="1018 1184 1158 1223">14.18</td> <td data-bbox="1158 1184 1295 1223">50.66</td> <td data-bbox="1295 1184 1433 1223">8.78</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 1223 880 1285">その他</td> <td data-bbox="880 1223 1018 1285">5.90</td> <td data-bbox="1018 1223 1158 1285">7.07</td> <td data-bbox="1158 1223 1295 1285">1.18</td> <td data-bbox="1295 1223 1433 1285">5.90</td> </tr> <tr> <td data-bbox="481 1285 880 1323" style="text-align: center;">合計</td> <td data-bbox="880 1285 1018 1323"></td> <td data-bbox="1018 1285 1158 1323">65.10</td> <td data-bbox="1158 1285 1295 1323">92.44</td> <td data-bbox="1295 1285 1433 1323">174.24</td> <td data-bbox="1433 1285 1447 1323">55.62</td> </tr> </tbody> </table>					環境類型区分		確認時期				繁殖期		非繁殖期		春季	夏季	秋季	冬季	調査地域	常緑広葉樹林	0.00	0.00	2.16	2.16	落葉広葉樹林	21.61	21.61	0.00	0.00	常緑針葉樹林	83.39	121.29	235.00	75.81	竹林	0.00	0.00	0.00	0.00	草地	8.27	21.71	77.53	13.44	その他	15.44	18.53	3.09	15.44	合計		128.71	183.14	317.78	106.85	対象事業実施区域	常緑広葉樹林	0.00	0.00	2.16	2.16	落葉広葉樹林	11.13	11.13	0.00	0.00	常緑針葉樹林	42.67	60.06	120.24	38.78	竹林	0.00	0.00	0.00	0.00	草地	5.40	14.18	50.66	8.78	その他	5.90	7.07	1.18	5.90	合計		65.10	92.44	174.24	55.62	生息環境	<p>調査地域内の各環境類型区分の面積は下表のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">調査地域、対象事業実施区域の環境類型区分の面積</p> <table border="1" data-bbox="614 1458 1302 1854"> <thead> <tr> <th data-bbox="614 1458 831 1536" rowspan="2">環境類型区分</th> <th colspan="2" data-bbox="831 1458 1302 1496">占有面積 (ha)</th> </tr> <tr> <th data-bbox="831 1496 1066 1536">調査地域</th> <th data-bbox="1066 1496 1302 1536">対象事業実施区域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="614 1536 831 1585">常緑広葉樹林</td> <td data-bbox="831 1536 1066 1585">3.72</td> <td data-bbox="1066 1536 1302 1585">3.72</td> </tr> <tr> <td data-bbox="614 1585 831 1635">落葉広葉樹林</td> <td data-bbox="831 1585 1066 1635">144.07</td> <td data-bbox="1066 1585 1302 1635">74.20</td> </tr> <tr> <td data-bbox="614 1635 831 1684">常緑針葉樹林</td> <td data-bbox="831 1635 1066 1684">758.06</td> <td data-bbox="1066 1635 1302 1684">387.87</td> </tr> <tr> <td data-bbox="614 1684 831 1733">竹林</td> <td data-bbox="831 1684 1066 1733">20.46</td> <td data-bbox="1066 1684 1302 1733">10.78</td> </tr> <tr> <td data-bbox="614 1733 831 1783">草地</td> <td data-bbox="831 1733 1066 1783">103.37</td> <td data-bbox="1066 1733 1302 1783">67.55</td> </tr> <tr> <td data-bbox="614 1783 831 1854">その他</td> <td data-bbox="831 1783 1066 1854">61.77</td> <td data-bbox="1066 1783 1302 1854">23.59</td> </tr> </tbody> </table>	環境類型区分	占有面積 (ha)		調査地域	対象事業実施区域	常緑広葉樹林	3.72	3.72	落葉広葉樹林	144.07	74.20	常緑針葉樹林	758.06	387.87	竹林	20.46	10.78	草地	103.37	67.55	その他	61.77	23.59
	調査項目	調査結果																																																																																																																												
	生息状況	<p>シジュウカラの確認数から成鳥の生息密度（個体/ha）を季別に算出し、調査範囲及び対象事業実施区域におけるシジュウカラの推定生息個体数を求めた。</p> <p>繁殖期にあたる春季は対象事業実施区域で65.10個体（調査地域では128.71個体）、夏季は対象事業実施区域で92.44個体（調査地域では183.14個体）であった。また、非繁殖期にあたる秋季は対象事業実施区域で174.24個体（調査地域では317.78個体）、冬季は対象事業実施区域で55.62個体（調査地域では106.85個体）であった。</p> <p style="text-align: center;">環境類型区分別シジュウカラの季節別推定生息個体数</p> <table border="1" data-bbox="481 613 1433 1326"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="481 613 880 741" rowspan="3">環境類型区分</th> <th colspan="4" data-bbox="880 613 1433 651">確認時期</th> </tr> <tr> <th colspan="2" data-bbox="880 651 1158 696">繁殖期</th> <th colspan="2" data-bbox="1158 651 1433 696">非繁殖期</th> </tr> <tr> <th data-bbox="880 696 1018 741">春季</th> <th data-bbox="1018 696 1158 741">夏季</th> <th data-bbox="1158 696 1295 741">秋季</th> <th data-bbox="1295 696 1433 741">冬季</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="481 741 695 994" rowspan="6">調査地域</td> <td data-bbox="695 741 880 779">常緑広葉樹林</td> <td data-bbox="880 741 1018 779">0.00</td> <td data-bbox="1018 741 1158 779">0.00</td> <td data-bbox="1158 741 1295 779">2.16</td> <td data-bbox="1295 741 1433 779">2.16</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 779 880 817">落葉広葉樹林</td> <td data-bbox="880 779 1018 817">21.61</td> <td data-bbox="1018 779 1158 817">21.61</td> <td data-bbox="1158 779 1295 817">0.00</td> <td data-bbox="1295 779 1433 817">0.00</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 817 880 855">常緑針葉樹林</td> <td data-bbox="880 817 1018 855">83.39</td> <td data-bbox="1018 817 1158 855">121.29</td> <td data-bbox="1158 817 1295 855">235.00</td> <td data-bbox="1295 817 1433 855">75.81</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 855 880 893">竹林</td> <td data-bbox="880 855 1018 893">0.00</td> <td data-bbox="1018 855 1158 893">0.00</td> <td data-bbox="1158 855 1295 893">0.00</td> <td data-bbox="1295 855 1433 893">0.00</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 893 880 931">草地</td> <td data-bbox="880 893 1018 931">8.27</td> <td data-bbox="1018 893 1158 931">21.71</td> <td data-bbox="1158 893 1295 931">77.53</td> <td data-bbox="1295 893 1433 931">13.44</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 931 880 994">その他</td> <td data-bbox="880 931 1018 994">15.44</td> <td data-bbox="1018 931 1158 994">18.53</td> <td data-bbox="1158 931 1295 994">3.09</td> <td data-bbox="1295 931 1433 994">15.44</td> </tr> <tr> <td data-bbox="481 994 880 1032" style="text-align: center;">合計</td> <td data-bbox="880 994 1018 1032"></td> <td data-bbox="1018 994 1158 1032">128.71</td> <td data-bbox="1158 994 1295 1032">183.14</td> <td data-bbox="1295 994 1433 1032">317.78</td> <td data-bbox="1433 994 1447 1032">106.85</td> </tr> <tr> <td data-bbox="481 1032 695 1285" rowspan="6">対象事業実施区域</td> <td data-bbox="695 1032 880 1070">常緑広葉樹林</td> <td data-bbox="880 1032 1018 1070">0.00</td> <td data-bbox="1018 1032 1158 1070">0.00</td> <td data-bbox="1158 1032 1295 1070">2.16</td> <td data-bbox="1295 1032 1433 1070">2.16</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 1070 880 1108">落葉広葉樹林</td> <td data-bbox="880 1070 1018 1108">11.13</td> <td data-bbox="1018 1070 1158 1108">11.13</td> <td data-bbox="1158 1070 1295 1108">0.00</td> <td data-bbox="1295 1070 1433 1108">0.00</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 1108 880 1146">常緑針葉樹林</td> <td data-bbox="880 1108 1018 1146">42.67</td> <td data-bbox="1018 1108 1158 1146">60.06</td> <td data-bbox="1158 1108 1295 1146">120.24</td> <td data-bbox="1295 1108 1433 1146">38.78</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 1146 880 1184">竹林</td> <td data-bbox="880 1146 1018 1184">0.00</td> <td data-bbox="1018 1146 1158 1184">0.00</td> <td data-bbox="1158 1146 1295 1184">0.00</td> <td data-bbox="1295 1146 1433 1184">0.00</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 1184 880 1223">草地</td> <td data-bbox="880 1184 1018 1223">5.40</td> <td data-bbox="1018 1184 1158 1223">14.18</td> <td data-bbox="1158 1184 1295 1223">50.66</td> <td data-bbox="1295 1184 1433 1223">8.78</td> </tr> <tr> <td data-bbox="695 1223 880 1285">その他</td> <td data-bbox="880 1223 1018 1285">5.90</td> <td data-bbox="1018 1223 1158 1285">7.07</td> <td data-bbox="1158 1223 1295 1285">1.18</td> <td data-bbox="1295 1223 1433 1285">5.90</td> </tr> <tr> <td data-bbox="481 1285 880 1323" style="text-align: center;">合計</td> <td data-bbox="880 1285 1018 1323"></td> <td data-bbox="1018 1285 1158 1323">65.10</td> <td data-bbox="1158 1285 1295 1323">92.44</td> <td data-bbox="1295 1285 1433 1323">174.24</td> <td data-bbox="1433 1285 1447 1323">55.62</td> </tr> </tbody> </table>					環境類型区分		確認時期				繁殖期			非繁殖期		春季	夏季	秋季	冬季	調査地域	常緑広葉樹林	0.00	0.00	2.16	2.16		落葉広葉樹林	21.61	21.61	0.00	0.00	常緑針葉樹林	83.39	121.29	235.00	75.81	竹林	0.00	0.00	0.00	0.00	草地	8.27	21.71	77.53	13.44	その他	15.44	18.53	3.09	15.44	合計		128.71	183.14	317.78	106.85	対象事業実施区域	常緑広葉樹林	0.00	0.00	2.16		2.16	落葉広葉樹林	11.13	11.13	0.00	0.00	常緑針葉樹林	42.67	60.06	120.24	38.78	竹林	0.00	0.00	0.00	0.00	草地	5.40	14.18	50.66	8.78	その他	5.90	7.07	1.18	5.90	合計		65.10	92.44	174.24	55.62																													
環境類型区分		確認時期																																																																																																																												
		繁殖期		非繁殖期																																																																																																																										
		春季	夏季	秋季	冬季																																																																																																																									
調査地域	常緑広葉樹林	0.00	0.00	2.16	2.16																																																																																																																									
	落葉広葉樹林	21.61	21.61	0.00	0.00																																																																																																																									
	常緑針葉樹林	83.39	121.29	235.00	75.81																																																																																																																									
	竹林	0.00	0.00	0.00	0.00																																																																																																																									
	草地	8.27	21.71	77.53	13.44																																																																																																																									
	その他	15.44	18.53	3.09	15.44																																																																																																																									
合計		128.71	183.14	317.78	106.85																																																																																																																									
対象事業実施区域	常緑広葉樹林	0.00	0.00	2.16	2.16																																																																																																																									
	落葉広葉樹林	11.13	11.13	0.00	0.00																																																																																																																									
	常緑針葉樹林	42.67	60.06	120.24	38.78																																																																																																																									
	竹林	0.00	0.00	0.00	0.00																																																																																																																									
	草地	5.40	14.18	50.66	8.78																																																																																																																									
	その他	5.90	7.07	1.18	5.90																																																																																																																									
合計		65.10	92.44	174.24	55.62																																																																																																																									
生息環境	<p>調査地域内の各環境類型区分の面積は下表のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">調査地域、対象事業実施区域の環境類型区分の面積</p> <table border="1" data-bbox="614 1458 1302 1854"> <thead> <tr> <th data-bbox="614 1458 831 1536" rowspan="2">環境類型区分</th> <th colspan="2" data-bbox="831 1458 1302 1496">占有面積 (ha)</th> </tr> <tr> <th data-bbox="831 1496 1066 1536">調査地域</th> <th data-bbox="1066 1496 1302 1536">対象事業実施区域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="614 1536 831 1585">常緑広葉樹林</td> <td data-bbox="831 1536 1066 1585">3.72</td> <td data-bbox="1066 1536 1302 1585">3.72</td> </tr> <tr> <td data-bbox="614 1585 831 1635">落葉広葉樹林</td> <td data-bbox="831 1585 1066 1635">144.07</td> <td data-bbox="1066 1585 1302 1635">74.20</td> </tr> <tr> <td data-bbox="614 1635 831 1684">常緑針葉樹林</td> <td data-bbox="831 1635 1066 1684">758.06</td> <td data-bbox="1066 1635 1302 1684">387.87</td> </tr> <tr> <td data-bbox="614 1684 831 1733">竹林</td> <td data-bbox="831 1684 1066 1733">20.46</td> <td data-bbox="1066 1684 1302 1733">10.78</td> </tr> <tr> <td data-bbox="614 1733 831 1783">草地</td> <td data-bbox="831 1733 1066 1783">103.37</td> <td data-bbox="1066 1733 1302 1783">67.55</td> </tr> <tr> <td data-bbox="614 1783 831 1854">その他</td> <td data-bbox="831 1783 1066 1854">61.77</td> <td data-bbox="1066 1783 1302 1854">23.59</td> </tr> </tbody> </table>	環境類型区分	占有面積 (ha)		調査地域	対象事業実施区域	常緑広葉樹林	3.72	3.72	落葉広葉樹林	144.07	74.20	常緑針葉樹林	758.06	387.87	竹林	20.46	10.78	草地	103.37	67.55	その他	61.77	23.59																																																																																																						
環境類型区分	占有面積 (ha)																																																																																																																													
	調査地域	対象事業実施区域																																																																																																																												
常緑広葉樹林	3.72	3.72																																																																																																																												
落葉広葉樹林	144.07	74.20																																																																																																																												
常緑針葉樹林	758.06	387.87																																																																																																																												
竹林	20.46	10.78																																																																																																																												
草地	103.37	67.55																																																																																																																												
その他	61.77	23.59																																																																																																																												

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

(4) 典型性注目種 (シジュウカラ)

①シジュウカラへの影響予測手順

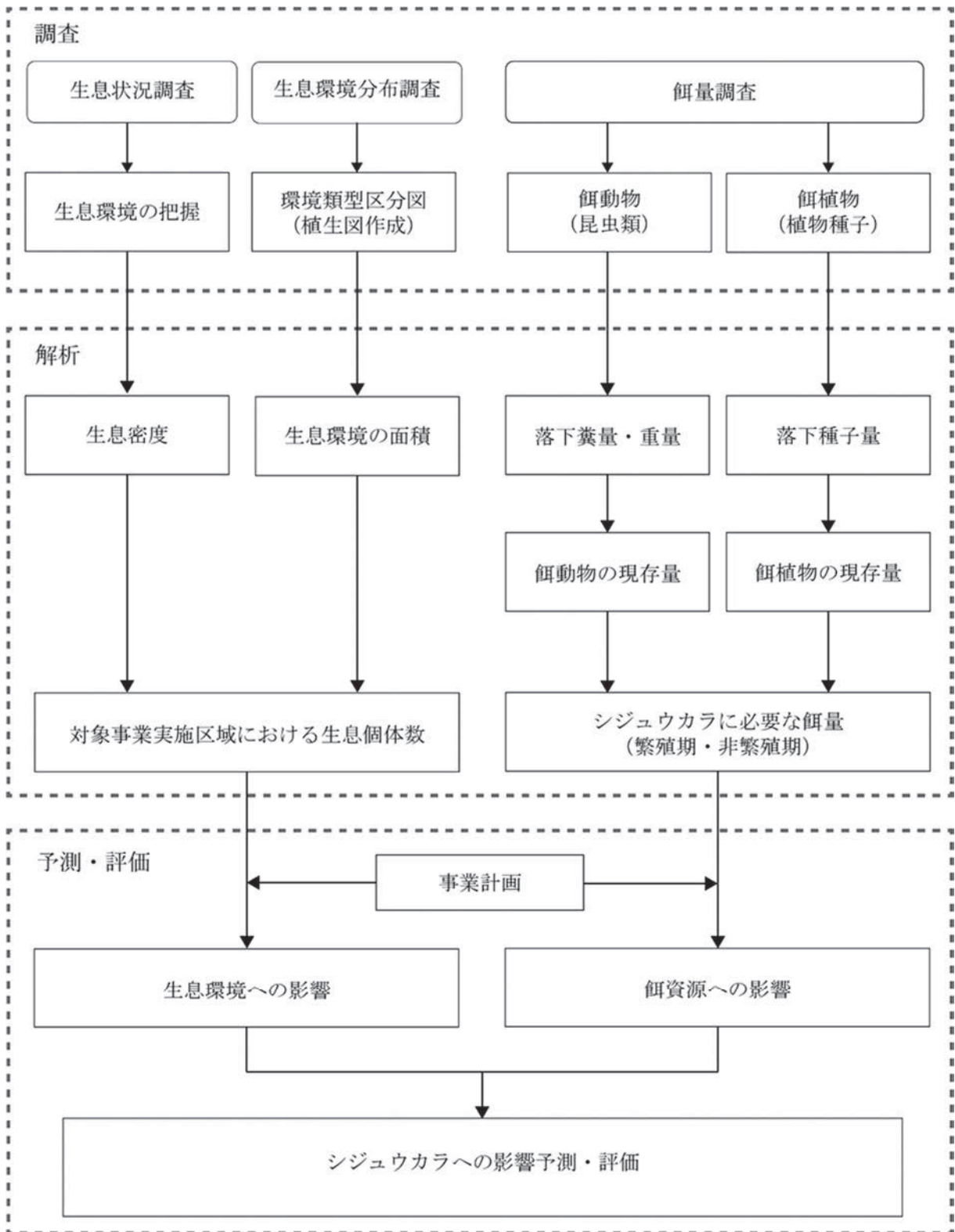


表 10-3(28) 工事中資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	講じようとする環境保全措置						
生態系	(調査結果の概要)						
	調査項目	調査結果					
	餌量	餌動物及び餌植物について、その現存量は下表に示したとおりである。					
	餌動物（採集調査）の調査結果（1）						
		環境類型 区分	目名	繁殖期		非繁殖期	
				5月	8月	10月	
		常緑広葉樹林	チョウ目（鱗翅目）	0	-	-	
			カワゲラ目（セキ翅目）	0	-	-	
			バッタ目（直翅目）	-	0	-	
			カメムシ目（半翅目）	-	0	0.60	
アミメカゲロウ目（脈翅目）			-	-	0		
ハエ目（双翅目）			-	-	0		
コウチュウ目（鞘翅目）			0	0	-		
ハチ目（膜翅目）			-	0	-		
総捕獲量 (mg/m ²)			0	0	0.6		
総捕獲量 (g/ha)			0	0	6.0		
落葉広葉樹林			カゲロウ目（蜚蠊目）	-	0	-	
		カワゲラ目（セキ翅目）	0.08	-	-		
		バッタ目（直翅目）	-	0.10	-		
		カメムシ目（半翅目）	0.98	0.18	0.53		
		アミメカゲロウ目（脈翅目）	0	0	-		
		トビケラ目（毛翅目）	0	-	-		
		ハエ目（双翅目）	0.05	-	-		
		コウチュウ目（鞘翅目）	0.28	0.30	0.10		
		ハチ目（膜翅目）	0.23	0.05	0.18		
		総捕獲量 (mg/m ²)	1.60	0.63	0.80		
		総捕獲量 (g/ha)	16.00	6.30	8.00		
常緑針葉樹林		チョウ目	0.04	-	-		
		カジリムシ目（咀嚼目）	-	-	0		
		バッタ目（直翅目）	0.11	0.13	-		
		カメムシ目（半翅目）	0.24	0.15	0.31		
		シリアゲムシ目（長翅目）	0	-	-		
		ハエ目（双翅目）	0.21	0.26	0		
		コウチュウ目（鞘翅目）	0.90	0.04	0.08		
		ハチ目（膜翅目）	0.10	0.04	0		
		総捕獲量 (mg/m ²)	1.60	0.61	0.39		
		総捕獲量 (g/ha)	16.00	6.10	3.90		
竹林		チョウ目	1.85	-	-		
		カメムシ目（半翅目）	-	2.15	-		
		ハエ目（双翅目）	5.35	0	0		
	コウチュウ目（鞘翅目）	0.10	0	0			
	ハチ目（膜翅目）	0	0	0			
	総捕獲量 (mg/m ²)	7.3	2.15	0			
	総捕獲量 (g/ha)	73.00	21.50	0			

予測結果・評価の概要

イ. 生息個体数への影響

調査地域及び対象地域実施区域において、繁殖期の春季では概ね2個体が影響を受け、夏季には概ね3個体が影響を受ける。個体数が最も多い非繁殖期である秋季で概ね9個体が影響を受け、冬季では概ね2個体が影響を受ける。これは全季を通じて対象事業実施区域に生息する個体の10%以下である。

以上のことから、シジュウカラへの影響は少ないものと予測する。

ロ. 餌資源への影響

対象事業実施区域における繁殖期の餌動物の現存量は、事業実施前は360.24kg（餌動物344.78kg、餌動物（採集調査）15.46kgの合計）であるが、事業実施後には347.83kg（餌動物333.32kg、餌動物（採集調査）14.51kgの合計）となり、12.41kg減少する。また、非繁殖期では餌動物は937.30kgであるが、事業実施後には909.50kgとなり、餌動物は27.80kg減少する。

また、対象事業実施区域における繁殖期の餌植物の現存量は、事業実施前は14,792.64kgであるが、事業実施後には14,464.56kgとなり、328.08kg減少する。なお、非繁殖期では餌植物は4,118.11kgであるが、事業実施後には3,918.00kgとなり、餌植物は200.11kg減少する。

シジュウカラ成鳥1個体が1日に必要な餌動物の現存量は、餌動物の乾燥重量1gあたりのエネルギー量から試算すると1.46gとなる。繁殖期である5月～7月までの間の92日間では134.32gとなる。また、1羽（個体）の雛が育つのに必要な餌量は乾燥重量で平均11.25gが必要であることが報告されている。1巣あたりの卵数は7～10個であることから、最大10個体の雛が育つと考えれば、繁殖期に必要な餌量は以下に示すとおり、成鳥2個体（1つがい）と雛10個体で381.14gとなる。

対象事業実施区域の繁殖期の主な餌となる餌動物量360.24kgは、945.16つがいの繁殖に必要な餌量に相当する。事業実施により減少する繁殖期の餌量12.41kgは32.56つがいの繁殖に必要な餌量に相当する。

一方、現地調査で推定された対象事業実施区域のシジュウカラの個体数春季65.10個体、夏季92.44個体、秋季174.24個体、冬季55.62個体であり、文献その他の資料（表8.1.4-58の文献番号②）で一夫一妻とされていることから、繁殖期後半の夏季の推定個体数を基準とすれば42つがい繁殖すると思われる。

対象事業実施区域には945.16つがいの繁殖に必要な餌量が存在する。事業実施により、そのうち32.56つがい分の餌量が減少するが912.60つがい分の餌量が残存する。対象事業実施区域に生息するシジュウカラは42つがいであることから、事業実施後も繁殖に必要な十分な餌量が残存しており、事業による餌量の損出の影響は少ないものと考えられる。

以上のことから、シジュウカラの餌資源への影響は少ないものと予測する。

表 10-3(29) 工事中資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目		講じようとする環境保全措置				
生態系	(調査結果の概要)					
	調査項目	調査結果				
	餌量	餌動物(採集調査)の調査結果(2)				
		環境類型区分	目名	繁殖期 5月	非繁殖期 8月 10月	
		草 地	チョウ目	0.11	0.09	0.61
			トンボ目(蜻蛉目)	-	0.42	-
			カマキリ目(螳螂目)	0.07	-	-
			ハサミムシ目(革翅目)	0.18	-	-
			チャタテムシ目	0	-	-
			アザミウマ目	0	-	-
			バッタ目(直翅目)	5.06	10.71	-
			ナナフシ目(竹節虫目)	0.08	-	-
			カメムシ目(半翅目)	1.38	1.42	0.55
			ハエ目(双翅目)	0.97	0.74	0.19
			コウチュウ目(鞘翅目)	0.83	1.8	0.89
	ハチ目(膜翅目)		2.1	0.17	0.75	
	トビケラ目(毛翅目)		-	-	0	
			総捕獲量 (mg/m ²)	10.78	15.35	2.99
		総捕獲量 (g/ha)	107.80	153.50	29.90	
		調査地域合計(kg)	27.07	21.84	7.22	
		対象事業実施区域合計(kg)	15.46	13.43	4.15	

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

(空白)

表 10-3(30) 工事用資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目		講じようとする環境保全措置							
生態系	(調査結果の概要)								
	調査項目	調査結果							
	餌量	餌植物(落下種子)の調査結果(1)							
	環境 類型 区分	種名	繁殖期			非繁殖期			
			5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
	常緑 広葉 樹林	ヒノキ	-	18.67	-	-	-	-	-
		シラカシ	-	-	-	10,346.67	13,685.33	12,687.33	4,087.67
		キブシ	-	-	7.67	-	-	-	-
		カエデ属	-	3.67	0.67	-	-	-	-
		ミズキ	-	-	-	-	2.67	-	-
総落下 種子量 (mg/m ²)		30.68			40,809.67				
総落下 種子量 (kg/ha)		0.31			408.10				
落葉 広葉 樹林	ヒノキ	-	-	0.50	-	-	-	0.17	
	サクラ属	8,720.34	10,146.34	106.84	0.00	0.84	29.84	1.84	
	シラカシ	-	-	-	1,333.50	-	369.67	479.34	
	コナラ	-	-	-	-	-	-	206.67	
	サワグルミ	-	-	-	-	-	12.00	-	
	イヌシデ	-	0.50	0.00	-	-	-	-	
	キブシ	-	4.67	14.50	-	-	-	-	
	カエデ属	-	3.67	1.84	1.84	1.50	2.50	-	
	ミズキ	-	-	-	87.50	-	-	-	
	モクセイ科	-	-	333.34	-	-	-	-	
	総落下 種子量 (mg/m ²)	19,332.54			2,527.21				
総落下 種子量 (kg/ha)	193.33			25.27					
常緑 針葉 樹林	ヒノキ	34.92	23.08	20.25	38.33	1.92	7.58	56.33	
	スギ	18.58	0.67	-	0.33	-	-	-	
	アケビ属	-	-	-	-	-	5.83	-	
	サクラ属	-	-	-	-	-	7.33	7.33	
	オオバヤシ ヤブシ	-	-	-	-	-	0.00	0.00	
	スミレ科	-	6.83	-	-	-	-	-	
	ミズキ	-	-	-	23.75	17.75	-	-	
	総落下 種子量 (mg/m ²)	104.33			166.48				
	総落下 種子量 (kg/ha)	1.04			1.67				

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

(空白)

表 10-3(31) 工事用資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目		講じようとする環境保全措置							
生態系	(調査結果の概要)								
	調査項目	調査結果							
	餌量	餌植物（落下種子）の調査結果(2)							
	環境 類型 区分	種名	繁殖期			非繁殖期			
			5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
	竹林	ヒノキ	1.00	1.00	-	-	-	-	0.33
		スギ	-	1.33	-	14.00	3.67	-	16.00
		ミズキ	-	-	-	11.00	-	-	-
		総落下 種子量 (mg/m ²)	3.33			45.00			
		総落下 種子量 (kg/ha)	0.03			0.45			
草地	ヒノキ	8.67	16.53	7.13	5.47	1.27	4.13	3.27	
	スギ	0.27	6.20	15.60	2.60	1.07	1.47	0.67	
	サネカズ ラ	-	-	-	-	-	-	1.73	
	ゲッケイ ジュ	-	-	5.67	-	11.33	-	-	
	チカラシ バ	-	-	-	-	-	-	-	
	サクラ属	-	1.27	-	-	0.13	13.67	-	
	シラカシ	-	-	-	-	-	-	62.20	
	ヒユ科	-	0.47	-	-	-	-	-	
	ミズキ	-	-	-	0.73	-	-	-	
	キク科	-	-	-	-	-	-	-	
	総落下 種子量 (mg/m ²)	61.81			109.74				
	総落下 種子量 (kg/ha)	0.62			1.10				
調査地域合計 (kg)	28,708.95			6,543.92					
対象事業実施区 域合計(kg)	14,792.64			4,118.11					

(評価の概要)

シジュウカラを典型性の指標とする地域を特徴づける生態系への工事用資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在に伴う影響については、調査及び予測の結果、生態系注目種シジュウカラへの影響が事業者の実行可能な範囲でできる限り緩和され、環境保全についての配慮が適正になされていると評価する。

表 10-3(32) 工事中資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	講じようとする環境保全措置																																																																
生態系	(調査結果の概要) ⑥ 典型性注目種 (ニホンジカ)																																																																
	調査項目	調査結果																																																															
	生息状況	<p>ニホンジカは全ての調査ルートで生息が確認されており調査範囲内で広く生息していることがわかった。また、確認形態を目視のみに限定し類型区分別にみると、草地、常緑針葉樹林で多く確認されていることからそれらが主要な生息環境となっていると考えられる。</p> <p style="text-align: center;">ニホンジカ調査ルート別確認例数</p> <table border="1" data-bbox="608 546 1307 1137"> <thead> <tr> <th rowspan="2">ルート</th> <th colspan="4">調査期</th> </tr> <tr> <th>春季</th> <th>夏季</th> <th>秋季</th> <th>冬季</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>R1</td><td>7</td><td>1</td><td>5</td><td>3</td></tr> <tr><td>R2</td><td>1</td><td>1</td><td></td><td>2</td></tr> <tr><td>R3</td><td></td><td></td><td>8</td><td>2</td></tr> <tr><td>R4</td><td>2</td><td></td><td></td><td>3</td></tr> <tr><td>R5</td><td></td><td></td><td>4</td><td></td></tr> <tr><td>R6</td><td>4</td><td></td><td></td><td>4</td></tr> <tr><td>R7</td><td>3</td><td></td><td>3</td><td>2</td></tr> <tr><td>R8</td><td>7</td><td>4</td><td>2</td><td>8</td></tr> <tr><td>R9</td><td>6</td><td>4</td><td>1</td><td>1</td></tr> <tr><td>R10</td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>9</td></tr> <tr><td>R11</td><td>8</td><td>6</td><td>9</td><td>3</td></tr> </tbody> </table>	ルート	調査期				春季	夏季	秋季	冬季	R1	7	1	5	3	R2	1	1		2	R3			8	2	R4	2			3	R5			4		R6	4			4	R7	3		3	2	R8	7	4	2	8	R9	6	4	1	1	R10		1	2	9	R11	8	6	9
ルート	調査期																																																																
	春季	夏季	秋季	冬季																																																													
R1	7	1	5	3																																																													
R2	1	1		2																																																													
R3			8	2																																																													
R4	2			3																																																													
R5			4																																																														
R6	4			4																																																													
R7	3		3	2																																																													
R8	7	4	2	8																																																													
R9	6	4	1	1																																																													
R10		1	2	9																																																													
R11	8	6	9	3																																																													
生息環境	<p>調査地域内の各環境類型区分の面積は下表のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">調査地域、対象事業実施区域の環境類型区分の面積</p> <table border="1" data-bbox="517 1319 1398 1639"> <thead> <tr> <th rowspan="2">環境類型区分</th> <th colspan="2">占有面積 (ha)</th> </tr> <tr> <th>調査地域</th> <th>対象事業実施区域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>常緑広葉樹林</td><td>3.72</td><td>3.72</td></tr> <tr><td>落葉広葉樹林</td><td>144.07</td><td>74.20</td></tr> <tr><td>常緑針葉樹林</td><td>758.06</td><td>387.87</td></tr> <tr><td>竹林</td><td>20.46</td><td>10.78</td></tr> <tr><td>草地</td><td>103.37</td><td>67.55</td></tr> <tr><td>その他</td><td>61.77</td><td>23.59</td></tr> </tbody> </table>		環境類型区分	占有面積 (ha)		調査地域	対象事業実施区域	常緑広葉樹林	3.72	3.72	落葉広葉樹林	144.07	74.20	常緑針葉樹林	758.06	387.87	竹林	20.46	10.78	草地	103.37	67.55	その他	61.77	23.59																																								
環境類型区分	占有面積 (ha)																																																																
	調査地域	対象事業実施区域																																																															
常緑広葉樹林	3.72	3.72																																																															
落葉広葉樹林	144.07	74.20																																																															
常緑針葉樹林	758.06	387.87																																																															
竹林	20.46	10.78																																																															
草地	103.37	67.55																																																															
その他	61.77	23.59																																																															

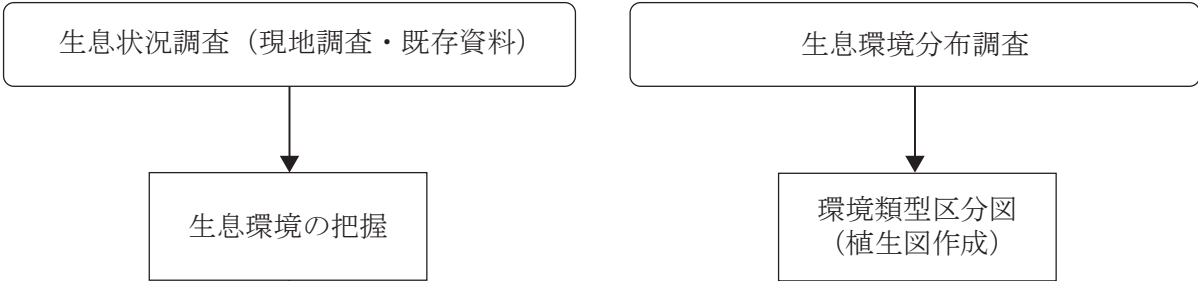
予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

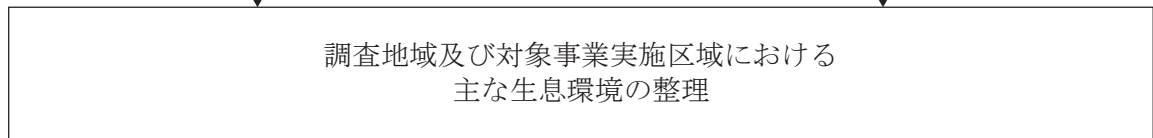
(5) 典型性注目種 (ニホンジカ)

①ニホンジカへの影響予測手順

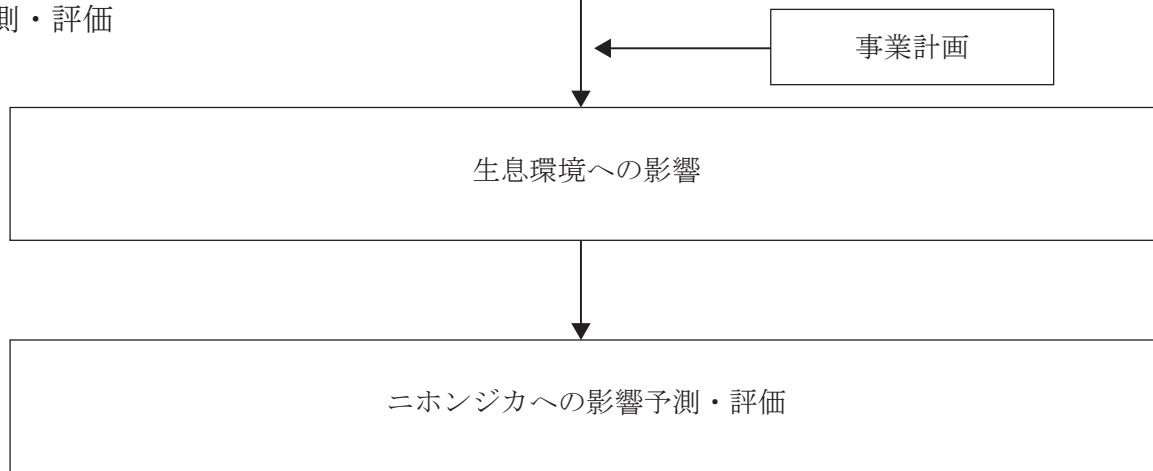
調査



解析



予測・評価



予測結果・評価の概要

イ. 生息環境への影響

事業実施により10.08haの常緑針葉樹林及び6.91haの草地が消失し、これは調査地域における常緑針葉樹林面積の1.3%、草地面積の6.7%に該当する。対象事業実施区域では常緑針葉樹林面積の2.6%、草地面積の10.2%に該当する。

事業実施により消失する割合は常緑針葉樹林が3%未満、草地環境が10%程度であり、同様の環境は周辺部にも広く分布すること、保安伐採後は萌芽更新に任せることで従来の樹林地に近づくこととなり、影響は一時的であると考えられること、一方で、保安伐採により、一時的に採餌場となる草地が創出されることから、ニホンジカの生息環境への影響は少ないものと予測する。

(評価の概要)

ニホンジカを上位性の指標とする地域を特徴づける生態系への工事中資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在に伴う影響については、調査及び予測の結果、生態系注目種ニホンジカへの影響が事業者の実行可能な範囲でできる限り緩和され、環境保全についての配慮が適正になされていると評価する。

表 10-3(34) 工事用資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	講じようとする環境保全措置																																																																																								
生態系	(調査結果の概要) ⑥ 典型性注目種 (ホオジロ)																																																																																								
	調査項目	調査結果																																																																																							
	生息状況	<p>ホオジロの確認数から成鳥の生息密度 (個体/ha) を季別に算出し、調査地域及び対象事業実地区域におけるホオジロの生息個体数を求めた。</p> <p>繁殖期にあたる春季は対象事業実施区域で121.75個体 (調査地域では220.67個体)、夏季は対象事業実施区域で52.60個体 (調査地域では97.55個体) であった。また、非繁殖期にあたる秋季は対象事業実施区域で67.68個体 (調査地域では119.85個体)、冬季は対象事業実施区域で47.25個体 (調査地域では80.19個体) であった。</p> <p style="text-align: center;">環境類型区分別ホオジロの季節別推定生息個体数</p> <table border="1" data-bbox="523 611 1390 1317"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="3">調査地点</th> <th colspan="4">確認時期</th> </tr> <tr> <th colspan="2">繁殖期</th> <th colspan="2">非繁殖期</th> </tr> <tr> <th>春季</th> <th>夏季</th> <th>秋季</th> <th>冬季</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">調査地域</td> <td>常緑広葉樹林</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>落葉広葉樹林</td> <td>10.08</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>21.61</td> </tr> <tr> <td>常緑針葉樹林</td> <td>136.45</td> <td>60.64</td> <td>45.48</td> <td>15.16</td> </tr> <tr> <td>竹林</td> <td>6.96</td> <td>6.96</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>草地</td> <td>64.09</td> <td>23.78</td> <td>58.92</td> <td>43.42</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>3.09</td> <td>6.18</td> <td>15.44</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td>220.67</td> <td>97.55</td> <td>119.85</td> <td>80.19</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">対象事業実施区域</td> <td>常緑広葉樹林</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>落葉広葉樹林</td> <td>5.20</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> <td>11.13</td> </tr> <tr> <td>常緑針葉樹林</td> <td>69.82</td> <td>30.03</td> <td>23.28</td> <td>7.75</td> </tr> <tr> <td>竹林</td> <td>3.67</td> <td>3.67</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>草地</td> <td>41.88</td> <td>15.54</td> <td>38.50</td> <td>28.37</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1.18</td> <td>2.36</td> <td>5.90</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td>121.75</td> <td>52.60</td> <td>67.68</td> <td>47.25</td> </tr> </tbody> </table>	調査地点		確認時期				繁殖期		非繁殖期		春季	夏季	秋季	冬季	調査地域	常緑広葉樹林	0.00	0.00	0.00	0.00	落葉広葉樹林	10.08	0.00	0.00	21.61	常緑針葉樹林	136.45	60.64	45.48	15.16	竹林	6.96	6.96	0.00	0.00	草地	64.09	23.78	58.92	43.42	その他	3.09	6.18	15.44	0.00	合計		220.67	97.55	119.85	80.19	対象事業実施区域	常緑広葉樹林	0.00	0.00	0.00	0.00	落葉広葉樹林	5.20	0.00	0.00	11.13	常緑針葉樹林	69.82	30.03	23.28	7.75	竹林	3.67	3.67	0.00	0.00	草地	41.88	15.54	38.50	28.37	その他	1.18	2.36	5.90	0.00	合計		121.75	52.60	67.68
調査地点		確認時期																																																																																							
		繁殖期			非繁殖期																																																																																				
		春季	夏季	秋季	冬季																																																																																				
調査地域	常緑広葉樹林	0.00	0.00	0.00	0.00																																																																																				
	落葉広葉樹林	10.08	0.00	0.00	21.61																																																																																				
	常緑針葉樹林	136.45	60.64	45.48	15.16																																																																																				
	竹林	6.96	6.96	0.00	0.00																																																																																				
	草地	64.09	23.78	58.92	43.42																																																																																				
	その他	3.09	6.18	15.44	0.00																																																																																				
合計		220.67	97.55	119.85	80.19																																																																																				
対象事業実施区域	常緑広葉樹林	0.00	0.00	0.00	0.00																																																																																				
	落葉広葉樹林	5.20	0.00	0.00	11.13																																																																																				
	常緑針葉樹林	69.82	30.03	23.28	7.75																																																																																				
	竹林	3.67	3.67	0.00	0.00																																																																																				
	草地	41.88	15.54	38.50	28.37																																																																																				
	その他	1.18	2.36	5.90	0.00																																																																																				
合計		121.75	52.60	67.68	47.25																																																																																				
生息環境	<p>調査地域内の各環境類型区分の面積は下表のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">調査地域、対象事業実施区域の環境類型区分の面積</p> <table border="1" data-bbox="595 1451 1318 1839"> <thead> <tr> <th rowspan="2">環境類型区分</th> <th colspan="2">占有面積 (ha)</th> </tr> <tr> <th>調査地域</th> <th>対象事業実施区域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常緑広葉樹林</td> <td>3.72</td> <td>3.72</td> </tr> <tr> <td>落葉広葉樹林</td> <td>144.07</td> <td>74.20</td> </tr> <tr> <td>常緑針葉樹林</td> <td>758.06</td> <td>387.87</td> </tr> <tr> <td>竹林</td> <td>20.46</td> <td>10.78</td> </tr> <tr> <td>草地</td> <td>103.37</td> <td>67.55</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>61.77</td> <td>23.59</td> </tr> </tbody> </table>		環境類型区分	占有面積 (ha)		調査地域	対象事業実施区域	常緑広葉樹林	3.72	3.72	落葉広葉樹林	144.07	74.20	常緑針葉樹林	758.06	387.87	竹林	20.46	10.78	草地	103.37	67.55	その他	61.77	23.59																																																																
環境類型区分	占有面積 (ha)																																																																																								
	調査地域	対象事業実施区域																																																																																							
常緑広葉樹林	3.72	3.72																																																																																							
落葉広葉樹林	144.07	74.20																																																																																							
常緑針葉樹林	758.06	387.87																																																																																							
竹林	20.46	10.78																																																																																							
草地	103.37	67.55																																																																																							
その他	61.77	23.59																																																																																							

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

(6) 典型性注目種 (ホオジロ)

①ホオジロへの影響予測手順

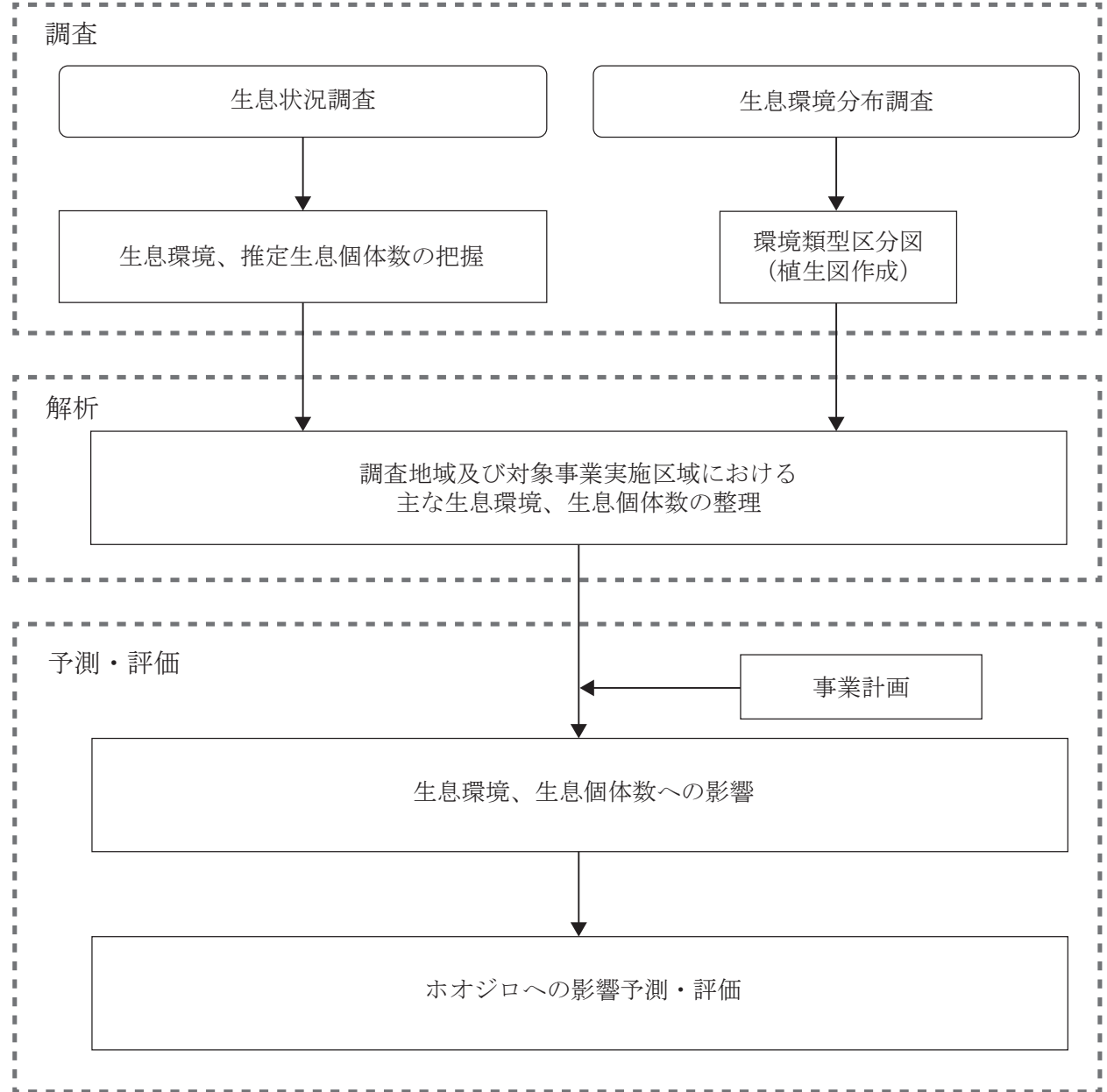


表 10-3(35) 工事用資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	講じようとする環境保全措置
生態系	<p>(調査結果の概要)</p> <p>(空白)</p>

予測結果・評価の概要

イ. 生息個体数への影響

調査地域及び対象地域実施区域において、個体数が最も多い春季で概ね6個体が影響を受け、また夏季には概ね3個体が影響を受ける。非繁殖期の秋季では概ね5個体が影響を受け、冬季では概ね3個体が影響を受ける。これは全季を通じて対象事業実施区域に生息する個体の10%以下であり、事業実施により影響を受ける個体は少ないことから、ホオジロへの影響は少ないものと予測する。

(評価の概要)

ホオジロを典型性の指標とする地域を特徴づける生態系への工事用資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在に伴う影響については、調査及び予測の結果、生態系注目種ホオジロへの影響が事業者の実行可能な範囲でできる限り緩和され、環境保全についての配慮が適正になされていると評価する。

表 10-3(36) 工事中資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目	講じようとする環境保全措置																																																																															
生態系	(調査結果の概要) ⑧ 典型性注目種 (エンマコオロギ)																																																																															
	調査項目	調査結果																																																																														
	生息状況	<p>エンマコオロギの確認個体数は、草地環境の中でも水田雑草群落や畑地雑草群落のような耕作地が見られる環境では全ての調査ルートで生息が確認されており主要な生息環境となっていると考えられる。このほかススキ群集や雑草群落など既存知見と同様、草地環境が当該地域における本種の生息場所として機能していると判断できる。</p> <p style="text-align: center;">エンマコオロギ調査ルート別確認個体数</p> <table border="1" data-bbox="523 539 1393 1323"> <thead> <tr> <th rowspan="2">調査ルート</th> <th rowspan="2">主な植生</th> <th colspan="4">調査時期</th> </tr> <tr> <th>早春季</th> <th>春季</th> <th>夏季</th> <th>秋季</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R1</td> <td>アカシデーイヌシデ群落 (V)、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R2</td> <td>アカシデーイヌシデ群落 (V)、イロハモミジ・ケヤキ群集、ウラジログシ二次林、スギ・ヒノキ・サワラ植林</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>イロハモミジ・ケヤキ群集、クヌギ・コナラ群集、アカシデーイヌシデ群落 (VII)、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、路傍・空地雑草群落</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>ススキ群団 (VII)、シバ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、伐採跡地群落</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R5</td> <td>オニシバリ・コナラ群集、ツルヨシ群集、水田雑草群落、緑の多い住宅地</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>R6</td> <td>ウラジログシ二次林、クヌギ・コナラ群集、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>R7</td> <td>ツルヨシ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、緑の多い住宅地</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>R8</td> <td>オニシバリ・コナラ群集、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、モミ植林、竹林、緑の多い住宅地</td> <td></td> <td></td> <td>5</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R9</td> <td>オニシバリ・コナラ群集、チガヤ・ススキ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、伐採跡地群落、竹林</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>R10</td> <td>路傍・空地雑草群落、畑雑草群落、緑の多い住宅地</td> <td></td> <td></td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R11</td> <td>イロハモミジ・ケヤキ群集、ススキ群団、スギ・ヒノキ・サワラ植林、緑の多い住宅地</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>				調査ルート	主な植生	調査時期				早春季	春季	夏季	秋季	R1	アカシデーイヌシデ群落 (V)、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林					R2	アカシデーイヌシデ群落 (V)、イロハモミジ・ケヤキ群集、ウラジログシ二次林、スギ・ヒノキ・サワラ植林					R3	イロハモミジ・ケヤキ群集、クヌギ・コナラ群集、アカシデーイヌシデ群落 (VII)、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、路傍・空地雑草群落			2	1	R4	ススキ群団 (VII)、シバ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、伐採跡地群落					R5	オニシバリ・コナラ群集、ツルヨシ群集、水田雑草群落、緑の多い住宅地			1	3	R6	ウラジログシ二次林、クヌギ・コナラ群集、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林			2	1	R7	ツルヨシ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、緑の多い住宅地				2	R8	オニシバリ・コナラ群集、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、モミ植林、竹林、緑の多い住宅地			5		R9	オニシバリ・コナラ群集、チガヤ・ススキ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、伐採跡地群落、竹林				1	R10	路傍・空地雑草群落、畑雑草群落、緑の多い住宅地			3		R11	イロハモミジ・ケヤキ群集、ススキ群団、スギ・ヒノキ・サワラ植林、緑の多い住宅地			1
調査ルート	主な植生	調査時期																																																																														
		早春季	春季	夏季	秋季																																																																											
R1	アカシデーイヌシデ群落 (V)、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林																																																																															
R2	アカシデーイヌシデ群落 (V)、イロハモミジ・ケヤキ群集、ウラジログシ二次林、スギ・ヒノキ・サワラ植林																																																																															
R3	イロハモミジ・ケヤキ群集、クヌギ・コナラ群集、アカシデーイヌシデ群落 (VII)、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、路傍・空地雑草群落			2	1																																																																											
R4	ススキ群団 (VII)、シバ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、伐採跡地群落																																																																															
R5	オニシバリ・コナラ群集、ツルヨシ群集、水田雑草群落、緑の多い住宅地			1	3																																																																											
R6	ウラジログシ二次林、クヌギ・コナラ群集、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林			2	1																																																																											
R7	ツルヨシ群集、スギ・ヒノキ・サワラ植林、緑の多い住宅地				2																																																																											
R8	オニシバリ・コナラ群集、ススキ群団 (VII)、スギ・ヒノキ・サワラ植林、モミ植林、竹林、緑の多い住宅地			5																																																																												
R9	オニシバリ・コナラ群集、チガヤ・ススキ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、伐採跡地群落、竹林				1																																																																											
R10	路傍・空地雑草群落、畑雑草群落、緑の多い住宅地			3																																																																												
R11	イロハモミジ・ケヤキ群集、ススキ群団、スギ・ヒノキ・サワラ植林、緑の多い住宅地			1	1																																																																											
生息環境	<p>調査地域内の各環境類型区分の面積は下表のとおりである。</p> <p style="text-align: center;">調査地域、対象事業実施区域の環境類型区分の面積</p> <table border="1" data-bbox="596 1585 1318 1968"> <thead> <tr> <th rowspan="2">環境類型区分</th> <th colspan="2">占有面積 (ha)</th> </tr> <tr> <th>調査地域</th> <th>対象事業実施区域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常緑広葉樹林</td> <td>3.72</td> <td>3.72</td> </tr> <tr> <td>落葉広葉樹林</td> <td>144.07</td> <td>74.20</td> </tr> <tr> <td>常緑針葉樹林</td> <td>758.06</td> <td>387.87</td> </tr> <tr> <td>竹林</td> <td>20.46</td> <td>10.78</td> </tr> <tr> <td>草地</td> <td>103.37</td> <td>67.55</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>61.77</td> <td>23.59</td> </tr> </tbody> </table>				環境類型区分	占有面積 (ha)		調査地域	対象事業実施区域	常緑広葉樹林	3.72	3.72	落葉広葉樹林	144.07	74.20	常緑針葉樹林	758.06	387.87	竹林	20.46	10.78	草地	103.37	67.55	その他	61.77	23.59																																																					
環境類型区分	占有面積 (ha)																																																																															
	調査地域	対象事業実施区域																																																																														
常緑広葉樹林	3.72	3.72																																																																														
落葉広葉樹林	144.07	74.20																																																																														
常緑針葉樹林	758.06	387.87																																																																														
竹林	20.46	10.78																																																																														
草地	103.37	67.55																																																																														
その他	61.77	23.59																																																																														

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

(7) 典型性注目種 (エンマコオロギ)

①エンマコオロギへの影響予測手順

調査

生息状況調査 (現地調査・既存資料)

生息環境分布調査

生息環境の把握

環境類型区分図
(植生図作成)

解析

調査地域及び対象事業実施区域における
主な生息環境の整理

予測・評価

事業計画

生息環境への影響

エンマコオロギへの影響予測・評価

表 10-3 (37) 工事中資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在

選定項目		講じようとする環境保全措置
	生態系	(調査結果の概要)
		(空白)

予測結果・評価の概要

イ. 生息環境への影響

調査地域では事業実施により6.91haの草地環境が消失し、これは草地環境面積の6.7%に該当する。対象事業実施区域では事業実施により6.91haの草地環境が消失し、これは草地環境面積の10.2%に該当する。

事業実施により消失する草地環境の割合は全体の10%程度であり、同様の環境は周辺にも広く分布すること、また、保安伐採により草地環境は一時的に創出されることから、エンマコオロギの生息環境への影響は少ないものと予測する。

(評価の概要)

エンマコオロギを典型性の指標とする地域を特徴づける生態系への工事用資材等の搬出入、造成等の施工、送電線路の存在に伴う影響については、調査及び予測の結果、生態系注目種エンマコオロギへの影響が事業者の実行可能な範囲でできる限り緩和され、環境保全についての配慮が適正になされていると評価する。

表 10-4(1) 送電線路の存在

選定項目	講じようとする環境保全措置			
景観・風景	(調査結果の概要) 対象事業実施区域を中心とした半径約5kmの範囲内における主要な眺望点及び身近な眺望点について、文献その他の資料調査及び現地踏査を行い、15地点を選定した。その選定結果は、下表のとおりである。			
	主要な眺望景観及び身近な眺望景観の概要			
	主要な眺望点及び 身近な眺望点	方 向 距 離 景観区分	送電線路と 同時に 視認できる 景観資源	主要な眺望景観及び身近な眺望景観の概要
	西行公園	南東 1.4km 中景	—	・近中景に樹林地、遠景に富士山を眺望できる。 ・富士山の眺望方向（北東）は鉄塔設備の眺望方向（南東）と異なる。
	道の駅とみざわ	南東 3.2km 中景	—	・近景は市街地、中景は山林からなる。 ・視認可能な景観資源は見られない。
	六地藏公園	南東 5.2km 遠景	—	・近中景に樹林地、遠景に富士山を眺望できる。 ・富士山の眺望方向（北東）は鉄塔設備の眺望方向（南東）と異なる。
	白鳥山森林公園	北 3.3km 中景	—	・近中景に樹林地、遠景に富士山を眺望できる。 ・富士山の眺望方向（北東）は鉄塔設備の眺望方向（北）と異なる。
	晴海展望台 (貫ヶ岳)	北東 6.1km 遠景	—	・近中景に樹林地、遠景に富士山、駿河湾を眺望できる。 ・富士山の眺望方向（北東）の西側の視野下部に鉄塔設備の一部が視認できる。
	篠井山	南東 5.9km 遠景	白鳥山	・中景に白鳥山が、遠景に富士山、駿河湾が眺望できる。 ・鉄塔設備の眺望方向（南東）は富士山の方向（北東）とは異なるが、白鳥山、駿河湾の眺望方向の視野下部に視認できる。
	東海自然歩道 (上徳間峠)	南 1.6km 中景	—	・近中景は山林からなる。 ・視認可能な景観資源は見られない。
	東海自然歩道 (上徳間集落)	南東 1.5km 中景	—	・近景は集落、中景は山林からなる。 ・視認可能な景観資源は見られない。
	八幡一宮諏訪神社	南東 3.6km 中景	—	・近景は耕作地、中景は山林からなる。 ・視認可能な景観資源は見られない。
	南部町役場	南東 3.1km 中景	—	・近景は市街地、中景は山林からなる。 ・視認可能な景観資源は見られない。
	富士川街道 (南部町万沢越渡)	北 0.6km 近景	—	・近景は住宅地、中景は山林からなる。 ・視認可能な景観資源は見られない。
	屋敷平集落	北 3.8km 中景	—	・近景は集落、中景は山林、遠景に富士山が眺望できる。 ・富士山の眺望方向（北東）は鉄塔設備の眺望方向（北）と異なる。
南部町立 万沢小学校	北 1.5km 中景	—	・近景は住宅地、中景は山林からなる。 ・視認可能な景観資源は見られない。	
十島駅	北・西 0.7km 近景	—	・近景は住宅地、中景は山林からなる。 ・視認可能な景観資源は見られない。	
根熊山荘ファミリー オートキャンプ場	南西 0.3km 近景	—	・近中景は山林からなる。 ・視認可能な景観資源は見られない。	

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

主要な眺望景観及び身近な眺望景観

造成等の施工、送電線路の存在に伴う景観への影響については、視野全体に占める割合が小さいこと、現状から大きく変化しないこと、主要な眺望対象である富士山とは方向が異なることなどから、影響は少ないものと予測する。

以上のことから、工事の実施及び工作物の存在による景観への影響は少ないものと予測する。

表 10-4(2) 送電線路の存在

選定項目	講じようとする環境保全措置
景観・風景	<p>(講じようとする環境保全措置)</p> <p>最小化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄塔工事用地、仮設備用地の改変面積を必要最小限とする。 ・ 鉄塔周辺工事用地、仮設備用地の使用後は、地権者との協議も踏まえて原状回復する。 ・ 仮設ステージ設置により改変面積を必要最小限とする。 ・ 工事用資材等の搬入出は、既存の道路の活用や改変範囲が小さいモノレール、索道、ヘリコプターを活用する。 ・ 鉄塔の色彩は、航空法等で定める標識塗装を除き、既存鉄塔と同様の亜鉛メッキ色とする。

予測結果・評価の概要

(予測結果の概要)

(評価の概要)

主要な眺望地点からの眺望景観への影響は少ないと予測されたこと、及び左欄の一般的な環境保全措置を講じることにより、造成等の施工及び送電線路の存在に伴う景観への影響は、実行可能な範囲内で低減が図られているものと評価する。

